

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業
(大学COC事業)」

子育て支援を主軸とした
地(知)の拠点事業
「きょう育の和」

平成27年度
成果報告書

きょう育の和センター
和歌山信愛女子短期大学

はじめに

平成 25 年度に文部科学省『地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）』に採択された「子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』」は、来年度の平成 28 年度で 4 年目のシーズンに入ります。本事業の目的は、『子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する“教育”』、『地域が共に子育てに関わる社会を育む“共育”』、『世代間の循環による地域活性化を目指す“郷育”』の、3つの『きょう育』を実現し、和歌山を子育てしやすく、住みよい『和（なごみ）の街 和歌山』として活性化することです。この最終目標を達成するため、平成 25 年度・26 年度は骨格作りのホップとし、きょう育の和センターを中心に和歌山県・和歌山市との連携を深め、地域を志向した教育・研究・社会貢献活動を全学的に取り組む体制作りに努めてまいりました。その成果は、平成 25・26 年度成果報告書として取りまとめています。

今年度、平成 27 年度からの 2 年間は、肉付けのステップと位置づけています。本報告書では、平成 27 年度の成果を取りまとめました。まず、教育面では、郷土愛に溢れた人材育成のために、和歌山地域を志向した教養科目群『紀の国わかやまと世界』を開講しました。さらに、和歌山市と連携し、子育て・子育て支援施設『ふれ愛ルーム・木のおうち』を学内に開所し、教育・研究・社会貢献の新たな拠点を築いてまいりました。この子育て家庭・学生・教職員の学び合いを推進するフィールドで、学生の課題解決力やコミュニケーション力、表現力といった実践力育成を目指す、『実践的教育プログラム』が実施されています。また、この拠点を中心として形成された子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』では、ネットワーク参加団体によるイベントが本学内で開催されました。このイベントには、企画段階から多くの学生が参加し、教育面でも大きな成果を上げています。最後に、和歌山県と連携し、子育て・子育てを支援できる人材育成を目指した独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座をスタートさせ、必修科目である『地域子育て・子育て支援論』を開講しました。本講座を通して、数多くの学生が、和歌山における子育て・子育ての課題を解決するために必要な知識・技能を身につけています。

本事業の助成期間は平成 29 年度までですが、この事業はそこで終了する訳ではありません。最終年は、本学が地（知）の拠点大学として出発するスタートの年であり、これからの 2 年間は、そのためのジャンプの期間と考えています。この歩み始めた取組を着実なものにし、本事業の最終目標である『世代間の循環による地域活性化を目指す“郷育”』を成し遂げられるよう、地域の人々と共に、和歌山を再生し、活性化していく『地（知）の拠点』作りに取り組んでまいります。

和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター長
芝田 史仁

目次

| | |
|--|------------|
| はじめに..... | 1 |
| 目次..... | 2 |
| I. 事業概要と組織体制 | 3 |
| 1. 事業概要..... | 4 |
| 2. 組織体制..... | 4 |
| II. 活動報告（教育） | 7 |
| 1) 新基礎教養科目群（『紀の国わかやまと世界』を含む4領域）..... | 8 |
| 2) 独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座..... | 20 |
| 3) 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラム..... | 24 |
| 4) 地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』..... | 46 |
| III. 活動報告（研究） | 51 |
| 1) 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究..... | 52 |
| 2) 『共育の輪』ポータルサイト..... | 68 |
| 3) 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究..... | 70 |
| IV. 活動報告（社会貢献） | 85 |
| 1) 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業..... | 86 |
| 2) 『母親の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し事業』 | 118 |
| 3) 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』..... | 123 |
| 4) ミニシンポジウム..... | 125 |
| V. 活動報告（全体） | 127 |
| 1) SD／FD合同研修会..... | 128 |
| 2) 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』..... | 128 |
| 3) 広報活動..... | 136 |
| 4) COC 選定大学視察..... | 141 |
| 5) 学生・教職員・連携行政機関を対象としたアンケート調査..... | 148 |
| 6) 事業成果報告書と外部評価..... | 149 |
| 資料（協定書・規程等） | 153 |

I . 事業概要と組織体制

1. 事業概要

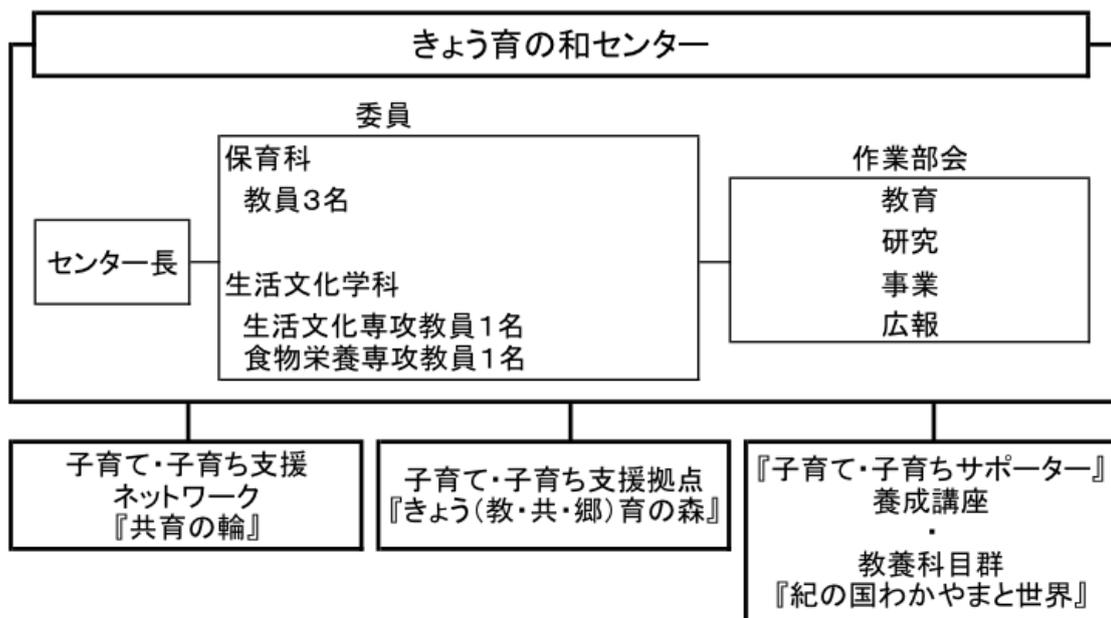
名称：子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』

概要：和歌山県における以下の3つの『きょう育』（子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する『教育』、地域が共に子育てに関わる社会を育む『共育』、教育から共育、そして郷育へ、この世代間の循環による地域活性化を目指す『郷育』）を実現し、和歌山を子育てしやすく、住みよい『和（なごみ）の街 和歌山』として活性化する試みである。この事業において、和歌山市と連携し、教育・研究・社会貢献を融合した拠点を作る一方、教養科目改革により、教育の地域志向化を促進する。さらに、和歌山県と連携し、子育てを支援できる人材育成を目指した独自の認定資格養成講座を開設するとともに、子育てを支援する機関・団体・子育て当事者をつなげるネットワークを構築するものである。

2. 組織体制

1) きょう育の和センター

学内組織として『きょう育の和センター』を設立する。本センターには、学長により任命されたセンター長・副センター長、委員が配属し、教育・研究・事業・広報の作業部会を設けている。本センターが中心となり、子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』、基礎教養科目群『紀の国わかやまと世界』、『子育て・子育てサポーター』養成講座、子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』の地（知）の拠点4事業の推進を担っている。

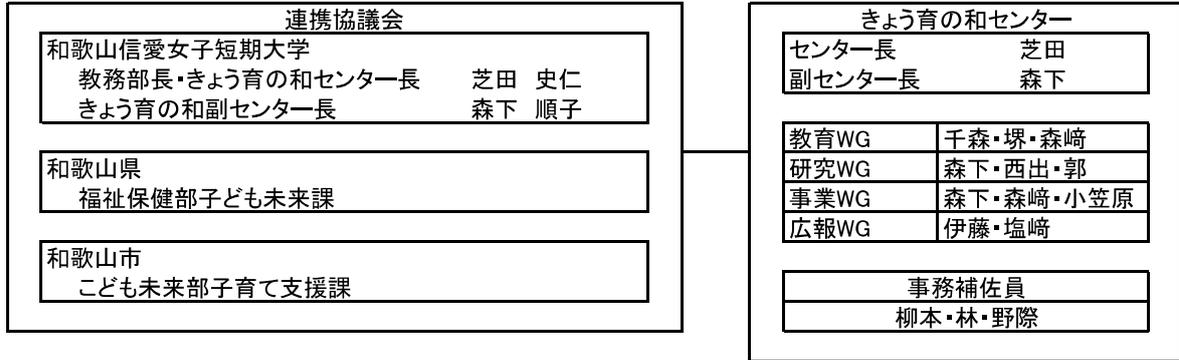


2) 連携協議会

本学きょう育の和センター長・副センター長、及び教務部長と和歌山県（子ども未来課）、和歌山市（子育て支援課）の代表からなる。本『連携協議会』を通じて、地域の声を受け止め、本学内『きょう育の和センター』で具体的計画立案・実行を行う。

2015年4月13日

子育て支援を主軸とした地(知)の拠点事業『きょう育の和』組織図

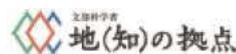


3) 外部評価委員会

本事業の適切な推進を目指し、意見交換および評価を受けるための外部評価委員会を、常任の外部評価委員3名を中心として常設する。

◎ 事業概念図

平成25年度「地（知）の拠点整備事業」 選定取組



和歌山信愛女子短期大学

連携自治体：和歌山県、和歌山市

事業名：子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』



事業の概要・目的

(地域の課題)

和歌山県・和歌山市

- 急激な人口減少と少子化
- 地域共同体の崩壊と、子育ての孤立化
- 子育てを支援する人材の不足

(課題解決のための大学の取組)

| | |
|------|--|
| 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域を志向した教養科目群「紀の国わかやま世界」の創設 ● 大学独自の認定資格「子育て・子育てサポーター」養成講座の開設 ● 子育て支援事業と連携した「実践的教育プログラム」 |
| 研究 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築のための実践的研究 ● 『子育て・子育て環境としての和歌山』を対象とした研究の奨励 |
| 貢献社会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て・子育て支援拠点『きょう(教・共・郷)育の森』の設置と支援事業の実施 |

人材育成の取組

(人材育成像)

- 以下の能力を有する人材を育成する。
- 地域の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解と郷土を愛する心
 - 地域課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップと、周囲の人々と協力できる協調性
 - 子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力
 - 高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力

課題に対する大学の取組

| | 15年度 | 26年度(予定) | 28年度(数値目標)(目標値) |
|---------------------|------|----------|-----------------|
| 地域の学びに満足する学生の割合 | 7% | 20% | 50% |
| 「子育て・子育てサポーター」認定学生数 | 0人 | 0人 | 150人 |
| 実践的教育プログラムに参加する学生数 | 30人 | 50人 | 100人 |

(目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

和歌山地域が求める人材育成のために、地域への理解と郷土愛を深める地域志向教育を行うと共に、子育て支援を中心とした地域課題解決のため、専門的知識・技能を養う実践的教育プログラムを実施する。

■ COCコア科目：1年から2年前期に、地域を志向した共通教養科目群「紀の国わかやま世界」(7科目14単位)を開講し、選択必修化(2単位卒業必修)→地域課題への理解と郷土愛を涵養する。

■ COC発展科目：「子育て・子育てサポーター養成講座」(1科目2単位必修、専門科目8単位選択)の開講→子育て・子育てを中心とした地域課題に対する問題解決力を育成する。

■ 実践的教育プログラム：2年次の「卒業研究」「生活文化ゼミ」を中心に、学生が子育て・子育て支援拠点「きょう育の森」における支援事業に参加し、子どもや保護者との関わりを通して、実践力を育成する。

※「きょう育の森」と和歌山市と連携して開設する子育て支援拠点。支援事業には、「子育て広場」と「ふれあいルーム 木のようち」がある。

(これまでの成果)

■ 地域志向教育を行う学習環境の整備：COCコア科目および発展科目等の授業を実施するため、大型教室を中心に、プロジェクター・スクリーン等の視覚機器を整備する。

■ 和歌山県との連携協議会：和歌山県との間で連携協議会を開催し、「子育て・子育てサポーター養成講座」の必修科目「地域子育て・子育て支援論」の概要や認定資格の活用方法を検討する。

■ 実践的教育プログラムの実施：子育て支援事業「子育て広場」にて、学生企画の支援プログラムを実施。

● 事例(保育科 卒業研究Ⅱ/1単位 生活文化学科 生活文化専攻 生活文化ゼミ/1単位 食物栄養専攻 卒業研究/2単位)

「実践的教育プログラム」

和歌山市と連携して行う子育て支援事業「子育て広場」において、利用者を対象とした支援プログラムを学生が企画し、実施する。

平成26年度実施プログラム：
保育科「ネイチャーゲーム森のお弁当」「教えてお母さん！」「人形劇「さるかに合戦」「白雪姫」」「ミュージックベルの演奏」生活文化学科「すてきなようちがいっぱい！！お人形といっしょにようち遊びをしてみませんか」「食べ物のかまわげ」

(卒業後の学生のイメージ)

- ① 仕事と子育てを楽しみながら、地域社会で活躍できる女性
- ② 福祉・教育の現場で子育て・子育てを支援する保育士・幼稚園教諭
- ③ 食と健康の指導を通じて、子育て・子育てを支援する栄養士
- ④ 育児と仕事の両面を支え、行政機関、NPO、NGO、ママさんサークル等で中心となって活躍する女性



(地域志向カリキュラムの特徴)

[COCコア科目]
領域「紀の国わかやま世界」:和歌山の自然・歴史・文化・暮らしを概観し、地域課題への理解と郷土愛を深める。地域に密着したテーマや、視覚教材を積極的に活用する。

[COC発展科目]
「子育て・子育てサポーター養成講座」:必修科目である「地域子育て・子育て支援論」では、授業内容の検討から講師派遣等の実施に至るまで和歌山県と連携して行い、地域の生の声を授業に反映する。

[実践的教育プログラム]
「卒業研究」「生活文化ゼミ」:少人数ゼミ形式による課題解決型学習を導入する。学生が指導教員と相談しながら、子育て支援をテーマに、主体的に学習する機会を設ける。和歌山市と連携した子育て支援事業の利用者を対象に調査・実践研究を行うと共に、その成果を報告書・学生論集にまとめ、発表する。

信愛短大と共に、子育て支援の充実を目指して



和歌山市
子ども未来部子育て支援課 課長
宮崎 久

「きょう(教・共・郷)育の和」事業は、言語連携による子育て支援を主軸とした地域の再生と活性化を目指す事業である。特に本市と連携して行われる事業、子育て・子育て支援拠点「きょう育の森」の運営においては、子育て・子育てに係わる当事者・学生・職員・団体等の学び合いの場となり、関係者によるネットワーク「共育の輪」が構築されることで和歌山市の子育て支援環境が充実するものと考えている。

「きょう(教・共・郷)育の和」で地域を学ぶ



和歌山信愛女子短期大学
保育科 2年次
宮崎 奈々

私は、地元の保育園の先生になつて信愛短大に入学しました。短大での学びを通して、本学のCOC事業「きょう(教・共・郷)育の和」に興味を持ち、子育て支援について学べるゼミを選択しました。その中で地域の子育て中の保護者や子育て支援関係の方々と話し合う機会をいただき、子育ての現状や地域課題について学ぶことができました。この学びや人とのつながりを大切に、将来社会人として地域貢献ができるよう努力したいと思います。

II. 活動報告（教育）

1) 新基礎教養科目群（『紀の国わかやまと世界』を含む4領域）

① 事業内容

教養科目を改革し、和歌山の地域的課題に取り組む、全学共通教養科目群『紀の国わかやまと世界』を創設する。教育内容に、和歌山地域の精神性・文化・歴史・自然等を盛り込むことで、世界における和歌山の特色を理解し、県民としての責任感と真の郷土愛に溢れた人材を育成する。

② 平成27年度計画

学生へのガイダンス、受講登録、授業の実施、授業評価、教員による自己評価を行う。さらに、学習成果の達成状況についてアンケート調査を行う。

③ 成果

地域を志向した基礎教養科目群『紀国わかやまと世界』7科目のうち、『紀の国の文学』『紀の国の歴史と文化』『紀の国の自然』『地域子育て・子育て支援論』『地域社会学』の5科目を開講し、合計304名の学生が受講した。



◎ 『紀の国わかやまと世界』受講登録者数

| 科目名 | 教員 | 学年 | 開講期 | 履修者数（人） | | | |
|--------------|----|----|-----|---------|----|----|-----|
| | | | | 保育 | 生文 | 食物 | 合計 |
| 紀の国の歴史と文化 | 小山 | 1年 | 後期 | 4 | 20 | 4 | 28 |
| 紀の国の文学 | 梶川 | 1年 | 後期 | 45 | 26 | 25 | 96 |
| 紀の国の自然 | 湯浅 | 1年 | 後期 | 11 | 0 | 6 | 17 |
| 地域子育て・子育て支援論 | 森下 | 1年 | 前期 | 109 | 0 | 0 | 109 |
| 地域社会学 | 伊藤 | 1年 | 後期 | 28 | 23 | 3 | 54 |

◎ 受講した学生による感想 <食物専攻栄養1年 木下奈津子さん>

どちらかと言えば歴史については関心がなく、この授業を受けるまでは、興味はありませんでした。しかし、『紀の国の歴史と文化』を受講することにより、私の家と貴志川線沿いに点在する歴史遺産や、古墳などが、身近なものとして繋がり、歴史に対して興味を持つことが出来ました。特に日前宮のご神体についての説明には、とても興味を持つことができました。これからも、自宅の近くにある伊太祁曽神社についても教わりたいと考えます。

④ 自己評価

受講後に行ったアンケート調査（n=186名）から、6割以上の学生（63.5%）が、この授業を通して「地域の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解について理解ができた」と考えていることがわかった。さらに、7割近い学生が「授業を受けて、和歌山のことが好きになった」（67.8%）と回答しており、「郷土愛の涵養」という本科目群の目的はほぼ達成できたのではないかと考えている。

◎ 学生生活の手引き



α. 基礎教養科目群

教育目標

幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育成する。

短期大学設置基準

基礎教養科目群は、こころと身体、紀の国わかやまと世界、くらしと文化、科学と環境という4領域の「基礎教養科目」と、「外国語科目」「保健体育科目」から成り立っている。そして、各領域の「ねらい」のもとに授業科目が配置されている。

カトリック・ミッションスクールとして、一人ひとりを大切にす人間愛や健康で豊かな人間性を養うとともに、地域について深く理解し郷土愛をもって社会の発展のために積極的に関わっていける人材の育成を目標とする。さらに、人々のくらしと多文化・異文化に関する知識や、自然科学と環境に関する知識や問題意識、多角的なもの見方などを身につけ幅広い視点から人間活動を理解する基礎的能力を培い、人格形成に必要な素養を磨く。

| | 「領域」 | 「ねらい」 | 配置授業科目 |
|---------------------------|----------------|---|---|
| 基礎 教養 科目 4 領域 | こころと 身体 | カトリック・ミッション スクールとして、一人ひ とりを大切にす人間 愛と、心身ともに健康で 豊かな人間性を養う | 信愛教育Ⅰ・Ⅱ 知ることと信じること こころの科学 人間関係論 |
| | 紀の国わか やまと世界 | 「紀の国わかやま」に関 する知識と、郷土愛をも って社会の発展のため に積極的に関わって いける人材を育てる | 紀の国の歴史と文化 地域経済論、紀の国の文学 紀の国の食文化 紀の国の自然 地域子育て・子育て支援論 地域社会学 |
| | くらしと 文化 | 人間のくらしや多文化・ 異文化に関する知識を育 てる | キリスト教と文化 音楽、日本国憲法 日本語演習、情報文化論 基礎演習 キャリアデザイン |
| | 科学と環境 | 自然や環境に関する知識 と情報処理力や論理的思 考力を育てる | 生活科学 自然と生物 情報処理論・演習 |
| | 外国語科目 | グローバルな視野から人 間活動を理解する基礎的 能力や想像力、コミュニ ケーションスキルを育て る | 英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 資格英語 フランス語Ⅰ・Ⅱ |
| | 保健体育科目 | 健康の維持・管理に関す る資質を育てる | 保健体育講義・実技 |

(注) 基礎教養科目の4領域にわたりバランスよく履修すること。各授業科目の開設
単位等は、『開講授業科目一覧表』一イに示されている。



◎ 学生生活の手引き

c. 開講授業科目一覧表
イ 基礎教養科目群

| 領域 | 授業科目 | 種別 | 単位数 | | 備考 |
|--------------|-------------------------|----|-----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | |
| こころと身体 | 信 愛 教 育 I | 演 | 1 | | 信愛教育Ⅰ・Ⅱを必修、領域「紀の国わかまど世界」の科目2単位を選択必修とし、合計8単位以上を修得すること。ただし、生活文化専攻は、「信愛教育Ⅰ・Ⅱ」、領域「紀の国わかまど世界」の科目2単位を含め合計10単位以上修得すること。 |
| | 信 愛 教 育 II | 〃 | 1 | | |
| | 知 る こ と と 信 じ る こ と | 講 | | 2 | |
| | こ こ ろ の 科 学 | 〃 | | 2 | |
| 紀の国わかまど世界 | 人 間 関 係 論 | 〃 | | 2 | |
| | 紀 の 国 の 歴 史 と 文 化 | 〃 | | 2 | |
| | 地 域 経 済 論 | 〃 | | 2 | |
| | 紀 の 国 の 文 学 | 〃 | 2 | 2 | |
| | 紀 の 国 の 食 文 化 | 〃 | 2 | 2 | |
| くらしと文化 | 紀 の 国 の 自 然 | 〃 | | 2 | |
| | 地 域 子 育 て ・ 子 育 ち 支 援 論 | 〃 | | 2 | |
| | 地 域 社 会 学 | 〃 | | 2 | |
| | キ リ ス ト 教 と 文 化 | 〃 | | 2 | |
| | 音 楽 | 〃 | | 2 | |
| | 日 本 国 憲 法 | 〃 | | 2 | |
| | 日 本 語 演 習 | 演 | | 2 | |
| 科学と環境 | 情 報 文 化 論 | 講 | | 2 | |
| | 基 礎 演 習 | 演 | | 1 | |
| | キ ャ リ ア デ ザ イ ン | 〃 | | 2 | |
| | 生 活 科 学 | 講 | | 2 | |
| 外国語科目 | 自 然 と 生 物 | 〃 | | 2 | |
| | 情 報 処 理 論 | 〃 | | 2 | |
| | 情 報 処 理 演 習 | 演 | | 2 | |
| | 英 語 I | 演 | 2 | 2 | |
| | 英 語 II | 〃 | | 2 | |
| | 英 語 III (海 外 研 修) | 〃 | | 1 | |
| 資 格 英 語 | 〃 | 2 | | | |
| フ ラ ン ス 語 I | 〃 | 2 | | | |
| フ ラ ン ス 語 II | 〃 | 2 | | | |
| 保健体育科目 | 保 健 体 育 講 義 | 講 | 1 | | |
| | 保 健 体 育 実 技 | 実 | 1 | | |

◎ 紀の国わかやまと世界 シラバス①

| 科目名 | | 担当者 | 単位数 | 学科 | 開講時期 | 必修選択 | | |
|-----------------|---|----------------------------|--|----|------|------|---|----------|
| 紀の国の歴史と文化 | | 小山 譽城 | 2 | 全学 | 後期 | 選択必修 | | |
| 授業の概要 | 紀の国の歴史と文化について、古代から現代までの歴史上重要な出来事や文化財を事例にあげ、紀の国の歴史と文化が、中央の歴史と文化とどのように関連するのか学習する。そのため、史料に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史と文化について幅広く理解を深める。 | | | | | | | |
| 授業の目標 | 紀の国の歴史と文化を学ぶことによって、郷土に誇りを持ち、周囲の人々にその特徴を語れるように学習する。さらに、他国の歴史と文化を尊重する姿勢と教養も身につくよう学習する。 | | | | | | | |
| 学習成果の区分 | | 学生の到達目標 | | | | | | |
| ① | 知識・理解 | 紀の国の歴史と文化について基本的な知識を理解できる。 | | | | | | |
| ② | 自己管理能力 | 学習意欲を高め、自ら学習する姿勢を持続する。 | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | |
| ⑥ | | | | | | | | |
| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 8 | 宣教師ルイス・フロイスと織田信長の紀州攻めについて学習する。 | | | | | |
| 1 | 紀の国の歴史と文化について概観し、その特徴と県民性を考察する。 | 9 | 宣教師ルイス・フロイスが報告した豊臣秀吉の紀州攻めについて学習する。 | | | | | |
| 2 | 紀の国の原始・古代について、遺跡を中心に学習する。 | 10 | 宣教師ムニョスが称賛した紀の国と城下町和歌山について学習する。 | | | | | |
| 3 | 有間皇子の謀反と牟婁の湯（白浜温泉）の関係について学習する。 | 11 | 紀州に御三家が置かれた理由と御三家の成立について考察する。 | | | | | |
| 4 | 聖武天皇が称賛した万葉時代の和歌の浦について学習する。 | 12 | 紀州藩の文化について学習する。 | | | | | |
| 5 | 世界遺産に登録された熊野三山と熊野古道について学習する。 | 13 | 幕末・維新期の紀州藩の政治について学習する。 | | | | | |
| 6 | 世界遺産に登録された高野山と町石道について学習する。 | 14 | 明治以後の紀の国の歴史について学習する。 | | | | | |
| 7 | 中世の熊野水軍と武士団湯浅党について学習する。 | 15 | 紀の国の歴史と文化について総括し、その問題点について考察する。 ※15回目終了後に期末試験を実施する。 | | | | | |
| 成績評価方法(観点別) | | | | | | | | |
| | 学習成果 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 評価の割合(%) |
| 成績評価方法 | | | | | | | | |
| 期 末 試 験 | | 70 | | | | | | 70% |
| 課 題 ・ 小 テ ス ト 等 | | | | | | | | |
| 受講態度・授業への参加度 | | 20 | 10 | | | | | 30% |
| 評 価 の 割 合 (%) | | 90% | 10% | | | | | 100% |
| 教科書【参考書】 | 授業中に適宜資料を配付する | | | | | | | |
| 準備学習の内容 | 各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。 | | | | | | | |
| 免 許 ・ 資 格 | | | | | | | | |

◎ 紀の国わかやまと世界 シラバス②

| 科目名 | | 担当者 | 単位数 | 学科 | 開講時期 | 必修選択 | |
|-----------------|--|----------------------------|--|----|------|------|----------|
| 紀の国の文学 | | 梶川 哲司 | 2 | 全学 | 後期 | 選択必修 | |
| 授業の概要 | 和歌山県に関連する文学作品を鑑賞し、その作品の舞台となった地域環境を理解する。授業はスライドを使って分かりやすく説明します。 | | | | | | |
| 授業の目標 | 和歌山県に関連する文学作品を理解し、鑑賞する力を身につけ、このことによって地域への親近性をつちかう。 | | | | | | |
| 学習成果の区分 | | 学生の到達目標 | | | | | |
| ① | 知識・理解 | 和歌山県の有する文学的風土を理解することができる。 | | | | | |
| ② | 自己管理能力 | 学習意欲を持って積極的に授業に取り組むことができる。 | | | | | |
| ③ | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | |
| ⑥ | | | | | | | |
| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 8 | 和歌の庭園『六義園（りくぎえん）』 和歌山の名所を取り入れた東京の大名庭園を鑑賞する。 | | | | |
| 1 | オリエンテーション 授業の進め方と授業全体の概要を説明する。 | 9 | 『松蔭（まつかげ）日記』 作品に描かれた六義園と和歌山の地形とを比較する。 | | | | |
| 2 | 夏目漱石の和歌山旅行 明治44年の漱石の和歌山での講演を読む。 | 10 | 中世・紀州の歌人たち 和歌山にゆかりのある西行や明恵の和歌を鑑賞する。 | | | | |
| 3 | 夏目漱石『行人（こうじん）』 小説に描かれた和歌山市内の様子を読み取る。 | 11 | 和歌山に伝わる小町伝説 小野小町に関する文芸を鑑賞する。 | | | | |
| 4 | 浄瑠璃『三十三間堂棟由来（むなぎのゆらい）』 紀州が舞台となった浄瑠璃を鑑賞する。 | 12 | 中勘助『鳥の物語〜鶴の話』 古代・天皇の和歌の浦行幸を題材にした小説を読む。 | | | | |
| 5 | 中世の紀三井寺 絵図に描かれた当時の参詣の様子を読み取る。 | 13 | 『万葉集』と和歌山（1） 和歌山と関連ある万葉歌を鑑賞し、その地域を知る。 | | | | |
| 6 | 松尾芭蕉の和歌山旅行 県内にある句碑を手がかりに芭蕉の俳句を鑑賞する。 | 14 | 『万葉集』と和歌山（2） 和歌山と関連ある万葉歌を鑑賞し、その地域を知る。 | | | | |
| 7 | 江戸時代の和歌の浦 芭蕉の師である北村季吟の和歌山旅行をたどる。 | 15 | 佐藤春夫の詩 『望郷五月歌』を鑑賞し、その詩心のルーツをさぐる。 | | | | |
| 成績評価方法（観点別） | | | | | | | |
| 学習成果 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 評価の割合（%） |
| 成績評価方法 | | | | | | | |
| 期 末 試 験 | | | | | | | |
| 課 題 ・ 小 テ ス ト 等 | | | | | | | |
| 受講態度・授業への参加度 | 25 | 25 | | | | | 50% |
| レ ポ ー ト | 25 | 25 | | | | | 50% |
| 評 価 の 割 合 （ % ） | 50% | 50% | | | | | 100% |
| 教科書【参考書】 | 使用しない。そのつど資料を配布します。 | | | | | | |
| 準備学習の内容 | 授業中に指示します。 | | | | | | |
| 免 許 ・ 資 格 | | | | | | | |

◎ 紀の国わかやまと世界 シラバス③

| 科目名 | | 担当者 | 単位数 | 学科 | 開講時期 | 必修選択 | | |
|-------------|---|----------------------|----------------------|----|------|------|---|----------|
| 紀の国の自然 | | 湯浅 永一 | 2 | 全学 | 後期 | 選択必修 | | |
| 授業の概要 | 最初に世界的な視野で自然を理解し、日本、和歌山、自分の生活している地域の自然を理解させる。次に地域別にグループに分かれ、テーマを決めて地域の調査研究を行い、発表する。 | | | | | | | |
| 授業の目標 | 学生自らきめたテーマで地域の自然を調べ発表させることで、和歌山の自然を正しく理解し、積極的に自然保護に取り組むことが出来る能力を養う。 | | | | | | | |
| 学習成果の区分 | | 学生の到達目標 | | | | | | |
| ① | 知識・理解 | 和歌山の自然を科学的に理解できる。 | | | | | | |
| ② | 自己管理能力 | 積極的に授業に参加し、自然に興味をもつ。 | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | |
| ⑥ | | | | | | | | |
| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 8 | 京都議定書について学ぶ。 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 自然保護の重要性を訴える。 | 9 | 日本と和歌山の生態系の保全について学ぶ。 | | | | | |
| 2 | 世界のバイオームと日本のバイオームについて学ぶ。 | 10 | 地域別にグループ編成、テーマを決める。 | | | | | |
| 3 | 和歌山のバイオームについて学ぶ。 | 11 | グループ別に調査研究 | | | | | |
| 4 | 日本の外来生物と和歌山の外来生物について学ぶ。 | 12 | グループ別に調査研究 | | | | | |
| 5 | 和歌山の農産物について学ぶ。 | 13 | グループ別に調査研究、発表準備 | | | | | |
| 6 | 和歌山の自然災害について学ぶ。 | 14 | グループ別に発表 | | | | | |
| 7 | 日本と和歌山の絶滅種と絶滅危惧種について学ぶ | 15 | グループ別発表をもとにまとめを行う | | | | | |
| 成績評価方法(観点別) | | | | | | | | |
| | 学習成果 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 評価の割合(%) |
| 成績評価方法 | 期末試験 | 60 | | | | | | 60% |
| | 課題・小テスト等 | 20 | | | | | | 20% |
| | 受講態度・授業への参加度 | | 20 | | | | | 20% |
| | 評価の割合(%) | 80% | 20% | | | | | 100% |
| 教科書【参考書】 | 使用しない。適宜資料を配布する。 | | | | | | | |
| 準備学習の内容 | | | | | | | | |
| 免許・資格 | | | | | | | | |

◎ 紀の国わかやまと世界 シラバス④

| 科目名 | | 担当者 | 単位数 | 学科 | 開講時期 | 必修選択 | | |
|-----------------|---|--|------------------------------|-----|------|------|---|----------|
| 地域子育て・子育て支援論 | | 森下 順子 | 2 | 保育 | 前期 | 選択必修 | | |
| 授業の概要 | 本科目は、和歌山県を中心とした地域の子育て・子育て支援について理解を深める。また子どもに関する専門的知識を身につけ、子育てを中心とした地域貢献ができる人材育成を目指す。県内で実施されている「ファミリーサポーター」講習と同等として県の認定を受けている。 | | | | | | | |
| 授業の目標 | 本学独自の認定資格「子育て・子育てサポーター」取得のための基礎的知識を身につける。また、和歌山を中心とした子育てや子育ての現状を学び、地域課題に向き合い、将来は地域のリーダーとして社会貢献ができることを目標とする。 | | | | | | | |
| 学習成果の区分 | | 学生の到達目標 | | | | | | |
| ① | 自己管理能力 | 積極的に授業に参加できる。 | | | | | | |
| ② | 子ども理解 | 子どもの発達について理解し、状況に応じて適切に対処できる。 | | | | | | |
| ③ | 総合的な学習経験と創造的な思考力 | 学習を通して子育てを取り巻く現状や課題を理解し、問題解決に向けて自ら考えることができる。 | | | | | | |
| ④ | 社会人としての態度・志向性 | 地域社会の一員としての自覚を持ち、生涯学び続ける態度が身につく。 | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | |
| ⑥ | | | | | | | | |
| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 8 | 病院への受診 | | | | | |
| 1 | 保育のこころ（子育て・子育てサポーター、子育て支援の役割と意義・子どもに寄り添う保育とは） | 9 | 病児対応と保育 緊急の対応と応急処置 | | | | | |
| 2 | 子育てをめぐる現状と取り組み・課題について 子どもの世話 | 10 | 安全と事故対応 | | | | | |
| 3 | 子どもの健やかな発達について | 11 | 子どもの世話 | | | | | |
| 4 | 子どもの発達と発達障がい | 12 | 子どもの栄養と食生活Ⅰ | | | | | |
| 5 | 子どもの豊かな育ちのための親支援 身体の発育と病気 | 13 | 子どもの栄養と食生活Ⅱ | | | | | |
| 6 | 子どもの病気（感染する病気・急を要する病気など） | 14 | 子どもの遊び | | | | | |
| 7 | 子どもの看護のポイントと家庭での工夫 | 15 | 和歌山と子育ての未来・保育サービスの充実 に向けて | | | | | |
| 成績評価方法（観点別） | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 学習成果 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 評価の割合（％） |
| 期 末 試 験 | | | 25 | 25 | | | | 50％ |
| 課 題 ・ 小 テ ス ト 等 | | | 30 | | | | | 30％ |
| 受講態度・授業への参加度 | | 10 | | | 10 | | | 20％ |
| 評 価 の 割 合 （ ％ ） | | 10％ | 55％ | 25％ | 10％ | | | 100％ |
| 教科書【参考書】 | 特に使用しない | | | | | | | |
| 準備学習の内容 | 子育て・子育てに関する社会の現状について理解しておくこと。 | | | | | | | |
| 免 許 ・ 資 格 | 子育て・子育てサポーター認定資格必修科目 | | | | | | | |

◎ 紀の国わかやまと世界 シラバス⑤

| 科目名 | | 担当者 | 単位数 | 学科 | 開講時期 | 必修選択 | | |
|-----------------|---|----------------------------|-----------------------------|----|------|------|---|----------|
| 地域社会学 | | 伊藤 宏 | 2 | 生文 | 後期 | 選択必修 | | |
| 授業の概要 | 社会学は、個人と社会の関連を研究の対象とし、社会がいかにか成り立つかを考察する学問である。この講義では、個人の誕生から関わる家族集団を出発点とし、様々な社会集団について学んでいく。その中で、特に地域社会に着目し、地域振興や防災、コミュニティのあり方などについて考察する。 | | | | | | | |
| 授業の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題に対する社会学的アプローチを理解する。 ・社会における様々な集団の特徴や問題点を理解する。 ・身近な地域社会における関わり方や役割を理解する。 | | | | | | | |
| 学習成果の区分 | | 学生の到達目標 | | | | | | |
| ① | 知識・理解 | 地域社会への学問的アプローチができるようになる。 | | | | | | |
| ② | 論理的思考力・問題解決力 | 身近な地域の問題を社会学的に捉え解決策を提案できる。 | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | |
| ⑤ | | | | | | | | |
| ⑥ | | | | | | | | |
| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 8 | 地域集団 都市化と地域社会 | | | | | |
| 1 | はじめに（個人と社会） | 9 | 地域社会の実態 産業構造の高度化の影響 | | | | | |
| 2 | 社会学とは何か その目的と、学ぶことの意義 | 10 | 地域社会の危機 地場産業の衰退と過疎 | | | | | |
| 3 | 社会集団とは何か 集団の分類 | 11 | コミュニティとは何か その必要性の見直し | | | | | |
| 4 | 基礎集団① 家族集団 | 12 | 地域振興とコミュニティ 和歌山県における町おこし | | | | | |
| 5 | 基礎集団② 家族内コミュニケーション | 13 | 災害とコミュニティ 東日本大震災後の防災対策 | | | | | |
| 6 | 基礎集団③ 友達・仲間集団 | 14 | コミュニティ・ビジネス その可能性と問題点 | | | | | |
| 7 | 機能集団 組織とはどういうものか | 15 | まとめ | | | | | |
| 成績評価方法(観点別) | | | | | | | | |
| | 学習成果 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | 評価の割合(%) |
| 成績評価方法 | | | | | | | | |
| 期 末 試 験 | | 30 | 30 | | | | | 60% |
| 課 題・小 テ ス ト 等 | | 10 | 10 | | | | | 20% |
| 受講態度・授業への参加度 | | 10 | 10 | | | | | 20% |
| | | | | | | | | |
| 評 価 の 割 合 (%) | | 50% | 50% | | | | | 100% |
| 教科書【参考書】 | 特に指定はせず、講義毎にプリントを配布する。参考文献等は適宜紹介する。 | | | | | | | |
| 準備学習の内容 | 毎回、授業終了時に与える課題にきちんと取り組むこと。 | | | | | | | |
| 免 許 ・ 資 格 | 秘書士・上級秘書士・上級秘書士（メディカル秘書）・情報処理士・上級情報処理士 選択科目 | | | | | | | |

◎ 紀の国わかやまと世界 学生向け配布資料

教養科目群「紀の国わかやまと世界」について

本学の「子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』が本格的にスタートしました。『きょう育の和』が掲げる3つの「きょう育（教育・共育・郷育）」の実現を図る一環として、今年度から教養科目が4つに再編されました。



その一つ、「紀の国わかやまと世界」がいよいよ後期から本格的に実施されます。対象は原則として各学科・専攻の1年生です。27年度後期は、月曜日の3・4限に「紀の国の歴史と文化」「紀の国の文学」「紀の国の自然」「地域社会学」の4科目が配置されています。皆さんは来年度開講分を含めて7科目から1科目を選択して学びます（**選択必修科目**）。それぞれ全学科・専攻の学生が受講することになるので、日頃は授業で一緒になることがない他の学科・専攻の学生と共に学ぶ機会にもなります。

和歌山信愛女子短期大学がある和歌山県について、より深く学び理解を深めることが目的です。

【27年度後期開講科目】

和歌山の歴史や文化を学びたい人は…

◎紀の国の歴史と文化（小山譽城）

紀の国の歴史と文化について、古代から現代までの歴史上重要な出来事や文化財を事例に挙げ、紀の国の歴史と文化が、中央の歴史と文化とどのように関連するのか学習します。そのため、史料に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史と文化について幅広く理解を深めます。

和歌山の文学について学びたい人は…

◎紀の国の文学（梶川哲司）

和歌山県に関連する文学作品を鑑賞し、その作品の舞台となった地域環境を理解します。授業はスライドを使って分かりやすく説明します。

和歌山の自然について学びたい人は…

◎紀の国の自然（湯浅永一）

最初に世界的な視野で自然を理解し、日本、和歌山、自分の生活している地域の自然を理解していきます。次に地域別にグループに分かれ、テーマを決めて地域の調査研究を行い、発表します。

和歌山の社会について学びたい人は…

◎地域社会学〔紀の国の社会〕（伊藤宏）

社会学は、個人と社会の関連を研究の対象とし、社会がいかに成り立つかを考察する学問です。この講義では、個人の誕生から関わる家族集団を出発点とし、様々な社会集団について学んでいきます。その中で、特に地域社会（和歌山県）に着目し、地域振興や防災、コミュニティの在り方などについて考えます。

◎ 授業評価アンケート

教養科目群「紀の国わかやまと世界」 授業アンケート

A. 以下について、あてはまるところに○をつけてください。

1. 所属 (保育 ・ 生文 ・ 食物)
2. 学年 (1年 ・ 2年)
3. 選択した授業科目

- ①紀の国の歴史と文化 ②紀の国の文学 ③紀の国の自然 ④紀の国の食文化
⑤地域経済論、⑥地域社会学 ⑦地域子育て・子育て支援論

B. この授業に関する以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。

| | | | | | | |
|---|---------------------------------------|-----|------|----|-------|------|
| 1 | 地域の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解について理解ができた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 2 | 地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる問題解決力が身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 3 | 地域の課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップが身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 4 | 地域を支える社会人としての責任感が身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 5 | 授業を受けて、地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 6 | 授業を受けて、和歌山のことが好きになった。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |

ご協力ありがとうございました。

◎ 授業評価アンケート集計結果

教養科目群「紀の国わかやまと世界」授業アンケート

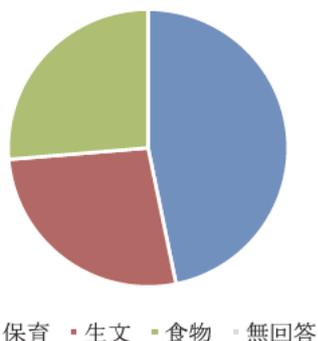
～単純集計グラフ～

2016年1月

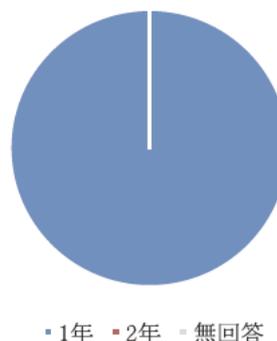
和歌山信愛女子短期大学

◆基本属性

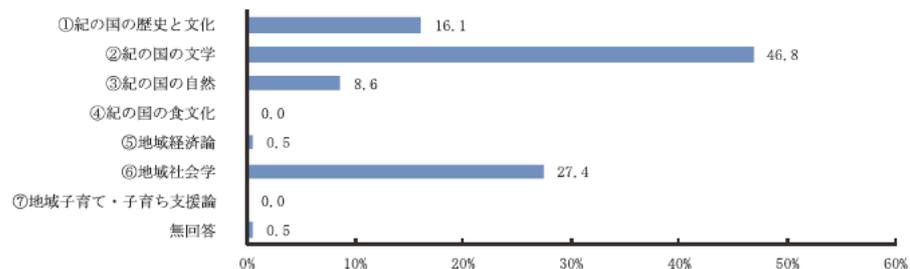
A-1 所属 (n=186)



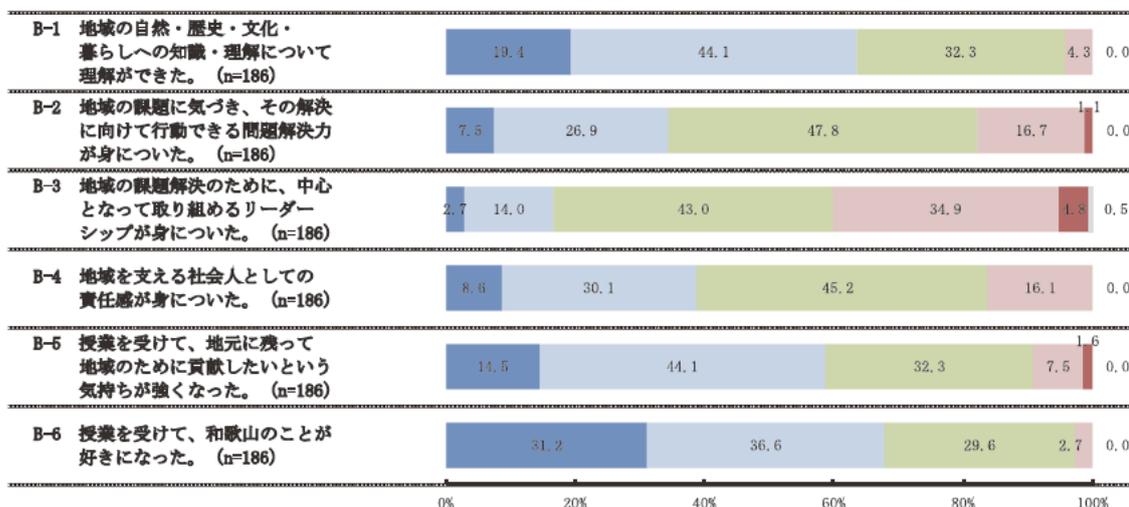
A-2 学年 (n=186)



A-3 選択した授業科目 (n=186)



◆この授業について



2) 独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座

① 事業内容

和歌山県と連携して、独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座を創設する。新設の全学共通教養科目『地域子育て・子育て支援論』と各学科・専攻が指定する専門科目を履修し、所定の単位を修めた者は、本学が『子育て・子育てサポーター』として認定する。これにより、子育て支援の基礎知識と各科独自の専門性を活かすことで、子育て当事者の「子育て」と「仕事」の両面を支えることが出来る人材育成を図る。さらに、子育て支援に理解ある人材を地域に送り出すことで、共に子育てに関わる社会の形成を目指す。本学学生と子育て支援に関わる社会人や子育て当事者を対象とし、各団体に子育て支援を行う人々の意識と知識の共有を図る。

② 平成 27 年度計画

学生へのガイダンス、受講登録、授業の実施、授業評価、教員による自己評価を行う。さらに、学習成果の達成状況についてアンケート調査を行う。また、『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』においては、社会人の受講希望者を対象に、受講料の減免処置を行う。

③ 成果

養成講座必修科目である『地域子育て・子育て支援論』は、保育科 1 年生を対象に平成 27 年度前期に開講し、109 名の学生が受講した。一方、『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』を使つての社会人の受講者は無かつた。

◎ 受講した学生の感想<保育科 1 年 寒川瑞生さん>

これまでの地域のことについて学ぶ機会が少なかつたが、授業を通して自分の住むこの和歌山について関心を持つことができた。地域の子育て社会の現状を知り、理解を深めることで、将来自分が保育者として何をしなければならぬか考えていきたい。

④ 自己評価

受講した学生を対象に行つたアンケート調査では (n=92 人)、8 割以上の学生が「和歌山県内の子育て・子育て支援の現状と課題について理解ができた」(85.8%)、「機会があれば、子育て・子育て支援に関わってみたいと思つた」(91.3%)、「授業内容は、将来自分が子育てをする時に役立つと思つた」(94.6%)「授業を受けて、地元に残つて地域のために貢献したいという気持ちが強くなつた」(81.5%)と答えており、地域を支える人材を育成するという本養成講座の目標をほぼ達成できたと考えている。

◎ 地域子育て・子育て支援論 学生配布資料

「地域子育て・子育て支援論」

年 月 日資料

1. 「子育て・子育てサポーター」とは？

子育てに関する専門的な知識・技能を有し、育児に不安を抱えた保護者に対し、地域の身近なところで相談に応じ、適切な情報を提供できる、子育て・子育てをサポートできる子育て支援者を「子育て・子育てサポーター」という。

2. 「子育て・子育てサポーター」になるためには？

和歌山信愛女子短期大学が実施する養成課程を履修し、必要な能力を習得したと認められると、「子育て・子育てサポーター」の資格（1級・2級）が認定される。

*子育て・子育てサポーター2級「地域子育て・子育て支援論」1科目2単位を取得

*子育て・子育てサポーター1級「地域子育て・子育て支援論」1科目2単位＋選択科目8単位以上取得

3. 「子育て・子育てサポーター」になれる人は？

本学学生と科目等履修生

4. 認定はだれがするの？

(1) 本学学長が「子育て・子育てサポーター」資格を認定する。

(2) 和歌山県は、本養成講座と厚生労働省が参考として示すファミリー・サポートセンターの提供会員への講習と同等として認定する。

5. 「子育て・子育てサポーター」になり何ができるの？

(1) 和歌山県内におけるファミリー・サポートセンターの提供会員として活動することができる

(ただし、各ファミリー・サポートセンターが提供する講習の内容や、本養成講座必修科目の受講状況に応じ、登録前に別途講習を必要とする場合がある)。

(2) 子育て支援センタースタッフの協力者として参加する。

(3) 未就園児の集い・つどいの広場・放課後児童事業等へのボランティアスタッフとして参加する。

(4) その他、和歌山県や県内市町村が提供する子育て支援事業に参加する。

(5) 本学の『ふれ愛ルーム木のおうち』・『子育てひろば』のスタッフの協力者として参加する。

(6) 自主活動している子育て支援グループへ協力する。

(7) 子育て支援にかかわる情報提供を促進する。

6. その他

◎ 授業評価アンケート

「地域子育て・子育て支援論」 授業アンケート

A. 以下について、あてはまるところに○をつけてください。

1. 所属 (保育 ・ 生文 ・ 食物)
2. 学年 (1年 ・ 2年)

B. この授業に関する以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。

| | | | | | | |
|---|---------------------------------------|-----|------|----|-------|------|
| 1 | 和歌山県内の子育て・子育て支援の現状と課題について理解ができた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 2 | 子育て・子育て支援を行うのに必要な基礎的な知識や技能が身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 3 | 機会があれば、子育て・子育て支援に関わってみたいと思った。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 4 | 授業内容は、将来自分が子育てをする時に役立つと思った。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 5 | 授業を受けて、地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 6 | 授業を受けて、和歌山のことが好きになった。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |

ご協力ありがとうございました。

◎ 授業評価アンケート集計結果

「地域子育て・子育て支援論」授業アンケート

～単純集計グラフ～

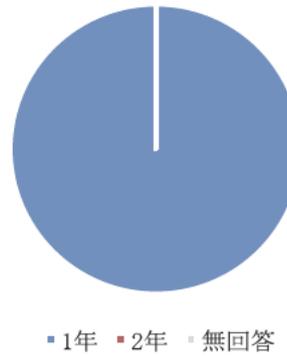
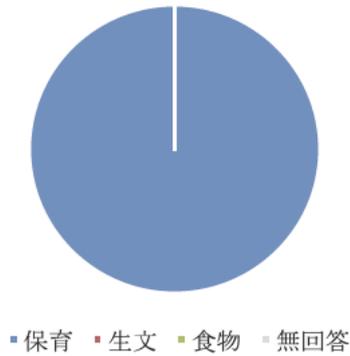
2016年1月

和歌山信愛女子短期大学

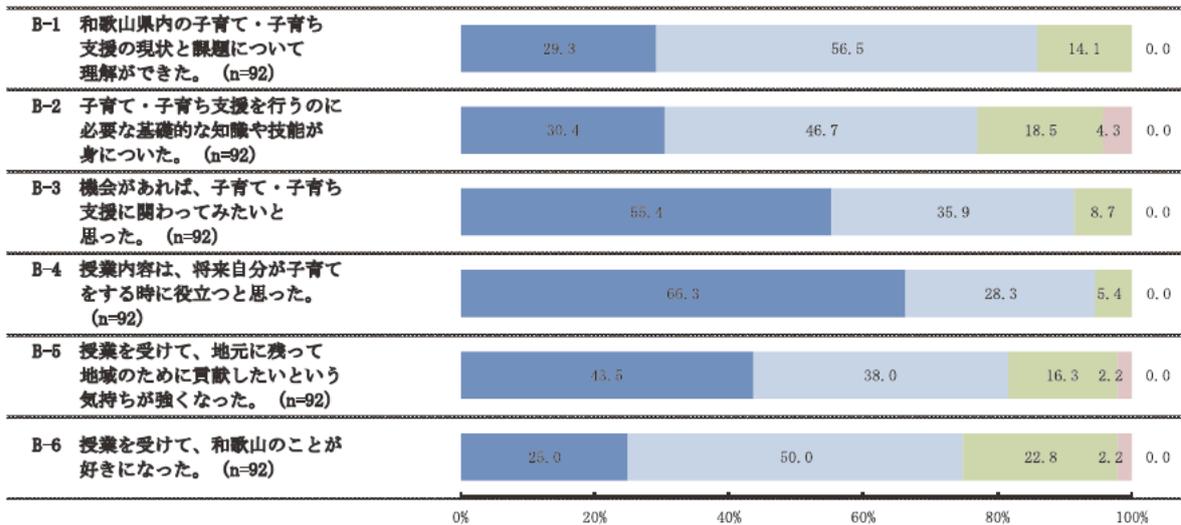
◆基本属性

A-1 所属 (n=92)

A-2 学年 (n=92)



◆この授業について



3) 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラム

① 事業内容

和歌山市と連携し、子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を設置する。学内に残る豊かな自然環境と学内施設の一部からなる、この教育・研究・社会貢献が融合した拠点を、行政、NPO・NGO、専門機関、地域、子育て当事者、学生、大学が共に子育て・子育てについて『学び合う場』とし、『人と繋がる拠点』とする。この拠点において、学生が実際に子育てに悩む保護者や子ども達と関わることで、地域の課題に真剣に向き合い、解決に向けて努力できる人材育成を目指す。

② 平成 27 年度計画

『きょう育の森』の子育て支援事業と連携し、卒業研究・生活文化ゼミを中心に少人数による課題解決型学習プログラムを行う。さらに、学習成果の達成状況についてアンケート調査を行う。

③ 成果

平成 27 年度は、アクティブラーニングの手法を取り入れた 9 件の教育プログラム（下記一覧）が実施され、110 名の学生が参加した。

◎ 教育プログラムのテーマと参加学生数

| プログラムのテーマ | 科専攻 | 教員 | 学生数 |
|----------------------------|-----|---------------------------|------|
| 乳幼児の子どもの動きについて | 保育 | 森崎 | 8 名 |
| 人形劇（ぐりとぐらのえんそく、三匹のこぶた） | 保育 | 小笠原 | 9 名 |
| ミュージックベルの演奏・絵本ミュージックシアター | 保育 | 田原 | 9 名 |
| 移行対象について | 保育 | 森定 | 9 名 |
| 行事と自然に関わる保育実践研究 | 保育 | 芝田 | 9 名 |
| 子育て支援について～保護者と共に歩む保育を目指して～ | 保育 | 森下 | 9 名 |
| 遊具を使った子どもの生活や生活空間理解調査 | 生文 | 千森 | 9 名 |
| ひのきくんを用いた空間創造力への試み | 生文 | 千森 | 7 名 |
| 美容とフルーツの関係 | 生文 | 伊藤 | 4 名 |
| 乳幼児期の「健康と食生活」に関する実態調査 | 食物 | 堺 吉田 三好 土井 西出 | 46 名 |

◎ 学生の感想 <保育科2年 雑賀美紀>

私は卒業研究で、「行事と自然にかかわる保育」について研究しました。その中で印象に残っていることは『ふれ愛ルーム木のおうち』で親子と一緒にいったお芋掘りです。サツマイモを育てるために畑を耕したり、苗に水をあげるなどの準備は大変でしたが、子どもたちが喜んでる姿を見ることができて嬉しかったです。また、保護者の方から「楽しかった」「ありがとう」などの声を掛けて頂いたり、アンケートの「非常に良かった」という回答に、やりがいを感じることができました。

◎ 学生の感想 <生活文化専攻2年 平林由理>

私達は遊びの空間について研究をしてきた。今回は檜材のピース“ひのきくん”を1000本使って自由な空間造形にチャレンジすることにした。1000本という数を最初見た時、これを全て使って積み上げられるのかが心配だった。しかし実際作業を始めると1000本の数も少なく思えた。そのくらい積み上げるのが楽しかった。ただし、積み方を考えるのは大変だった。安定感やバランスを考慮し、見た目も美しくしようと様々な角度から検証しつつ作業を進めた。結果一度も倒すことなく積み上げられた時はうれしかった。また、ひのきの香りがよく、触り心地もよかったので安心して扱えた。みんなとひとつの空間を作れて楽しかった。

◎ 学生の感想 <食物栄養専攻2年 宮本 桃恵>

四十六期生全員が地域に関する卒業研究を行うというテーマの中で、県産の食材に含まれる機能性や郷土料理の再現とその活用法、さらにCOC実践的プログラムでの偏食調査や調査発表と私達学生が全員一丸となって結果を残せたことは、とても有意義な卒業研究であったと考えます。特に調査データを基にして、偏食に対する私達の考えをパワーポイントや栄養クイズで保護者の方や子供達にお伝えできたことは、いい経験となりました。

④ 自己評価

受講した学生へのアンケート調査（n=109名）では、半数以上の学生が、「子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力が身についた」（55.1%）、「高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力が身についた」（51.4%）、「地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった」（62.4%）と答えており、「コミュニケーション力」と「実践力」を育てるといふ本事業の目的は、概ね達成されたのではないかと考えている。

◎ 実践的教育プログラム成果報告書（保育）①

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】森崎ゼミ

【タイトル】乳幼児期の遊具を使った遊びについて

ー積み木・ボール・フープ・平均台を取りあげてー

【目的】乳幼児期の子どもの遊具用いた遊びを観察し、乳幼児期の、遊びの内容と遊具を扱う動作の分析を行い、遊びに対する興味や運動機能の発達段階を理解する。

【活動報告】

子育て広場：平成27年5月9日・7月4日・9月19日11月14日（土）

参加者：恵崎ちさと・中谷伊吹・大平理奈・前北彩菜・岡澤瑞嬉・川畑莉菜・栄永有里加・
名手美早

木のおうち：平成27年10月28日・11月18日12月3日（水）

参加者：恵崎ちさと・中谷伊吹・大平理奈・前北彩菜・岡澤瑞嬉・川畑莉菜

いずれも、参加者の承諾を得、ビデオ撮影を行った。その後、遊具別に遊びの内容を取り出し、子どもの年齢別に整理を行い、考察した。また、遊具別に、遊んでいる子どもの動作を図示し、それぞれの視点から分析を行った。結果、今回使用した遊具に関しては、その遊具本来の遊び方と考えていた内容以前の段階の遊び方で子ども達が十分に満足していることが分かった。また、動作分析を行うことでこの年齢の発達段階をより深く理解できたと考える。



◎ 実践的教育プログラム成果報告書（保育）②

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】小笠原ゼミ

【タイトル】人形劇の上演

【目的】手作りの人形劇を通して、子ども達と交流をはかり、楽しさを届けるとともに、子どもが本来もっている想像力や表現力を引き出す。また、将来保育者を目指す学生が、劇の制作を行うことで自己の感性や表現力を豊かにし、工夫する力を身につける。

【活動報告】

12月19日（土）、本ゼミ生9名が制作した人形劇を、広場に参加された親子の皆さんの前で上演させて頂きました。上演した作品は、子ども達に馴染みのある中川季枝子氏の「ぐりとぐらのえんそく」と、イギリス民話「3びきのこぶた」で、学生は原作を元に、脚本、人形、小道具、効果音とすべて手作りで劇を制作しました。

劇が始まると、子ども達はとても集中して楽しそうに見入ってくれました。ぐりとぐらが、いばらに絡まった毛糸につまずいて、次々に転ぶシーンやお弁当を広げる場面では歓声があがりました。また、狼に怯えて家の中で震えるこぶたを心配そうに見つめ、舞台に近づく子どもがいました。保護者の方も音楽に合わせて体を揺らす姿がみられ、心が和むひとときを過ごしていただけたことが伝わってきました。

学生達は劇を演じ、子ども達のありのままの発言や発想に感動し、演じることに喜びを感じる事が出来ました。また、上演後、子ども達と一緒に劇を鑑賞して下さった中之島支援センターの保育士の方々からご助言を頂き、改善点も見つかりました。

今回の実践経験を通して、学生は達成感と新しい課題を得ることが出来、今後、さらに良い作品に仕上げるため努力すると思います。



◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（保育）③

【学科・専攻】保育科 2年生

【ゼミ名】田原ゼミ（指導：田原淑子）

活動1

【タイトル】ミュージックベルの演奏による音のクリスマスプレゼント

【目的】木のおうちに来られている親子の皆さんに、ミュージックベルの演奏によるクリスマスプレゼントをする。

【活動報告】

ミュージックベルの生演奏を、聴いていただくことで少しでもクリスマスの気分を味わっていただく。また学生はパフォーマンスを通じて子どもの反応を知ることや、練習やチームワークの大切さを学ぶ。

*12月14日（月）12：30～12：45 場所・・・木のおうち

*曲目 ①ジングルベル ②赤鼻のトナカイ ③星に願いを

*参加人数・・・ゼミ生9名・教員1名

木のおうちに来られているお子さんは0歳から3歳程度と年齢が低いにもかかわらず、とても静かに演奏を聴いてくれたのには驚くとともに嬉しく思った。保護者の方もミュージックベルの音色にほっと気持ちが和んでくださっているようであった。学生も良い緊張感を味わいゼミ活動への結束が強まったようであった。



活動2

【タイトル】ミュージックベルの演奏による音のクリスマスプレゼント

【目的】子育て広場に来場された親子の皆さんにクリスマス気分を味わってもらう

【活動報告】

ミュージックベルの生演奏を、聴いていただくことでクリスマスの気分を味わっていただき、心落ち着くひとときを提供する。また学生は木のおうちとは違った環境でのなかでのパフォーマンスを体験する。

*12月19日（土）11：00～11：15 場所・・・体育館

*曲目 ①ジングルベル ②赤鼻のトナカイ ③星に願いを

*参加人数・・・ゼミ生8名・教員1名

子育て広場には男性の保護者も多く来られていて、また4・5歳児くらいの少し大きいお子さんも来てくださっていた。それぞれ親子で音楽に合わせて体を揺らしたり、歌を口ずさんだりして下る方も多く、楽しい雰囲気の中での演奏となった。学生は14日の演奏よりさらにレベルアップした表現にしようという意気込みで臨みその成果がみられ、良い演奏になり達成感を感じることができた。練習や準備、段取りなど小さいことの積み重ねの大切さを実感することができ、良い体験となった。



活動3

【タイトル】絵本ミュージックシアター「おやゆびひめ」

【目的】ゼミ研究の一環として上演とアンケート調査を行う

【活動報告】

1年間かけて研究し制作してきた絵本ミュージックシアターを、実際に上演し観客の反応等確かめる。

*1月20日(水) 11:15~11:40 場所・・・音楽B教室

*参加人数・・・ゼミ生8名 教員1名

*上演演目 絵本ミュージックシアター「おやゆびひめ」

絵本ミュージックシアターは絵本の絵と音楽とナレーションを組み合わせ上演するオリジナルな表現方法である。ゼミでは画像処理、音楽作り、演奏とナレーションとの構成を自分たちが作り上げている。その到達点として上演は重要である。今回は見てもらう観客が木のおうちに来られている親子ということで、子どもの年齢が0歳から3歳くらいまでと低いため上演内容の理解が心配された。しかし、小さいお子さんは楽器の音にとっても反応がよく、保護者の方は熱心に鑑賞して下さった。(24組の親子) また保護者の方には表現についてのアンケートのご協力とともに、良い評価のコメントも寄せていただいた。とても楽しんでいただけたようでゼミ生も達成感を味わうことができた。学生の1名がインフルエンザで参加不可能になるアクシデントに見舞われたが全員の協力でなんとか上演を乗り切ることができた。



◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（保育）④

【学科・専攻】 保育科

【ゼミ名】 森定ゼミ

【タイトル】 移行対象についての保護者への調査

【目的】 乳幼児の移行対象の所持の時期や使用の方法、好きなキャラクターの使用の仕方などについて調査を行う。

【活動報告】

体育館で行われた子育て広場に参加した。保護者を対象に9人のゼミ生がインタビュー調査を行った。移行対象や子どもの好きなキャラクターについて、保護者に伺う中で、保護者との会話の経験を積むことができた。

調査対象となった子どもの人数は69人（男児28人、女児41人）であった。月齢の平均は28.1ヶ月（2歳4.1ヶ月）であった。移行対象の発現率は、73.9%（51人）であり、このうち男子は41.2%（21人）、女子は58.8%（30人）で女子の方が高かった。タオル、毛布などの一次的移行対象の発現率は25.5%（13人）、ぬいぐるみなどの二次的移行対象発現率は74.5%（38人）であった。

移行対象の開始時期の平均は、19.6ヶ月であった。タオルなどの一次的移行対象を所持している月齢の平均は19.8ヶ月（1歳7.8ヶ月）、開始の平均は4.4ヶ月、終了の平均は20.3ヶ月（1歳8.3ヶ月）であった。二次的移行対象を所持している子どもの月齢の平均は29.7ヶ月（2歳5.7ヶ月）、開始の平均は14.3ヶ月（1歳2.3ヶ月）、終了の平均は25.3ヶ月（2歳1.3ヶ月）であった。この結果から、一次的移行対象は二次的移行対象よりも早い時期に所持されることが分かった。

移行対象の具体的な例では、一次的移行対象はふわふわしたタオルや柔らかい毛布、母親の匂いのついたものが多かった。一次的移行対象の使い方として、寝る時や匂いを嗅ぐ、持ち歩くなどの使用方法が多く、母親の代理物としての慰め、落ち着かせる性質があると分かった。

ぬいぐるみなどの二次的移行対象は、ミニカーやボールなどのおもちゃ、ぽぽちゃんなどの人形、絵本が多く、遊んで自分が元気になるようなものが多く挙げられた。ぬいぐるみのキャラクターとしては、アンパンマンやしまじろう、ワンワンが人気であった。このことから、小さい頃好きになるキャラクターは共通していることが分かった。その要因としてそのキャラクターの発音のしやすさが考えられる。また、二次的移行対象の使い方と



してままごとなどで遊んだり、抱っこをしたりするなどの例が挙げられた。自由記述からは、一次的移行対象は安心感や安らぎを与える要素があることが分かった。そして、二次的移行対象は、一次的移行対象の「慰め」の機能を担いつつも、自分を元気づけてくれる「仲間」として扱われていた。

◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（保育）⑤

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】芝田ゼミ

【タイトル】行事と自然に関わる保育実践研究

【目的】行事や自然遊びを通じて、保育の実践力を身につける。

【活動報告】保育科芝田ゼミの卒業研究では、実践的教育プログラムとして「行事と自然に関わる保育」をテーマに、1年間の研究を行った。参加した学生は9名であった。保育実践の場としては、本学の子育て支援施設「ふれ愛ルーム木のおうち」を選んだ。本プログラムは、施設を利用する親子に、自分たちで企画した行事や自然と関わる保育を実践することで、保育者として必要な経験、計画力、実践力、課題解決力を身につけることを目的としている。行事としては子どもの日と、七夕祭り、自然と関わる保育では「秋のお芋掘り」、ネイチャーゲーム「森のビンゴゲーム」を企画し、実践した。

「秋のお芋掘り」は、2015年10月21日に実施した。学生が畑を耕し、苗を植え、水やりをして育てたサツマイモを、「木のおうち」の利用者親子とともに収穫した。お芋掘りには、保護者（母）25名、乳幼児28名の参加があった。学生は、子どもたちが初めて収穫するお芋や土、畑にいる様々な生き物と生き生きと関わっている姿をみて、保育における自然体験の大切さを実感することができた。また、子どもたちや保護者の方との会話を通して、保育の課題に気付くと共に、コミュニケーション力を身につけることができた。

さらに、12月9日には「木のおうち」利用者親子を対象に校内の「森の広場のびのび」にてネイチャーゲーム（森のビンゴゲーム）を行った。参加者、保護者（母）10名、乳幼児13名であった。ネイチャーゲーム「森のビンゴゲーム」は、ビンゴカードに書かれた落ち葉や木の実を森に入って探し、縦、横、ななめでビンゴを目指すというゲームである。この遊びのねらいは、自然と触れ合うなかで秋を感じ、自然のなかで遊ぶ楽しさを実感するとともに、親子や保護者間のコミュニケーションの機会を提供することでもある。学生達はこの実践を通して、子どもや保護者との関わりを深めると共に、野外活動における計画と安全確保の重要性を学ぶ良い機会となった。



◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（保育）⑥

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】森下ゼミ

【タイトル】子育て支援について～保護者と共に歩む保育を目指して～

【目的】子育ての現状を理解し、保護者と共に歩む保育者について考えを深められる。

【活動報告】

活動1

目的：アンケート作成のために文献研究後、保護者数名にヒヤリング調査を行った。

日時：平成27年5月

場所：「木のおうち」と「子育て広場」

対象：「木のおうち」、「子育て広場」に参加されている保護者数名

参加人数：森下ゼミ生9名

内容：子育てについて保護者より話を聞くとともに、保育者に対しての保護者の想いや理想について、ヒヤリングを行った。

活動2

目的：ヒヤリング調査をもとにアンケートを作成し、保護者にアンケート調査を行った。

日時：平成27年6月～7月

場所：「木のおうち」

対象：「木のおうち」参加者と「共育の輪」サークルの保護者53名

参加人数：森下ゼミ生9名

内容：「保護者が求める理想の保育者について」を中心に質問紙によるアンケート調査を行った。



活動3

目的：アンケート調査の結果を保護者に向けて報告した。

日時：平成 27 年 11 月 4 日

場所：「木のおうち」

対象：「木のおうち」に遊びに来られた保護者

参加人数：森下ゼミ生 9 名

内容：活動 2 で協力頂いたアンケート調査結果の報告を行った。学生は、子どもたちを見守りながら真剣に報告を聞いてくださっている保護者の姿を見て、改めて保護者支援の必要性を感じたのではないかと思う。

<学生の感想> 保育科 2 年 伊賀冨香

平成 27 年 11 月 4 日に木のおうちで、アンケートの結果を報告させていただきました。この経験を通して、保育者になるための心構えがさらにできたように思います。子どもたちが賑やかに遊び、また和やかで笑顔溢れる温かな空間で、緊張することなく無事に報告ができました。子どもたちを見守りながら真剣に報告を聞いてくださっている保護者の皆様を見て、改めて保護者支援について考えるきっかけとなりました。

「保護者の笑顔が、子どもの笑顔」「子どもの笑顔は、保護者の笑顔」と考えて一つひとつの行動を見直していきたいと思います。子どものお手本となるために社会人としてのモラルやマナーを身につけることや、誰とでも分け隔てなく笑顔で関わることのできるコミュニケーション能力を高めることが大切だと思います。それらを残りの学生生活で意識し、行動に移すことで、保育者になった時に保護者の頼れる味方、存在になるのではないかと考えました。それが、保育現場で「子育て支援」に関わるとき大きな力になると思いました。残りのゼミ研究で、保護者に寄り添える保育者になれるよう「子育て支援について」深めていきたいと思います。保護者の皆様ありがとうございました。



<アンケートのまとめ>

テーマ 「子育て支援について～保護者と共に歩む保育を目指して～」

伊賀冨香 田畑実咲 丸山梨央 山田桃花 大野祐香 河島彩華 嶋田菜月 園部榛那
林由貴 (森下ゼミ生)

【はじめに】

わが国では、核家族化や地域の崩壊等により子育ての孤立が社会問題となっている。厚生労働省による平成 24 年度の児童虐待の相談対応件数は、児童虐待防止法施行前（平成 11 年度）の 5.7 倍に増加し約 67000 件であった。そのうち主な虐待者の 57.3%が実母であった。「社会で子どもを育てる」ことが言われ始めてから 25 年経過しているが、改善に至っていないのが現状である。今年度より子ども子育て支援新制度が開始され、子育て支援の充実がより一層強化されることとなった。その中で、子育て支援の中心的担い手として、保育者に期待が寄せられている。

本研究では、保護者が求める保育者像や、保育現場における保護者支援の現状等を理解することを目的とする。それらを通して、子育て支援について理解を深め、保護者と共に歩む保育について検討する。

【研究活動】

1. スクラップ、文献研究、ゼミでの話し合い等で子育てについて現状を理解する。
2. 保護者、保育者に対するアンケート調査（平成 27 年 6 月～7 月）
3. 保護者にアンケート調査結果をポスター発表で報告（平成 27 年 11 月 4 日）
4. 保育士、保護者が共に育つ保育園「アトム共同保育園」「つばさ共同保育園」を一日体験（平成 27 年 11 月 12 日）
5. 調査報告を通して、地域の方々と子育て支援について考える（平成 27 年 12 月 13 日）

【方法】保護者、保育者に対するアンケート調査

調査日時：平成 27 年 6 月～7 月

対象者：①保育者：97 名（研修会及び研究会で保育者に協力を得た）

②保護者：53 名（木のおうちと子育てサークルの保護者に協力を得た）

【結果】

(1) 保護者に対するアンケート調査の結果

調査対象者（53 名）のうち 20 歳代 21%、30 歳代 58%、40 歳代 19%であった。保護者が保育者に求めること（図 1）は、20 歳代は「明るさ」「話しやすさ」「優しさ」、30 歳代は「優しさ」「話しやすさ」「コミュニケーション力」であった。また、「新任先生に子ど

もを預ける事に不安を感じる」(図2)と答えた保護者は30歳代のみであった。具体的に保育者に対して不安を覚えたエピソードでは、「子どもの様子を見ていない」「型通りの対応」「書類業務や準備などに追われていて、周りが見えていない」であった。

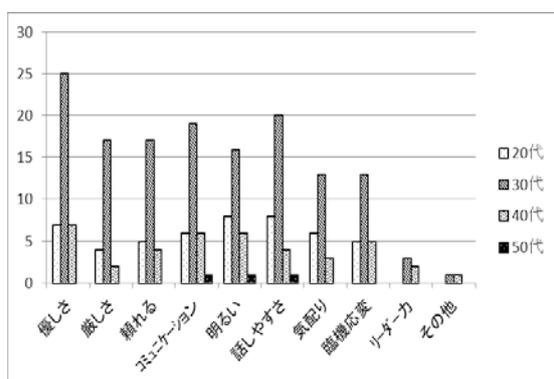


図1. 保護者が保育者に求めること

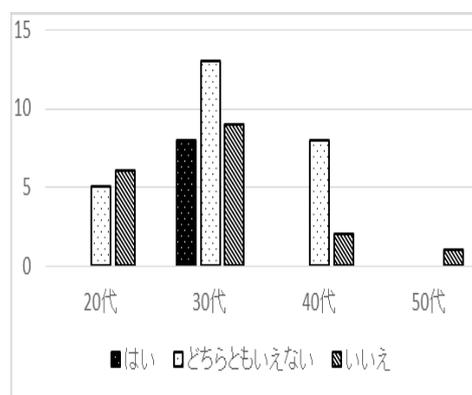


図2. 新任先生に子どもを預けることは不安ですか

(2) 保育者に対するアンケート調査の結果

保育で心がけていること(図3)では、「心の発達」「教育」「人間関係」が上位であった。新任の時に悩んでいたこと(図4)では、「保護者との人間関係」「子どもへの関わり方」「職場への人間関係」が上位であった。

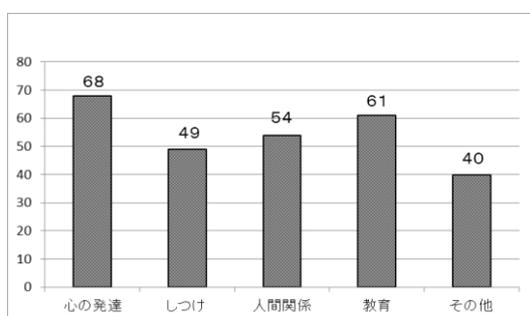


図3. 保育で心がけていること

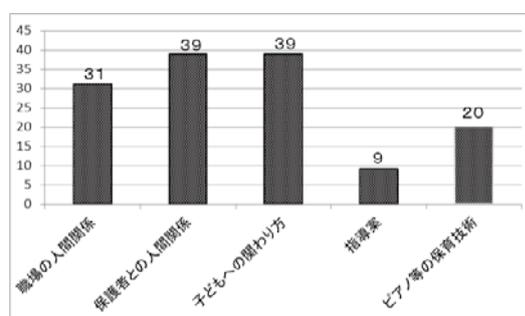


図4. 新任の時に悩んでいたこと

【考察】

本研究の結果より、保護者が保育者に求めていることは「優しさ」「話しやすさ」であった。保護者にとって、子どもを他者に安心して預けることができるためには、保育者自身が優しさをもって、共感・受容的態度で保護者や子どもと関わる必要がある。「新任の保育者に子どもを預けることに不安はあるか」については、30歳代のみ「不安がある」の回答があった。これは、子育て経験の差が年代別の差にあらわれたと考えられる。20歳代の保護者は、育児経験が浅く分からないことも多いため、専門性を持つ保育者に「不安がある」の回答がなかったのだと考えられる。30歳代の保護者は育児経験を積んでいる人もいるため、自分より若い保育者に子どもを預けることに不安を感じる人が多いという結果となったのではないかと考える。

保育者が日々保育で心がけていることは「心の発達」であった。保育者を目指す学生はピアノ等の保育技術に関してばかり悩みがちであるが、新任の先生方は子どもや保護者への関わり方や職場での人間関係に悩むことが多いという結果であった。このことから、学生時代に多様な人と関わり人間関係を構築する経験を重ねていくことが必要である。そのためには、わからないことはわからないと言える素直さを大切にして、人とつながる経験を重ねコミュニケーション力を身につけ、内面を磨いていくことが大切であると考えられる。

<まとめ>

9名のゼミ生は、1年間を通して「子育て支援」について実践的研究を行ってきました。「木のおうち」や「子育て広場」に参加されている保護者に、子育てについて色々なお話を聞かせていただいたようです。また、学生が考える子育て支援についてどのように感じられるかなどヒヤリングを行いました。その結果をゼミ生で検討しアンケートを作成しました。

このような活動を繰り返す中で、「子育て支援はなぜ必要か？保育者になったときどのように支援していけばよいのか」を学生なりに考えることができました。また、保護者からの温かいまなざしと期待を学生は肌で感じ子育て支援への想いが高まったようです。学生時代に学んだ理論と実践を結びつけながら、子育て支援に理解がある保育者と育っていくことを願っています。(担当：森下順子)

◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（生文）⑦

【学科・専攻】生活文化学科生活文化専攻

【ゼミ名】千森ゼミ

活動1

【タイトル】「遊具を使った子どもの生活や生活空間理解調査」

【活動報告】

日時：2016年8月6日(木) 13:00～15:00

場所：プレイルームⅡ

内容：遊具の中には、生活への理解を深められるものや生活空間を認知したり、創造に役立つものがある。そこで、私達は知育教材として提供されている市販の人形や生活用具、お家を用いて、幼児の生活や生活空間の理解度を把握する実験に取り組むこととなった。研究対象は、4才4ヶ月のA子ちゃんと4才3ヶ月のB子ちゃんの女子2名である。二人共1才前後の弟がいる。

参加学生：生活文化学科生活文化専攻 生活文化ゼミ 9人

実験内容：

①就寝(ベッドに寝かせられるか、布団を掛けられるか)、②起床(着替え、クシで整髪できるか)、③歯磨き(歯磨き粉を付けられるか、磨く動作が出来るか)、④排泄(パンツを下ろしてトイレに座れるか、パンツをあげて流す動作ができるか)、⑤食事(食べ物を取り出せるか、口に食べ物を持っていけるか、片付けられるか) (写真2)、⑥外出(外出セットで準備できるか、人形をベビーカーに乗せられるか、ベビーカーを動かせるか、おんぶひもを使えるか)、⑦洗濯(洗濯物を洗濯機に入れられるか、干せるか、アイロンをかけられるか)である。用いる遊具は2種類の人形シリーズによるものである。A子ちゃんは1種類の人形シリーズの体験があり、B子ちゃんはまったく始めてであった。

同じ年齢の子ども二人に別々の遊具で実験項目に取り組んでもらい、交代して違う遊具を体験した。その結果、A子ちゃんは、④排泄(パンツを下ろしてトイレに座れるか)ができなかったが、他の項目がすべてできた。B子ちゃんはすべての項目ができた。便器などの音が出て、動きのある遊具は気に入って何度も触っていた。また、赤ちゃんに興味があるようで、赤ちゃんの人形を見て、同伴してきた弟を指さしていた。家でも弟がお気に入りのようである。一方、男の子の人形には興味を示さなかった。二人共お家のセットには関心を示し、インターホンを押してドアから中に入り、家の中で食事、睡眠などの生活行為を上手に再現しながら、遊んでいた(写真3)。また、ベビーカーに人形を乗せ、相手の家に遊びに行っていたので、各戸にとどまらず、社会性も階間みられた。

以上の実験から、子どもの遊びから生活や生活空間への理解が把握でき、4才児は基本

的な生活行為を理解し、それらを展開する生活空間への認識も明確にもっていることがわかった。



写真1. 実験風景

写真2. 人形と用具を用いて

写真3. お家セットでの様子

活動2

【タイトル】「ひのきくんを用いた空間創造力への試み」

【活動報告】

日時：2016年1月21日(木) 15:00～16:00

場所：プレイルームⅡ

内容：組積式構法の建造物は、石やレンガ、コンクリートブロックなどの小さな材料を積み重ねる事により形成するが、組積式構法による空間創造力を、紀州材の檜のピース(ひのきくん)を用いた立体製作により養う。

参加学生：生活文化学科生活文化専攻 生活文化ゼミ 7人

1ピースは12cm×2.5cm×0.8cmの薄い檜材で、1000ピース用いて立体製作に取り組む方法をとった。まず、現実の生活空間に直結した直方体の立体を製作した。4枚のピースを縦横に組んだ井桁状の造形を基礎にししながら、各5列配して鍵型を形成する。さらに、上に何段も積み重ねて、角にいくにしたがって高くなる階段状の立体を製作した。マンションなどでよく見られる高さに変化をつけた形態であるが、比較的アイデアも早く浮かび、製作も短時間で、簡単に組み立てられた(写真1)。

つぎに、より複雑な形態を組み立てる作業に取り組んだ。円筒形の規模が大きな立体の製作である。籠を籐で編むようにして形を創り上げていった。1ピースが小さいので、大きな造形を創り出すためには、どのようにつなぎ合わせるかが問題であり、接続部が難しかった。上手く重ね合わせながら、直径50cm程の大きさの円筒形を下から積み重ねていったが、1000ピースでは胸下の高さまでしか製作できなかった(写真2)。

今回、初めての試みであったが、積み木遊びのような要素もあり、学生達は興味を示していた。数の不足といった問題点もみられたが、体験することにより空間創造に関して多くを学べた。

組積式構法は、日本建築には少ない構造体ですが、檜材のピースは構造を知る上からも有効な教材であり、今後、住居学の学習の一環として、活動を継続、発展させる必要性が認められた。



写真1 階段状の塔の立体



写真2 円筒型の籠状立体

◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（生文）⑧

【学科・専攻】生活文化学科生活文化専攻

【ゼミ名】伊藤ゼミ

【タイトル】「美容とフルーツの関係」

【活動報告】

日時：2015年12月1日(火)～12月18日(金)

場所：ふれ愛ルーム・木のおうち

内容：「美容とフルーツの関係」についての調査・研究において、木のおうちを利用する母親たちを対象にアンケート調査を実施

参加学生：生活文化学科生活文化専攻 生活文化ゼミ 4人

以下の内容のアンケート用紙を木のおうちの担当者に依頼して、上記期間の間に訪れた母親たちに回答してもらった。合計50名分の回答を得た。母親たちとの対話形式でアンケート収集をしたかったが、学生の授業時間割の都合で実施できなかった。回答結果を分析し、学生論集のまとめに反映した。

アンケートご協力のお願い

生活文化ゼミ・伊藤クラス一同

私たちは生活文化ゼミで、「美容とフルーツの関係（仮）」について調査・研究をしています。その中で、私たちと年代別の生活文化専攻の皆さんが、髪と肌のケアをどのようにしているのかを知りたいと考えました。特に食べ物について、美容の中でどのように活かされているのか、皆さんの声をお聞きしたいです。

お忙しいところ恐縮ですが、下記の質問についてお答えいただければ幸いです。

1. 次の食品を食べることは、髪美容のために良いとされています。「知っていた」というものを全て○で囲んでください。

ミカン ・ ナッツ類 ・ 豆 ・ 鶏肉 ・ 黒ゴマ ・ サーモン ・ 卵 ・ ニンジン

2. 次の食品を成分に含むシャンプーなどは、髪美容のために良いとされています。「知っていた」というものを全て○で囲んでください。

ミカン育毛水 ・ フルーツオーガニックシャンプー ・ 梅シャンプー ・ ゆず油
桃の葉シャンプー ・ フルーツオーガニックトリートメント

3. 次の食品を食べることは、肌の美容のために良いとされています。「知っていた」というものを全て○で囲んでください。

リンゴ ・ マンゴー ・ スイカ ・ アセロラ ・ トマト ・ バレンシアオレンジ
パイナップル ・ キノコ類

4. 次の食品を成分に含む化粧品などは、肌の美容のために良いとされています。「知っていた」というものを全て○で囲んでください。

梅パック ・ イチゴパック ・ 桃の葉化粧水 ・ ユズ化粧水 ・ 梅干し化粧水
ミカンの皮化粧水 ・ キウイ化粧水 ・ ミカン風呂

◎ 実践的教育プログラム 成果報告書（食物）⑨

【学科・専攻】生活文化学科食物栄養専攻

【ゼミ名】食物栄養専攻46期生2年次生 46名（全員）

【タイトル】卒業研究

【目的】乳幼児期の「健康と食生活」に関する実態調査

【活動報告】

食物栄養専攻では、2年次開講専門教育科目「卒業研究」の中に実践的教育プログラムを採り入れている。将来栄養士として活躍することを夢見て勉学に励んでいる学生は、食育の担い手にもならなければならない。そのために和歌山の子どもたちの食生活の実態とその問題点を探ろうと考え、COCプログラム利用者である保護者を対象に、乳幼児期の「健康と食生活」に関する実態調査を実施し、和歌山の子ども達の現状を把握して、望ましい食生活を確立するための提案を行った。

調査実施時期

2015年10月中旬から下旬にふれ愛ルーム「木のおうち」を利用した子どもの保護者を対象に、アンケートを実施し、109名から回答を得た。また、2015年11月14日の子育て広場を利用した子どもの保護者を対象に、同じ調査を実施して31名から回答を得た。

調査対象

実態調査の対象となった保護者が同伴した子どもは、男児81名、女児59名の140名であった。保護者に無記名の調査用紙を配布し、記入後回収する方法で調査を実施した。

調査目的

保護者の目から観察した乳幼児期の「健康と食生活」の実態を把握する目的で、子どもの偏食と保護者の食生活への関心度について、子どもの偏食の状況、保護者の偏食、離乳期の食事、偏食への対応、偏食に対する意識の5つの調査項目に分けて質問を設け、回答を得た。

卒業研究への展開

乳幼児期は、子どもたちが心身ともに発達する時期であるのみならず、青少年期の食習慣の基礎が形成される時期でもある。生活習慣病などの成人期の健康状態に大きく影響を与えることを考えると、乳幼児期に望ましい食習慣を身につけるという観点からは、今回の調査は生きた栄養指導の教材となった。子どもたちの食生活を日常的に捉え、問題点と解決方法に検討を加え、保護者にどう対応すべきかを学ぶとともに、保護者の食事準備を

支援し、子どもたちの健全な食習慣を身につけてもらうための提案を行った。調査対象の約3割の子どもに偏食傾向が見られ、約半数の子どもが野菜嫌いであるという実態がわかった。その一方で約8割の保護者は好まない食品に「調理法・形態の工夫」をして食卓に並べていること、偏食への対策として好きな物と一緒に調理したり、手作り料理を心掛けたり、子どもと一緒に料理するなどの保護者の対応策も把握できた。卒業研究ではこの調査結果を受けて、保護者への支援策として、子ども達に食品に興味を持ってもらい、ひいては和歌山の食文化に触れてもらうことを目的に、和歌山の郷土料理や和歌山の特産品を紹介するカード作りを行った。

調査結果の報告と提案

2016年1月23日の子育て広場で、単純集計での調査結果報告と、卒業研究の中間報告を実施した。和歌山の特産品や和歌山の郷土料理を紹介し、試作をご覧いただくとともに、それらの情報をまとめたカード作成し、その公開準備をしていることを報告した。そして最後に「やさいをたべようね」を合い言葉に、食品に親しむクイズ「親子で答えよう！信愛の栄養クイズ」を実施した。なお、作成中のカードについては、ふれ愛ルーム「木のおうち」に常備していただき、閲覧可能な形で公開する、あるいは子育て広場で閲覧していただくことを計画している。



◎ 授業評価アンケート

実践的教育プログラム（卒業研究Ⅱ、卒業研究、生活文化ゼミ）
授業アンケート

平成 27 年度

A. 以下について、あてはまるところに○をつけてください。

1. 所属 （ 保育 ・ 生文 ・ 食物 ）

B. このプログラムに関する以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。

| | | | | | | |
|---|---|-----|------|----|-------|------|
| 1 | 地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる問題解決力が身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 2 | 地域の課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップが身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 3 | 子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力が身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 4 | 高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力が身についた。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 5 | 地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |
| 6 | 和歌山のことが好きになった。 | とても | まあまあ | 普通 | あまりない | 全くない |

ご協力ありがとうございました。

◎ 授業評価アンケート集計結果

実践的教育プログラム 授業アンケート

(卒業研究Ⅱ、卒業研究、生活文化ゼミ)

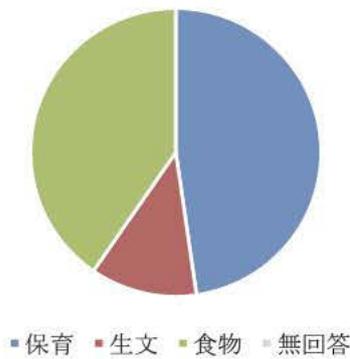
～単純集計グラフ～

2016年2月

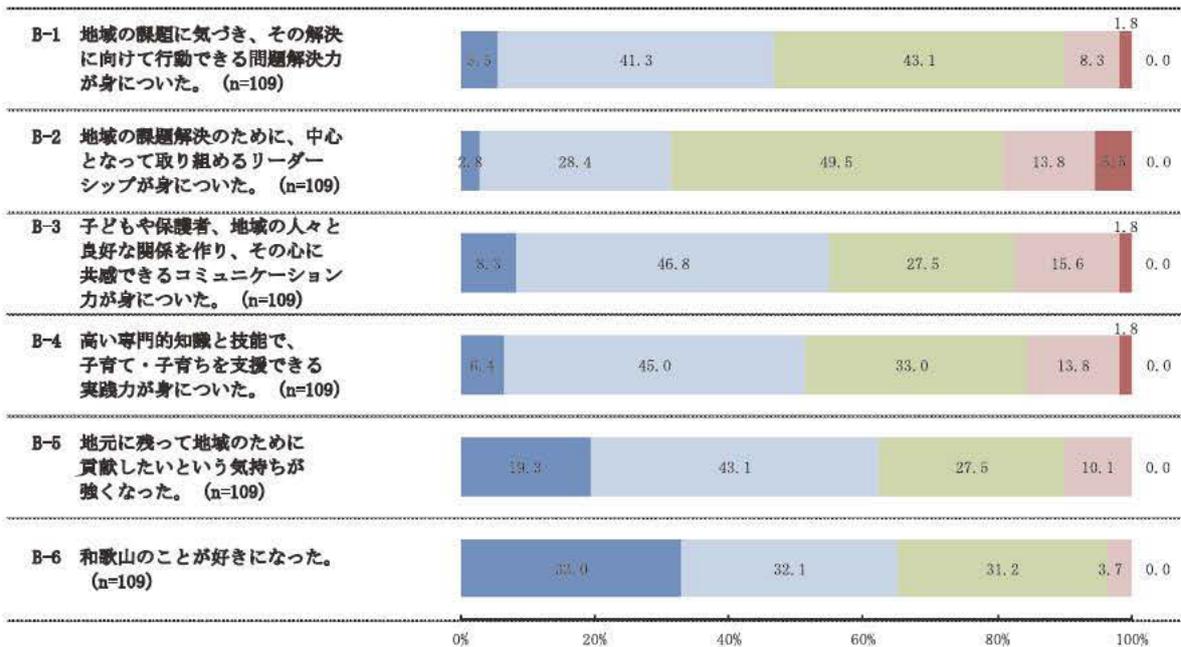
和歌山信愛女子短期大学

◆基本属性

A-1 所属 (n=109)



◆この授業について



4) 地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』

① 事業内容

本学附属図書館内に、地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』を整備し、本学の知の拠点化を推進する。

② 平成 27 年度計画

学内での広報活動、教員による授業での活用、地域住民への貸出などを通じて、利用を促す。また、逐次利用状況に関する調査を行うと共に、利用者へのアンケート調査を行う。

③ 成果

10 月と 1 月に、図書館利用を促すチラシを学生に配布する。平成 28 年 2 月現在の利用状況は以下の通りである。



◎『きょう育の和図書コーナー』貸出実績

| 図書 | | | 視聴覚 | |
|----|-----|-----|-----|---|
| 月 | 冊数 | 人数 | 点 | 人 |
| 4 | 20 | 17 | | |
| 5 | 27 | 19 | | |
| 6 | 33 | 28 | 2 | 1 |
| 7 | 26 | 11 | | |
| 9 | 2 | 1 | | |
| 10 | 11 | 7 | | |
| 11 | 6 | 4 | | |
| 12 | 7 | 6 | | |
| 1 | 5 | 5 | | |
| 2 | 9 | 6 | | |
| 合計 | 146 | 104 | 2 | 1 |

④ 自己評価

平成 28 年 1 月に全学生を対象に行ったアンケート調査では (n=364)、「図書館の『きょう育の和図書コーナー』を知っている」と答えた学生は 41.5%、「利用したことがある」と答えた学生は 10.7%という低い結果になった。その一方で、利用したことがある学生から、「利用した書籍は、和歌山の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解を深めるのに役立った」(64.1%)、「地域のことをもっと知りたいと思うようになった」(61.5%)と、コーナーの内容について一定の評価を得ている。このことから、内容の充実に加え、広報の仕方や利用機会の増加などに改善の余地があることが分かった。

◎ 配布チラシ



地(知)の拠点

学生・教職員の皆様へ **図書館**

**きょう育の和コーナーで
和歌山のことを
知ってみませんか？**



和歌山の風を四季
和歌山の自然、文化、経済、政治、子育て・子育て支援など、和歌山のことが知りたい方は、図書館にある「きょう育の和コーナー」へ！



和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター



学生の皆さんへ

地(知)の拠点

図書館

**きょう育の和コーナーで
和歌山のことを
知ってみませんか？**

和歌山の自然、文化、経済、政治、子育て・子育て支援など
**「紀の国わかやまと世界」の
試験対策に！！**



和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター

◎ 図書利用アンケート

和歌山信愛女子短期附属図書館

『きょう育の和図書コーナー』利用者アンケート

附属図書館「きょう育の和図書コーナー」について以下の質問にお答えください。

本アンケートは、今後の事業展開の参考とさせていただきます。本目的以外には使用しません。ご協力よろしく申し上げます。

以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。

1. 所属 (保育 ・ 生文 ・ 食物)
2. 学年 (1年 ・ 2年)
3. 図書館の「きょう育の和図書コーナー」をご存じですか。
(はい ・ いいえ)
4. きょう育の和コーナーにある書籍を利用したことがありますか。
(はい ・ いいえ)
5. 上記質問にはいとお答え頂いた方に質問です。
 - ① どのような理由でご利用になりましたか。
 - ・ 授業の学習（予習・復習、課題等）のため
(授業名：)
 - ・ 自身の興味・関心のため
 - ・ その他（理由：)
 - ② 利用した書籍は、和歌山の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解を深めるのに役立ちましたか。
(はい ・ いいえ)
 - ③ 地域のことをもっと知りたいと思うようになりましたか。
(はい ・ いいえ)

ご協力ありがとうございました。

◎ 図書利用アンケート集計結果

「きょう育の和図書コーナー」利用者アンケート

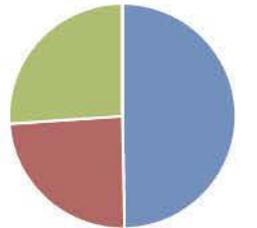
～単純集計グラフ～

2016年2月

和歌山信愛女子短期大学

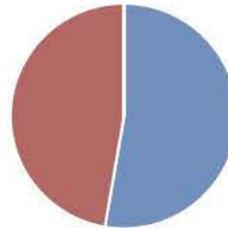
◆基本属性

1 所属 (n=364)



■ 保育 ■ 生文 ■ 食物 ■ 無回答

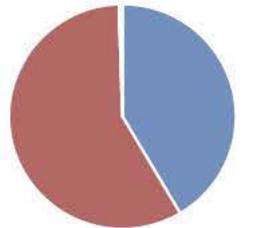
2 学年 (n=364)



■ 1年 ■ 2年 ■ 無回答

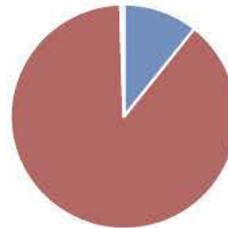
◆「きょう育の和図書コーナー」について

3 図書館の「きょう育の和図書コーナー」をご存じですか。 (n=364)



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

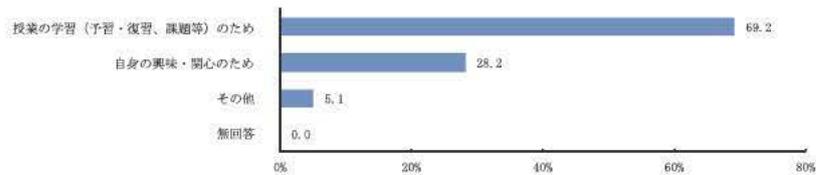
4 きょう育の和コーナーにある書籍を利用したことがありますか。 (n=364)



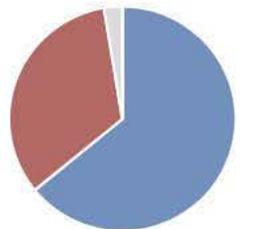
■ はい ■ いいえ ■ 無回答

5-① どのような理由でご利用になりましたか。＜利用したことがある回答者のみに限定＞

【複数回答可】 (n=39)

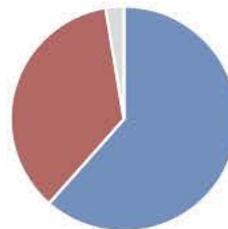


5-② 利用した書籍は、和歌山の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解を深めるのに役立ちましたか。 (n=39)
＜利用したことがある回答者のみに限定＞



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

5-③ 地域のことをもっと知りたいと思うようになりましたか。 (n=39)
＜利用したことがある回答者のみに限定＞



■ はい ■ いいえ ■ 無回答

Ⅲ. 活動報告（研究）

1) 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究

① 事業内容

国内の子育て・子育て支援ネットワークの多くは、行政から家庭への縦の繋がりが基本となっている。しかし、子育て家庭の孤立化を防ぎ、虐待等の課題を解決するには、子育て家庭間や支援組織間の横への繋がりを深めていく必要がある。そこで、行政、NPO・NGO、専門機関、地域、子育て当事者、大学間のネットワーク形成のための実践的研究を行う。そして、縦と横の繋がりの組織化を図り、各機関が連携した研究の促進や、地域の活性化を目指した、子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』の構築を図る。

② 平成 27 年度計画

アンケート調査、ネットワーク参加団体・個人による協議会の開催にくわえ、ネットワーク参加団体・個人と連携して共同の子育て支援イベントを企画・実行し、アンケート調査を通じて連携強化への効果を測定する。

② 成果

『共育の輪』ネットワーク会員による会議を計 5 回開催した。各会議の日程と議題は以下の通りである。

◎ 『共育の輪』ネットワーク会議議題

第 1 回

日時：平成 27 年 6 月 5 日 13:00～

場所：和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター

議案：

1) 双子組交流会について

- 実施日：9 月 3 日（第一）・4 日（代案）
- 開催時間：10:00～12:00 9:00 集合
- 内容
- 申し込み制 参加者数把握のため
- 広報
- 利用施設・備品
- スタッフ
- 講師：双子組で依頼
- 保健師：双子組で依頼
- 打ち合わせ会議



第2回

日時：平成27年8月7日（金）

13:00～15:00

場所：和歌山信愛女子短期大学

きょう育の和センター

議案：

1) ふたご・みつご大交流会について

- 挨拶・自己紹介
- タイムスケジュール(案)の発表（佐藤さん）
*別紙打ち合わせ資料参照
- 配置図の説明（柳本）*別紙打ち合わせ資料参照
- スタッフ・学生役割担当決め
- 育児用品交換コーナー準備
- 受付準備
- たれまくデザイン打ち合わせ
- 当日まで準備・購入するもの



第3回

日時：平成27年8月27日（木） 13:00～15:30

場所：和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター

議案：

1) 『ふたご・みつご大交流会』について

- 自己紹介
- 当日参加者（最終） 33組（双子連れ21組、母親のみ12名）
- タイムスケジュール確定 9/1 最終打ち合わせで配布する。
- 体育館配置図 確定 9/1 最終打ち合わせで配布する。
- グループトーク
- 役割担当決め
- 駐車場
- 育児用品交換コーナー
- 受付
- たれまくデザイン
- その他



第4回

日時：平成27年9月1日（火） 10:00～11:30

場所：和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター・体育館

議案：

1) 『ふたご・みつご大交流会』の最終確認

- タイムスケジュールの確認（別紙打ち合わせ資料参照）
- 保健室の野田先生と事故発生時対応時の確認・救急セットの確認
- 役割分担の確認（別紙打ち合わせ資料参照）
- 体育館配置図の確認（別紙打ち合わせ資料参照）
- 体育館へ荷物搬入・設置 ・各担当グループに分かれて準備と当日の打ち合わせ



第5回

日時：平成27年9月10日（木） 10:00～11:30

場所：和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター

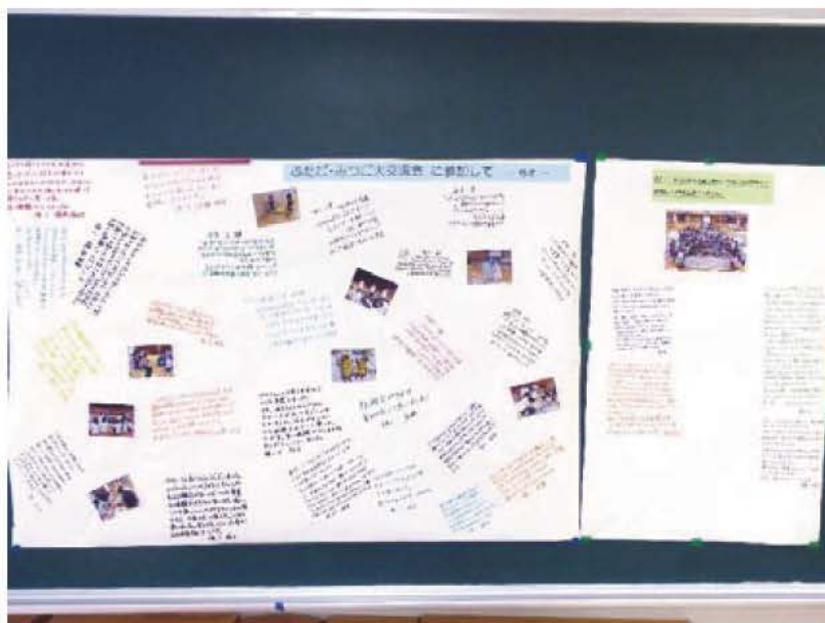
議案：

1) 『ふたご・みつご大交流会』の振り返り

- ① ふたごぐみのアンケート結果の発表
- ② グループトークで情報交換された内容を各グループ別に報告
- ③ 今後の課題と対策
- ④ その他



- ・学生とスタッフのお母さんからの感想を木のおうちへ掲示する。



さらに、会員である双子組サークルのメンバーを中心として『ふたご・みつご大交流会』を企画し、平成27年9月3日、本学体育館にて開催した。当日は、33組の双子・三つ子の保護者と子どもたちが参加した。参加者の内訳は以下の通りである。

◎ 交流会参加者

| 参加者内訳 | 人数(人) |
|-------------|-------|
| 保護者(母・父・祖母) | 39 |
| 子ども | 44 |
| ボランティア学生 | 26 |
| 共育の輪会員スタッフ | 5 |
| 教職員 | 5 |
| 和歌山市保健師 | 2 |
| 合計 | 121 |

◎ 交流会配置図と当日の様子

ふたご・みつご大交流会 配置図 (新山徳聖女子短期大学 体育館)
開催日時: 平成27年9月3日 (水) 10:00~12:00 (9:45受付)



④ 自己評価

『ふたご・みつご大交流会』実施後に保護者に行ったアンケート調査では（回答者 32 名）、96.9%の参加者から、「交流会は子育て当事者・地域・大学がつながるきっかけとなった」との回答を得た。これにより、交流会を通じてネットワークの深化につなげるという本研究の目的は、ほぼ達成できたのではないかと考える。

◎ 『ふたご・みつご大交流会』 配布チラシ

和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター  地(知)の拠点

共育の輪企画

ふたご・みつご大交流会

～和歌山県でふたご・みつごを育てているお母さん～

ふたご、みつごの育児には、経験した人にしかわからない様々な悩みや不安がありますよね。その悩みや不安を共感してもらったり、経験された方から「うちは、こんなふうにしてたよ♪」等々話を聞いたりして、ふたご、みつごを育てる家族の方に少しでも今後の育児に役立ててもらえればと思っております。他にも、育児用品の交換、保健師による体重測定、子どもたちが楽しめるような遊びも用意しております。学生ボランティアも、みなさんとの交流を楽しみにしています。



日時：2015年9月3日(木) 10:00～12:00 (9:45受付開始)
場所：和歌山信愛女子短期大学 体育館 (和歌山市相坂702-2) 駐車場あり
対象：多胎児家族(多胎児の子育て経験のある方、子ども連れ、母親のみの参加可、多胎妊婦、ご自身が双子という方もお待ちしております)

定員：25組
参加費：無料

お問い合わせ、お申し込み

090-9701-9741 sayutrb@yahoo.co.jp
(ふたごぐみ 佐藤)

申し込み締め切り 2015年8月20日(木)
準備の都合上、お早めにお申し込みください。

詳しくは <http://futagogumi.blog.fc2.com/>

共育の輪とは・・・

子育て中の家庭や支援団体、行政、大学を結ぶネットワークです。

詳しくは

<http://www.shinai-u.ac.jp/tomoikunowa/>



ニュース和歌山 (8月6日)

2015年(平成27年)8月8日 土曜日 (4) ニュース和歌山

ふたごママで集まろう

9月多胎児母親の大交流会



ふたごやみつごを育てる母親のサークル「ふたごのみ」が9月3日(木)、和歌山市相坂の和歌山信愛女子短期大学で「ふたご・みつご大交流会」を開く。同サークルの望月安希子代表は「ふたごを育てた先輩ママや、子育て中のママと出会えます。育児の不安や悩み、楽しいことを共有しましょう」と呼びかけている。15年前に発足した同サークルは、0歳児・未就7月の集まりは、わらべうたを演じんだ

園児の親が対象。母親30人と0日4人が所属しており、月1回、同市平本のビッグ愛で絵本の読み聞かせや語り部を迎えての昔話、わらべうた遊び、英語学習など毎回テーマを決めて集まっている。大交流会は2年前まで市保健センターが開いていたが、参加者不足などを中止に。「もう一度大勢で集まれる機会を」とメンバーで復活を目指していたところ、子育てを支援する同短大の協力が得られ再開が実現した。

当日は、多胎児の母親による講演「ふたご子育て論」、育児中の母親や育児を卒業した母親とのトーク、学生ボランティアとの交流も。また、育児用品の交換、子どもの体重測定がある。

0日として支援する飯田のりこさんは「母親1人で2人の子より、2人で4人を見るほうが気持ちが悪くなる。多胎児がお腹にいる妊婦さんや、不安を抱えているお母さんに気楽にきてもらいたい。ふたごのみを育てる楽しさを知ってほしい」と笑顔を見せる。

午前10時 無料 先着25組 希望者は8月20日までに佐藤さん(073-496-4957)まで

リビング和歌山 (7月25日)

ふたご・みつご大交流会

9月3日(木) 参加無料

「ふたご・みつご大交流会」和歌山県でふたご・みつごを育てているお母さん(ふたごのみ)が、9月3日(木)午前10時~12時に開催されます。和歌山信愛女子短期大学の体育館(和歌山市相坂)で、対象は多胎児家族(子ども連れ、母親だけの参加も可)。多胎児の子育て経験がある人や現在妊娠中の人、自身が双子の人も。参加無料。希望者は、8月20日(木)までに左記へ申し込みを。

【申し込み・問い合わせ】
 ☎090(9701)9741、☎073(496)4957 佐藤さん

まみたん和歌山版

和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター 共有の輪企画

★ふたご・みつご大交流会

～和歌山県でふたご・みつごを育てているお母さん～

日時◆9月3日(木)10:00～12:00(9:45～受付開始)
 場所◆和歌山信愛女子短期大学 体育館 ※駐車場あり
 対象◆多胎児家族(多胎児の子育て経験のある方、子ども連れ、母親のみ参加可、参加無料、自身も双子の方でも参加して可)※希望者は、8月20日(木)までに申し込みを
 定員◆25組 参加費◆無料 問合せ◆090-9701-9741 (ふたごのみ 佐藤) 申込み◆073-496-4957 募集の都合上、早めにお申し込みください

★海水浴に行こう♪
 ～開催期間～8/31まで～

- 館内海水浴場 問合せ◆館内観光協会 073-458-0003 ※8月27日～
- 磯の浜海水浴場 問合せ◆磯の浜観光協会 073-452-2737
- 片浜海水浴場 問合せ◆片浜海水浴場管理運営委員会 073-447-9080

今月のピックアップ情報!

◎ 『ふたご・みつご大交流会』資料

ふたご・みつご大交流会 進行

- 10:00～10:15 開会の挨拶（信愛&ふたごぐみ）
（開始時間が遅れることも見込んで、挨拶は5分
ずつ程度）
- 10:15～10:35 橋さんの育児講演
（舞台を使うか、必要な備品があるかは未定）
- 10:35～10:40 双子学生による講演
- 10:40～11:10 グループトーク
- 11:10～11:20 集合写真撮影
- 11:20～11:35 学生の手遊び
- 11:35～11:40 アンケート実施（2枚）
- 11:40～12:00 フリートーク、育児用品、保健師相談など
- 12:00 閉会

◎ 「共育の輪」の取り組みに関するアンケート

平成 27 年度地（知）の拠点整備事業 「共育の輪」の取り組みに関するアンケート

本学の「共育の輪」事業の取り組みについて、以下のアンケートのご協力をよろしくお願いします。

| | | | | |
|------------------------------|---|-------|--------------|-------|
| 1 | 本学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っている。 | 知っている | 知らない | わからない |
| 2 | 本学が、子育て・子育て支援に関し、和歌山県における地（知）の拠点であることを知っている。 | 知っている | 知らない | わからない |
| 3 | 本学が行ってきた地域貢献としての人材育成について、評価する。 | 評価する | どちらも いえない | 評価しない |
| 共育の輪「ふたご・みつご大交流会」について | | | | |
| 4 | この取り組みは、地域貢献の役割を果たしている。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 5 | この取り組みは、子育て支援の役割を果たしている。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 6 | 親の学びの機会となっている。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 7 | 子どもの育ちの場となっている。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 8 | 学生の学びの場となっている。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 9 | コミュニケーションの場となっている。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 10 | 子育て当事者・地域・大学がつながるきっかけとなった。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 11 | 今後もこのような会へ参加したいと思う。 | そう思う | どちらも いえない | 思わない |
| 12 | 感想などご自由にお書きください。 | | | |

ご協力ありがとうございました。

◎ 『共育の輪』 取り組みに関するアンケート集計結果

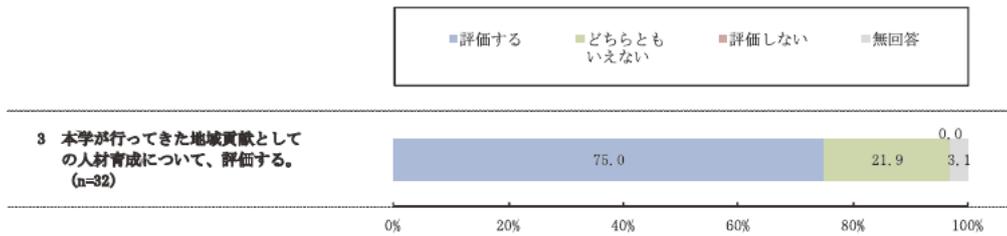
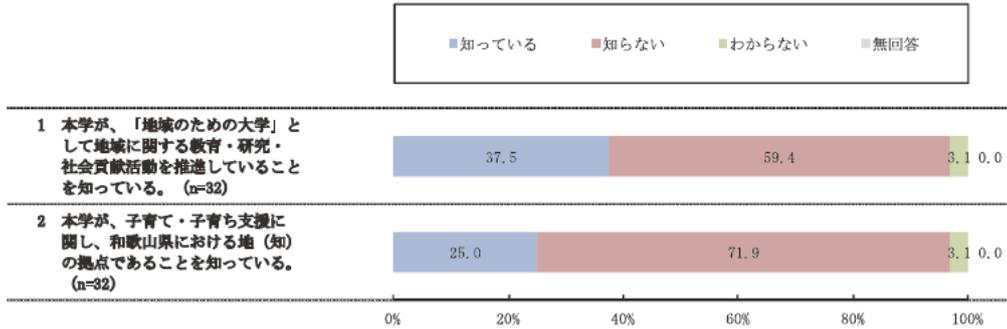
「共育の輪」の取り組みに関するアンケート

～単純集計グラフ～

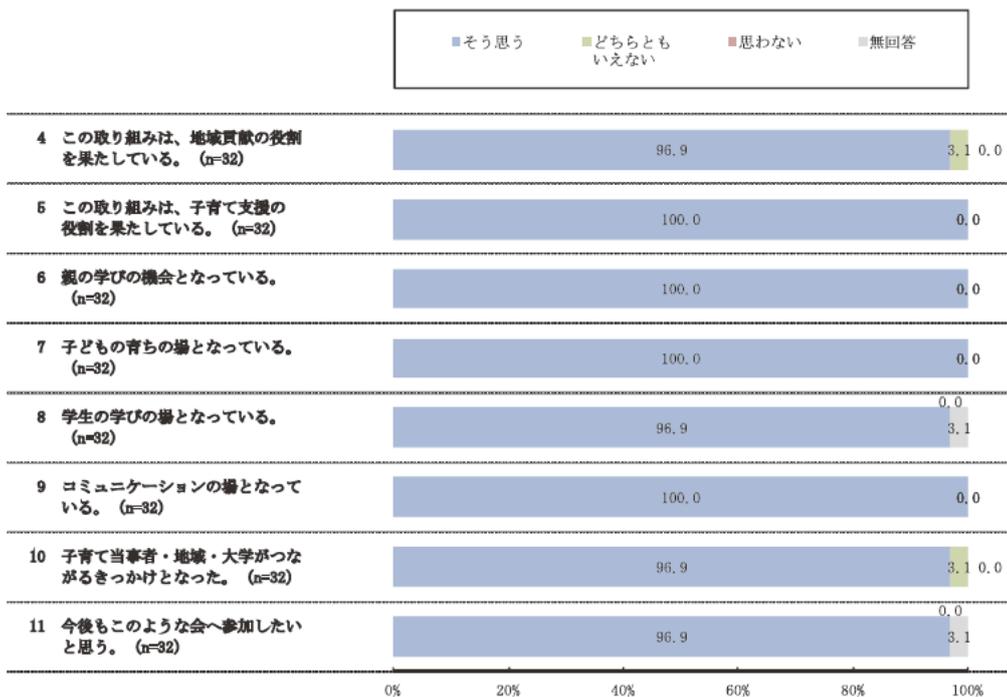
2015年12月

和歌山信愛女子短期大学

◆本学の「共育の輪」事業の取り組みについて



◆共育の輪「ふたご・みつご大交流会」について



◎ 投稿論文（信愛紀要に掲載予定）

森下順子:子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」 ふたご・みつご大交流会の実践報告

子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」 ふたご・みつご大交流会の実践報告

A NETWORK to Support the Raising and Growing of Children “KYOIKU NO WA”

A report on an exchange meeting for parents with twins and triplets

森下 順子

要 約

本学は、平成 25 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(以下大学 COC 事業)」に採択され 3 年目となった。平成 26 年度には子育て・子育て支援ネットワーク構築に向けたニーズ調査を行い、大学への期待やネットワーク形成の現状や課題が明らかとなり、子育て支援を進めていくキーワードが「つながりと連携」であった¹⁾。

平成 27 年度子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」のさらなる充実に向けて、「ふたご・みつご大交流会」を開催し、「つながりと連携」を深めるきっかけを目的として実施した。

本報告は、「ふたご・みつご大交流会」の概要、参加者へのアンケート調査から子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」の役割や、今後の課題について検討することを目的とする。

はじめに

平成 27 年度より内閣府による「子ども・子育て支援新制度」が本格実施され、地域の様々な子育て支援のより一層の充実が期待されている²⁾。本学は、COC 事業を通して、地域に根差した大学づくりの実践に取り組んで 3 年目となった。その事業の一つである子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」は、地域の子育て支援に関わる行政・NPO・NGO、専門機関、地域、子育て当事者、大学を繋げるネットワークを構築していくために、それぞれが縦と横のつながりの組織化を図り、各機

関が連携した研究の促進や、地域の活性化を目指している³⁾。

平成 26 年度の子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」構築に向けたニーズ調査¹⁾では、子育て支援を実施するにあたり機関同士の連携や相談できる関係づくり、つまり「つながりと連携」がキーワードであった。その理由は、子育て支援の継続のため、モチベーションの維持と向上のため、支援者同士の関係を深め支え合うためなどであった。

上記の結果を踏まえて、「つながりと連携」が深まるきっかけとして、「ふたご・みつご大交流会」を実施した。そこでは、共育の輪会員が、計画から実施までを主体的に取り組むこと

森下順子:子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」を通して、つながりが深まることを目指した。また、本取り組みに学生が参加することにより、地域の子育て支援について実践的な理解が深まることも目標のひとつとして取り組んだ。

本研究は、「ふたご・みつご大交流会」当日までのプロセスを報告するとともに、実施後のアンケート調査を通してさらなるネットワーク構築について検討することを目的とした。

実践の実施プロセス

1. 共育の輪会員である双子育児サークル「ふたごくみ」の代表者より本学に、本企画の相談と依頼があった。そのため、大学教員で構成される「きょう育の和センター会議」にて、センター長より趣旨を説明し承認を得て、実施することとなった。

2. 共育の輪ネットワーク会議

・平成27年度第1回(平成27年6月5日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」3名・短大教職員3名
 内容:ふたごくみ代表者より、本事業についての趣旨説明があり、その後具体的な内容を検討する。今後は、ふたごくみと短大で役割をきめて準備を行っていく。共育の輪ネットワーク会員に本事業実施に向けてメールで協力依頼を行う。

・平成27年度第2回(平成27年8月7日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」3名・「toddle わかやま」1名・短大教職員4名・学生21名
 内容:自己紹介。ふたごくみの代表者より、タイムスケジュール案、短大より当日の配置図案、学生スタッフより役割分担案がだされ検討する。
 共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。



・平成27年度第3回(平成27年8月27日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」5名・短大教職員

ふたご・みつご大交流会の実践報告

2名・学生2名(学生スタッフリーダー)

内容:自己紹介。タイムスケジュール・当日の配置案・役割分担等最終確定。

共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。

・平成27年度第4回(平成27年9月1日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」5名・短大教職員4名・学生23名

内容:自己紹介。「ふたご・みつご大交流会」タイムスケジュール・当日の配置・役割分担等最終確認と会場への荷物搬入と設置。

共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。

・ふたご・みつご大交流会実施当日(平成27年9月3日)

【参加者】

| | |
|------------|-----------------|
| 双子を育てている母親 | 33名(内、親のみ参加11名) |
| 子ども | 44名 |
| 父親・祖母 | 6名 |
| 共育会員スタッフ | 5名 |
| 保健師 | 2名 |
| 学生スタッフ | 26名 |
| 教職員 | 5名 |
| | <u>合計121名</u> |

【タイムスケジュール】

- 10:00～10:15 開会の挨拶(短大・ふたごくみ)
- 10:15～10:35 育児講演(ふたごを持つ先輩保護者)
- 10:35～10:40 「ふたごの気持ち」ふたご学生によるトーク
- 10:40～11:10 グループトーク(6グループトーク)
- 11:10～11:20 写真撮影
- 11:20～11:35 手遊び(学生スタッフ)
- 11:35～11:40 アンケート調査
- 11:40～12:00 フリートーク・育児用品交換会・保健師による育児相談会など
- 12:00 閉会

森下順子:子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」ふたご・みつご大交流会の実践報告



・平成27年度第6回(平成27年9月10日)実施後の会議
 参加者: 共育の輪会員「ふたごくみ」4名・短大教職員2名
 内容: 「みつごふたご・みつご大交流会」を終えて、今後に向けてなど
 共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。



・ふたごくみ参加者と学生スタッフとの参加後の感想を模造紙に書いたものを掲示し交流を深める。



森下順子:子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」を通して、つながりが深まることを目指した。また、本取り組みに学生が参加することにより、地域の子育て支援について実践的な理解が深まることも目標のひとつとして取り組んだ。

本研究は、「ふたご・みつご大交流会」当日までのプロセスを報告するとともに、実施後のアンケート調査を通してさらなるネットワーク構築について検討することを目的とした。

実践の実施プロセス

1. 共育の輪会員である双子育児サークル「ふたごくみ」の代表者より本学に、本企画の相談と依頼があった。そのため、大学教員で構成される「きょう育の和センター会議」にて、センター長より趣旨を説明し承認を得て、実施することとなった。

2. 共育の輪ネットワーク会議

・平成27年度第1回(平成27年6月5日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」3名・短大教職員3名
 内容:ふたごくみ代表者より、本事業についての趣旨説明があり、その後具体的な内容を検討する。今後は、ふたごくみと短大で役割をきめて準備を行っていく。共育の輪ネットワーク会員に本事業実施に向けてメールで協力依頼を行う。

・平成27年度第2回(平成27年8月7日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」3名・「toddle わかやま」1名・短大教職員4名・学生21名
 内容:自己紹介。ふたごくみの代表者より、タイムスケジュール案、短大より当日の配置図案、学生スタッフより役割分担案がだされ検討する。
 共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。



・平成27年度第3回(平成27年8月27日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」5名・短大教職員

ふたご・みつご大交流会の実践報告

2名・学生2名(学生スタッフリーダー)

内容:自己紹介。タイムスケジュール・当日の配置案・役割分担等最終確定。

共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。

・平成27年度第4回(平成27年9月1日)

出席者:共育の輪会員「ふたごくみ」5名・短大教職員4名・学生23名

内容:自己紹介。「ふたご・みつご大交流会」タイムスケジュール・当日の配置・役割分担等最終確認と会場への荷物搬入と設置。

共育の輪ネットワーク会員にはメール等で情報公開し共有する。

・ふたご・みつご大交流会実施当日(平成27年9月3日)

【参加者】

| | |
|------------|-----------------|
| 双子を育てている母親 | 33名(内、親のみ参加11名) |
| 子ども | 44名 |
| 父親・祖母 | 6名 |
| 共育会員スタッフ | 5名 |
| 保健師 | 2名 |
| 学生スタッフ | 26名 |
| 教職員 | 5名 |
| | <u>合計121名</u> |

【タイムスケジュール】

- 10:00～10:15 開会の挨拶(短大・ふたごくみ)
- 10:15～10:35 育児講演(ふたごを持つ先輩保護者)
- 10:35～10:40 「ふたごの気持ち」ふたご学生によるトーク
- 10:40～11:10 グループトーク(6グループトーク)
- 11:10～11:20 写真撮影
- 11:20～11:35 手遊び(学生スタッフ)
- 11:35～11:40 アンケート調査
- 11:40～12:00 フリートーク・育児用品交換会・保健師による育児相談会など
- 12:00 閉会

表1.「ふたご・みつご大交流会」自由記述

| |
|---|
| 楽しい会に参加させていただき、ありがとうございました。 |
| 今日は、共育の輪の協力のおかげで、すてきな会になりました。ありがとうございました。 |
| うろろする人に付き合ってくれて、学生さんに感謝します。 |
| 双子ママこそ支援を必要としていると思います。今後も続けてほしいです。 |
| たくさんのお子さんが参加されていて、このような場が多くあると良いなと思いました。スペースも広くてのびのび過ごせるのが大変良かったです。企画された方ありがとうございました。 |
| 学生さんも子供に触れられ、子供もやさしいお姉さんに遊んでもらえて楽しいと思います。お母さんたちもお話できてストレス発散できたのでは？学生さん、お手伝いありがとうございました。りっぱな保護さんになって下さい。 |
| 子供たちがたくさんのお姉さんたちと遊べて、とても楽しそうでした。 |
| スタッフ・学生の皆さん、準備段階から本当におつかれ様でした。すごく大変だったと思いますが、本当に素敵な交流会でした。私の想いなのですが、絵本がたくさんあればいいな～と思いました。大成功、本当におめでとうございます。又、協力できることがあればさせて頂きたいと思っています。 |
| お母さんにも学生にも子どもにも、共に育つ「共育」の名にふさわしい場になっていると思います。ありがとうございました。 |
| 気軽に参加しましたが、とても有意義でした。 |
| 学生さんが色々お話ししてくださって助かりました。 |



アンケート調査の結果より、「共育の輪」事業の取り組みの、地域の認知度は低い結果となった。今後、広報等で広げていくことや、共育の輪会員を通してネットワークを広げつなげていくことが課題である。

「ふたご・みつご大交流会」は、親の学び・子どもの育ち・学生の学び・コミュニケーションの場や地域とつながるきっかけとなっているという項目に関して、高い評価を得た。

共育の輪ネットワークは、ポータルサイトでのつながりを軸としているが、人がつながり連携していくためには、実際に対面し話し合いや取り組みができる環境があつてこそ、「つながりや連携」が実現可能となっていくことが再認識できた。そこには温もりがあり、役割を持つことで実践後の達成感を得ると同時に、信頼関係が生まれ支え合いの関係ができると考えられる。今後の課題として、定期的に話し合いができる機会を設けること、協同的な企画を生み出していくことである。また、共育の輪のネットワークを広げ、地域の子育て・子育て支援が本学を基盤として充実していくよう、地域と共に進化させていきたいと考える。

参考文献

- 1) 森下順子・恵達二郎(2015) 子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」構築に向けたニーズ調査—「地(知)の拠点事業」の充実に向けて—, 信愛紀要第55号, 29—36.
- 2) 内閣府 子ども・子育て支援新制度ホームページ.
- 3) 文部科学省平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択、和歌山信愛女子短期大学「子育て支援を主軸とした地(知)の拠点事業『きょう(教・共・郷)育の和』」事業計画書.

おわりに

子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」の充実とつながりや連携を深めるきっかけ作りとして、「ふたご・みつご大交流会」を開催した。そのために、企画段階から共育の輪ネットワーク会員が中心となり計画と準備を進めてきた。そのプロセスを通して「つながりと連携」が深まることを目指した。

また、学生が地域貢献活動に参加することにより、地域の子育て支援の実態を知り理解が深まることも目標の一つとして取り組んだ。学生スタッフは、全学生に趣旨を説明した後、自主参加を募り、保育科22名・生活文化学科食物栄養専攻3名、合計26名の参加があった。参加理由は、興味を持った・人と関わる経験をしたい・子どもと関わりたいなど様々であったが、地域の方々や準備段階から参加し、与えられた役割を前向きに果たし共育の輪会員から励まされ褒められるという関係の中で、自身の居場所の心地よさを感じながら取り組むことができた様子である。実施後の感想では、次回も参加したい・子どもを育てていくのはかわいいだけでなく大変だと思った・とても楽しく貴重な体験であった・こんなにたくさんの子どもと関わったのは初めてだったなどの声が聞かれた(下の写真より)。

人とつながりが希薄になったといわれ始めた頃に子ども期を過ごしている学生にとっては、地域の異世代との交流は視野を広げる体験につながったのではと思われる。



1/1

2016/02/25 11:01



http://www.ritsumei.ac.jp/kyoikuwa/

1/13 ページ

④ 自己評価

掲示板を利用して大学側からの情報発信に努めたが、掲示板上で会員間の双方向の交流が行われるまでには至らなかった。ネットワークの深化を計るために、ポータルサイトの在り方を一から見直す必要がある。

3) 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究

① 事業内容

子育て・子育て環境として、和歌山の暮らし・文化・自然・地域を捉え直し、新たな支援策に結びつける研究を、保育科・生活文化学科生活文化専攻・食物栄養専攻の枠を超えて行う。専門分野を超えた研究者間の連携を促すことで、多様な視点から子育て環境についての研究を行う。特に、文化・自然・地域ネットワークの3テーマに沿った研究を奨励する。

② 平成 27 年度計画

子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究では、調査・研究の実施、研究成果に対する評価を行う。また、『地域志向教育研究奨励金制度』の運用では、奨励金支給、次年度公募、選定委員会開催、支給者決定を行う。

③ 成果

平成 27 年度に奨励研究として採択されたのは、以下の 3 テーマである。

「災害に備える紀伊半島の住まいの地域特性に関する研究」

所 属 名 生活文化学科生活文化専攻

研究代表者 氏名 千森 督子

「和歌山県内に生息する森林性稀少ほ乳類の生息調査」

所 属 名 保育科

研究代表者 氏名 芝田 史仁

「乳幼児をもつ母親のソーシャル・サポートと育児負担感との関連性」

所 属 名 保育科

研究代表者 氏名 森下 順子

これらの研究のうち 2 件は、その成果を本学紀要に掲載する予定であり、あと一件は平成 28 年度中に学会等で発表される予定となっている。

また、平成 28 年 1 月に平成 28 年度の『地域志向教育研究奨励金』の公募を行った。3 月に 5 件を最大に、次年度奨励研究の選定を行う予定である。

④ 自己評価

3件の奨励研究は共に、和歌山の地域課題を研究テーマにとりあげ、精力的に研究活動を行ってきた。最終報告は3月であるが、中間報告段階を見る限り、着実に成果を上げていくものと評価できる。また、予算の執行は、本学の規程に基づき適正に処理され、問題はない。

◎ 平成 27 年度奨励研究 中間報告書①

書式 5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 生活文化学科生活文化専攻

氏名 千森 督子

共同研究者

所属

氏名

研究課題名

災害に備える紀伊半島の住まいの地域特性に関する研究

1 目的

住まいには様々な機能が求められるが、とりわけ自然風土条件への対策が必要である。海に突き出した半島は自然風土条件の影響を受けやすいが、日本最大の半島である紀伊半島は台風常襲地域であり、多雨地域のために、防風雨対策は当然のことながら水害への備えも必要とされてきた。そこで、本研究は災害に備える紀伊半島の住まいの地域特性を把握することを目的とし、とりわけ、水害との関係性に注目する。研究対象は紀伊半島でも数々の災害史をもつ熊野川流域とする。

紀伊半島の伝統的な民家には水害に備えるために、土盛して石垣で敷地を擁壁する、主屋の床高を上げる、床下に泥が侵入するのを防ぐ泥除けの板⁽¹⁾を打ち付けるなどの工夫や対策が施されてきた。また、避難小屋もそのひとつである。昨年度の本教育研究助成成果で紀伊半島にはアガリヤ⁽²⁾と呼ばれる、災害時の避難小屋が造られてきたことを明らかにした。アガリヤに関しては、拙稿⁽³⁾も含め既往研究^{(4)~(7)}で、分布状況、建築的特徴や利用形態、その変遷について取り上げられている。しかし、アガリヤの事例は数例のみで、事例研究による建築的考察が十分とはいえない。

そこで、本研究では、現存するアガリヤに焦点をあて、事例から建築的特徴と利用形態、その変遷を検討し、さらに家屋の新たな水害対策について捉える。

2 研究方法

研究は、現地調査で収集した資料に文献資料を含めて考察する方法をとる。

調査地域は、文献⁽⁴⁾で、熊野川と並走する国道 168 号線沿いの民家の多くがアガリヤを所有していたと記述されていることから、和歌山県田辺市本宮町から和歌山県新宮市熊野川町に至る右岸地域を対象とした。

調査は平成 27 年 8 月と 9 月に実施した。住民や行政関係の聞き取り調査を行い、アガリヤの有無を調べた。さらに、アガリヤの存在が確認された場合は、建物や敷地の観察調査、実測調査を行い、写真撮影を実施した。

3 結果

(1) アガリヤの事例からみた建築的特徴と利用形態

アガリヤには、アガリヤとして建てられたものと、その他の用途の家屋をアガリヤとして用いる二種類がある。調査地域で確認され、調査を行ったアガリヤは、本宮町 4 件(アガリヤ専用 1 件、その他家屋転用 3 件)、熊野川町 3 件(アガリヤ専用 1 件、その他家

屋転用 2 件)である。

1)アガリヤとして建てられた事例

アガリヤとして建てられた一例が熊野川下流に位置する熊野川町能城山本の集落に実存する。集落は熊野川沿いの山の斜面に構成されている。アガリヤ I⁽⁸⁾の主屋は集落下部の平坦地にあるため、アガリヤ I は屋敷地から離れたやや高台に設置されている。

アガリヤ I は、昭和 34 年の伊勢湾台風後に建築された木造平屋で、屋根は切妻形式のトタン葺き、外壁もトタン張りの簡易な建物である。平面は 12 畳の広さの居室が 1 室だけの最小限の構成で、窓が 1 か所設けられている。床は板張り、奥には棚が設けられ、寝具などが収納されている。炊事場や便所、風呂場などは無い(写真 1)、(図 1)。

アガリヤは、出水時期の夏に主に用いる。夏季になると主屋の畳をアガリヤに上げて、主屋ではゴザ敷で生活した。浸水時にはアガリヤに避難し、水が引くまでの 1～2 日間滞在する。台風の時期が終わる冬季には主屋に戻す。

これらの地域の災害史で特筆すべき近代以降の大災害は、明治 22 年の大水害、昭和 28 年の紀州大水害、昭和 34 年の伊勢湾台風と平成 23 年の紀伊半島大水害である。写真 2 は、紀伊半島大水害の翌日に隣接する熊野川町日足地区から熊野川を撮影したものであるが、二階まで浸水し、川幅が拡大している様子がわかる。対岸の三重県側の熊野市小船の住民が「川岸の地がなくなり、集落の一部が水没して川が湖ようになった」と表現していたが⁽⁹⁾、まさにその状況である。アガリヤ I は集落の中程の高さにある。天井高は 243 cm であるが、紀伊半島大水害時には床上 93 cm まで浸水した。アガリヤも浸水する場があり、記憶に残し、今後の避難時の根拠とするために、住民の手により浸水位置に印が記されている(写真 3)。



写真 1 アガリヤ I の外観



図 1 アガリヤ I の平面図兼配置図



写真 2 紀伊半島大水害翌日の日足地区と熊野川
(熊野川町日足居住 木村彰己氏撮影)



写真 3 アガリヤ I の浸水位置印

その他のアガリヤの事例として、本宮町本宮にあるアガリヤⅡ⁽¹⁰⁾があげられる(写真4)。

主屋が低地にあり、平屋であったために、昭和50年代にアガリヤを建築した。アガリヤⅡは崖地に造られており、階段状の路地が階上に行く経路であり、内部には階段はない。各階に戸口があり、各々が独立している。

木造で屋根は切妻形式、屋根、外壁共にトタン材が用いられた、簡素な造りである。

規模は階下が間口2間、奥行き3間、階上は半間底で迫り出している。階下は前面が土間、奥は床上の板間で、何れも物置である。階上は居室で、底部分が収納空間である(図2)。その後、昭和60年代にアガリヤⅡの向かいにある他家の主屋を購入し、アガリヤとする。

子どもの代になり、平成初期に下部の主屋を二階屋で新築したために、浸水時には二階のベランダから裏の路地に出て、アガリヤに避難できるようになっている(写真5)。



写真4 崖地に造られたアガリヤⅡ



写真5 アガリヤⅡの下部にある主屋二階



図2 アガリヤⅡの平面図

2) その他の家屋転用によるアガリヤ事例

本宮町本宮に昭和6年に生まれ、参詣道沿いに店舗を構えている84歳の淵上文博氏の話では、アガリヤをもつ民家が本宮には多数存在したようである。本宮町本宮は、熊野川沿いの低地にあり、主に商店を営む世帯が多く建ち並んでいる。アガリヤは、人の避難場としてだけでなく、家財道具や商品の避難場所としても使われてきた。本宮では商品を守るためにも高台にアガリヤを設けていた。

一方、この本宮町には公営住宅をアガリヤとして活用した事例がある。昭和28年の紀州大水害後、木造平屋の戸建ての公営住宅が昭和29年から30年代に40戸程建設された。約10年後、公営住宅が払い下げられ、水害避難用の小屋・倉庫、あるいは住宅として使われるようになる。写真6は、本宮地区の元公営住宅である。間取りは、6畳、

3 畳、2 畳の居室と台所、便所から成っていた(写真 6)。

他方、昭和時代初期に建てられた隠居所が昭和時代中期に別家のアガリヤになり、さらに、昭和時代後期に別家の主屋となり現在も住み続けられている事例があり、様々な機能の変遷を辿るアガリヤもある。



写真 6 元公営住宅をアガリヤとした事例



写真 7 元離れをアガリヤとした事例

また、別棟の離れ(元使用人居室)をアガリヤとして活用している例が熊野川町日足にある。写真 2 の提供者、木村彰己氏宅で、アガリヤは敷地上部にある。納屋は明治 28 年の建築であるが、アガリヤの建築年代は明確ではない。アガリヤは何度も増改築され、現状では台所と浴室は内部にあるが、便所は外部のままである。平成 23 年の紀伊半島大水害では、当初、アガリヤではなく、行政局に避難し、その後、知人宅で 1 週間世話になった。主屋が浸水したがアガリヤは浸水しなかったために、約 1 カ月間アガリヤで生活しながら主屋を修理した(写真 7)。

さらに、他家の主屋を入手してアガリヤとするものもある。台所から風呂、便所、居室が整っているために、長期の避難生活が可能である。熊野川町能城山本の集落には、主屋が低地にあるために妻の実家の主屋をアガリヤとしている事例がある。昭和初期頃の建築で、両親の他界により空き家となる。段丘上に設けられているのでアガリヤとして活用している。増改築により居室の拡大や炊事場のダイニングキッチン化、浴室の主屋内化が行われているが、便所は外便所のままである。平成 23 年の紀伊半島大水害では避難場とした(写真 8)、(図 3)。



写真 8 元主屋をアガリヤとした事例

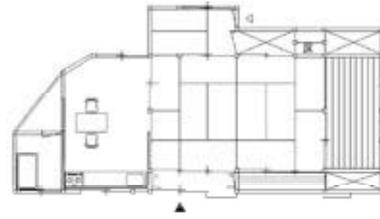


図 3 写真 8 の平面図

(2)アガリヤの成立と変遷

アガリヤの成立時期は明確ではないが、事例では、昭和 34 年の伊勢湾台風後に建設されたものがあり、高度経済成長期までは普及していたといえる。以降は減少していく。その主要因として、ダム建設による治水の変化、住居の変化、避難方法の変化があげら

れる。

熊野川の上流の北山川には高度経済成長期に電源開発のためにダムが建設され、熊野川も含め護岸整備も進み、河川の治水が大きく変わった。流量の調節が可能となり、水害減少が期待された。

住居も変化していく。文献⁽⁴⁾によると、昭和28年の紀州大水害により国道沿いの多くの家が流失した。それまでは平屋建てが主流であったが、以降は二階屋が増加するようになっていく。浸水時には二階に家財道具を運び上げるようになり、アガリヤの必要性が低下していった。

避難方法も変化していく。高度経済成長期以降、公民館や集会所が設けられるようになり、避難施設として活用されるようになる。公共的な建物は、近年は構造面が強化されているだけでなく、設置場所も水害に配慮して高台に建設される傾向にある。また、家族構成の変化、世帯員数の減少、一人暮らしの高齢者の増加により、家族単位での避難から、地域単位で避難する方法に変化している。住民からは、安心である、あるいは情報が入手しやすい、食料や飲料水が配給されるなどの利点があげられている。

平成23年の紀伊半島大水害では、前述のアガリヤⅠの所有者は高台の親戚宅に、アガリヤⅡの所有者は公民館に避難し、アガリヤには避難していない。

アガリヤは次第に建設されなくなり、既存のアガリヤも他の用途に転じていく。本宮地区の公営住宅をアガリヤとして転用した事例は、その後、生活できるように風呂場と物置を増改築し、現在は貸家になっている。主屋に転用されているものもある。アガリヤを他家が主屋として購入する例もあるが、自家で主屋に転用する場合もある。

一方、老朽化と共に既存のアガリヤは徐々に姿を消していった。残されていたアガリヤも紀伊半島大水害により失われたものも多く、現存するものは少数である。

しかし、避難生活が長期化する場合は、公共的な避難所ではプライバシーが守られず、便所、台所、浴室の生活設備が整った自家のアガリヤの必要性を認識している者もいる。

(3)主屋の新たな水害対策

近年は、アガリヤを新築する事例はみられないが、災害に備えるための様々な対策が主屋に試みられている。

そのひとつが主屋を鉄骨造のピロティ形式とし、階下は駐車場、階上に生活空間を設ける方法である。

写真9は、アガリヤⅠの現在の主屋である。平成23年の紀伊半島大水害では、元主屋軒下まで浸水した。災害後は住めなくなり、親戚宅、仮設住居と避難生活を送る中、年代的に他地域に適応することが難しいと判断し、元の土地に新築することを決意する。新築に際して、鉄骨造のピロティ形式とする。一階の鉄骨の梁の上端を272cmの位置まで上げている。

その他の対策として、過去の浸水位置を考慮し、敷地を一階屋根程の高さまで土盛りして、浸水を防ぐ対策も講じられている。写真10、11は本宮町の事例であるが、写真11の家屋は、地域の過去の浸水位置より敷地を高く土盛りしたために、平成23年の紀伊半島大水害時には浸水をまぬがれた。



写真9 ピロティ形式の新築家屋
(熊野川町能城山本)



写真10 高く盛土した本宮地区の新築家屋



写真11 高く盛土した川湯地区の新築家屋

4. おわりに

水害への対策が地域特性ともいえるアガリヤを熊野川流域に生み出した。

アガリヤは、主屋がある敷地の壇上部や、徒歩で移動可能な背面の裏山に設けられるのが一般的である。アガリヤとして建築された事例は、木造で屋根は切妻形式のトタン葺き、外壁もトタンを用いた、建物としては簡素な造りである。平屋以外に地形を利用した二階屋もある。平面構成は、本研究で教室が横に並ぶ並列型以外に、一室構成が見つかり、最小限の形態を捉えることができた。

避難専用のためのアガリヤだけでなく、公営住宅や隠居屋、主屋などをアガリヤとして転用することも行われてきた。台所、便所は転用されたアガリヤには備えられているものが多い。

アガリヤの形成時期は明確ではないが、遅くとも昭和時代中期には存在していた。その後、高度経済成長期頃までは普及し、以降は次第に減少していく。ダム建設による治水対策、住居の二階屋化や公民館の普及などによる避難方法の変化が主要因として考えられる。

水害対策も多様になるなか、アガリヤの必要性が低下し、新築するアガリヤはみられず、残されたアガリヤもごくわずかである。新たな水害対策が有効かは今後の災害時に検証されていくが、一部では避難が長期化する場合は生活設備が整った自家のアガリヤの必要性を認識し、継承しているものもある。

註及び文献

- (1) 和歌山県田辺市本宮町では、「イヌフセギ」の呼称が確認された。
- (2) 一般的には「上がり屋」あるいは「上がり家」と記述されているが、本稿では「アガリヤ」と表記する。
- (3) 千森督子：「和歌山県の民家にみる地方性に関する研究 ― 紀南を中心として―」、『信愛紀

- 要』、第 55 号、pp.73-80、2015 年 3 月
- (4) 海の熊野地名研究会：『災害と地名～減災への道しるべ～』、p.17、2014 年
 - (5) 水谷聡基、落合知帆、岡崎健二：「洪水常襲地における水害発生時の対応行動に関する研究 —和歌山県本宮町萩地区を事例として—」、『公益社団法人日本都市計画学会都市計画報告集 No.12』、pp.156-159、2014 年 2 月
 - (6) 吉田千尋、落合知帆、岡崎健二：「洪水時一時避難のための「上がり家」に関する研究 —和歌山県田辺市本宮町請川地区を事例として—」、『公益社団法人日本都市計画学会都市計画報告集 No.13』、pp.164-167、2015 年 2 月
 - (7) 落合知帆：「洪水常襲地における水害対策としての上がり家」、公益財団法人前田記念工学振興財団平成 26 年度助成研究報告書、pp.1-6、2015 年
 - (8) アガリヤ I と表記する。
 - (9) 千森督子：「紀伊半島大水害による住宅被災状況と避難状況、災害伝承について」、『民俗建築』、第 147 号、pp.22、2015 年 5 月
 - (10) アガリヤ II と表記する。

◎ 平成 27 年度奨励研究 中間報告書②

書式 5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 和歌山信愛女子短期大学

氏名 芝田 史仁

共同研究者

所属 (無所属) 有田郡有田川町吉原 1213

氏名 細田 徹治

研究課題名

和歌山県内に生息する森林生稀少ほ乳類の生息調査

1 目的

ヤマネ、モモンガ、ツキノワグマを中心に、和歌山県内に生息する森林性哺乳類の生息状況を確認し、今後の保護政策策定に役立つ。

2 実施方法

調査は、和歌山県内 5 カ所の森林地帯（紀北 1 カ所、紀中 3 カ所(A、B、C)、紀南 1 カ所 図 1) にて行っている。設置した巣箱は紀北 24 個、紀中 A10 個、B10 個、C25 個、紀南 24 個である。巣箱は、月 1 回程度見回り、利用状況を確認し、記録する。巣材が持ち込まれていた場合は、内容を記録し、それを基に利用種の同定を行う。ヤマネやヒメネズミが巣箱内で発見された場合は捕獲を行い、年齢、性別、体重、外部生殖器の状態、妊娠の有無等の判定、計測、記録を行う。また、紀中 A では各巣箱に 1 台ずつ、合計 10 台のセンサーカメラを設置し、巣箱及びその周辺を利用する哺乳類、鳥類の自動撮影を行っている。また、調査地内のぬた場に 2 台（6 月からは 1 台）センサーカメラを設置し、自動撮影を行っている。紀中 B では 5 個の巣箱に 1 台ずつ、合計 5 台のカメラを設置している。

3 結果

本中間報告では、紀中 2 カ所に設置した 17 台のセンサーカメラにより得られたデータについて報告する。5 月 24 日から 8 月 27 日の間、巣箱周辺で延べ 1250 カメラ・日（カメラ台数×撮影日数）、ぬた場周辺延べ 130 カメラ・日に渡り撮影した結果、哺乳類または鳥類を撮影できたのは延べ 278 回であった（表 1）。そのうち、紀中 A の調査地では、巣箱周辺で哺乳類 8 種 78 個体、鳥類 7 種 48 個体を確認した。同調査地内ぬた場周辺では、哺乳類 7 種 91 個体、鳥類 3 種 17 個体を確認した。一方、紀中 B の調査地の巣箱周辺では、哺乳類 6 種 23 個体、鳥類 9 種 39 個体が確認出来た。表 2 にセンサーカメラにより確認された哺乳類を示す。最も多く撮影されたのは紀中 A (ぬた場) で、イノシシ(確認個体中、45.1%)、次いでニホンジカ (34.1%) であった。また、紀中 A (巣箱) では、シカが最も多く 30.8%、イノシシは 11.5% と 3 番目に多く、2 番目に良く確認されたのはヒメネズミを含むネズミ類であった。一方、紀中 B では、イノシシが最も良く確認され (43.5%)、次いでニホンジカ (26.1%) であった。ツキノワグマは頻度こそ低いけどどのポイントでも確認された。また、ヤマネは紀北 A、B 共に巣箱で確認することが

できた。ニホンリス、アナグマ、ニホンカモシカは紀中 A の調査地でのみ確認された。一方、タヌキは紀中 B でのみ確認することができた。

4 その他

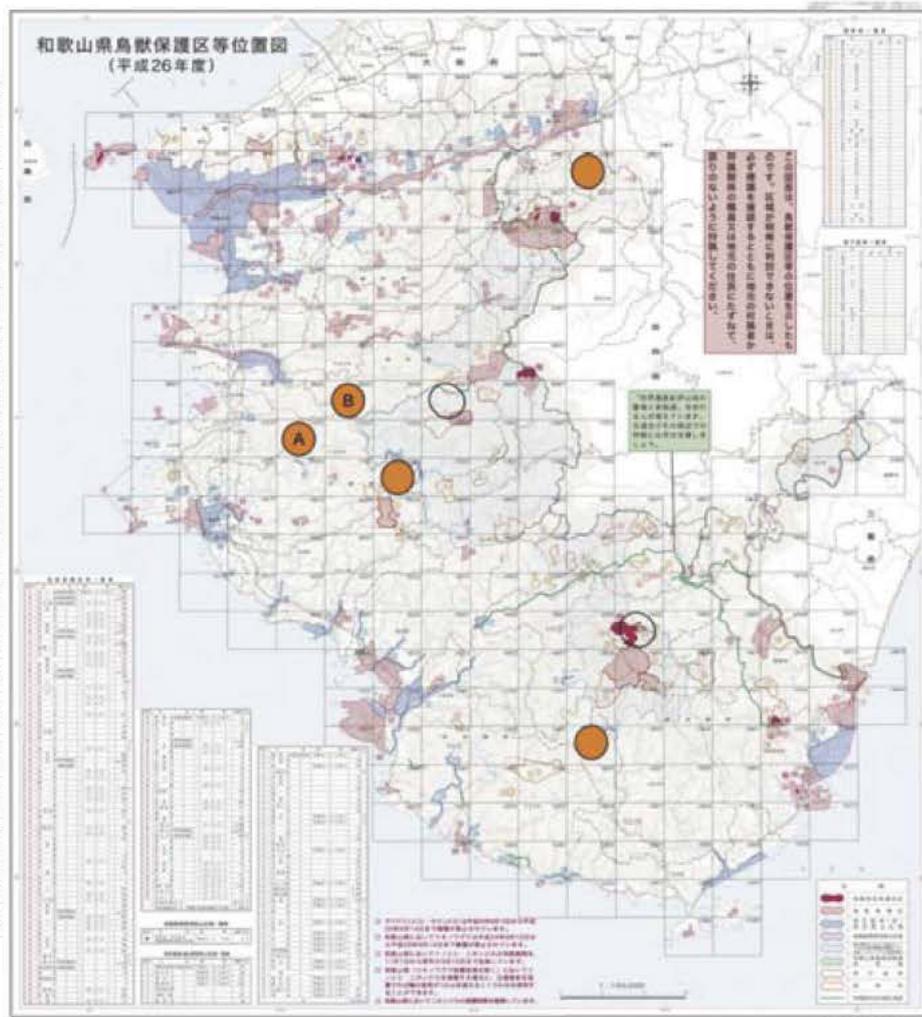


図 1. 和歌山県内における調査値配置。

2009 年より、全 7 カ所で調査を行った (○の地域)。2015 年現在も調査を行っている調査地はオレンジ色の○で示している。

表1. センサーカメラによる自動撮影結果概要.

| | カメラ台数 | 開始日 | 最終日 | 延べ撮影日数 (カメラ・日) | 撮影成功数 | 確認種数 | | 撮影個体数 |
|----------|-------|-------|-------|-------------------|-------|------|----|-------|
| | | | | | | 哺乳類 | 鳥類 | |
| 紀中A(ぬた場) | 2 | 5月24日 | 6月28日 | 130 | 94 | 哺乳類 | 7 | 91 |
| | | 5月24日 | 8月27日 | | | 鳥類 | 3 | 17 |
| 紀中A(巣箱) | 10 | 5月24日 | 8月27日 | 950 | 125 | 哺乳類 | 8 | 78 |
| | | | | | | 鳥類 | 7 | 48 |
| 紀中B(巣箱) | 5 | 6月28日 | 8月27日 | 300 | 59 | 哺乳類 | 6 | 23 |
| | | | | | | 鳥類 | 9 | 39 |

表2. 調査地内で確認された哺乳類とその確認個体数(延べ).

| | 調査地 | | | | | |
|-------------|----------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | 紀中A(ぬた場) | | 紀中A(巣箱) | | 紀中B(巣箱) | |
| | 個体数 | 割合(%) | 個体数 | 割合(%) | 個体数 | 割合(%) |
| イノシシ | 41 | 45.1 | 9 | 11.5 | 10 | 43.5 |
| ニホンジカ | 31 | 34.1 | 24 | 30.8 | 6 | 26.1 |
| テン | 3 | 3.3 | 5 | 6.4 | 1 | 4.3 |
| ツキノワグマ | 2 | 2.2 | 3 | 3.8 | 2 | 8.7 |
| アナグマ | 5 | 5.5 | 3 | 3.8 | | |
| ニホンカモシカ | 1 | 1.1 | 2 | 2.6 | | |
| ヤマネ | | | 4 | 5.1 | 1 | 4.3 |
| ヒメネズミ又はネズミ類 | 3 | 3.3 | 16 | 20.5 | | |
| ニホンリス | | | 1 | 1.3 | | |
| タヌキ | | | | | 1 | 4.3 |
| 総数(個体) | 91 | 100 | 78 | 100 | 23 | 100 |

研究代表者

所属 和歌山信愛女子短期大学
氏名 森下 順子

共同研究者

所属 奈良教育大学教育学部
氏名 厨子 健一

研究課題名

乳幼児をもつ母親のソーシャル・サポートと育児負担感との関連性

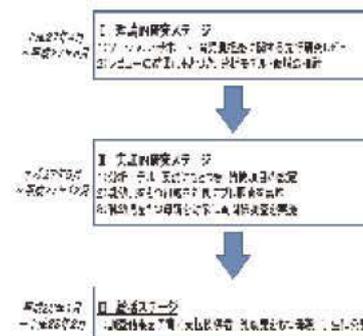
1 目的

本教育研究の目的は、ソーシャル・サポートが乳幼児をもつ母親の育児負担感に与える影響について明らかにすることである。

2 実施方法

本教育研究は、第Ⅰステージ～第Ⅲステージで進める(図)。それは、第Ⅰステージ：先行研究をレビューする段階(理論的研究ステージ)、第Ⅱステージ：質問紙調査を実施する段階(実証的研究ステージ)、第Ⅲステージ：発見事実の理論的・実践的含意を導き出し、提言を試みる段階(総括ステージ)、以上3ステージである。

2015年8月段階において、第Ⅰステージを終了している。現在、第Ⅱステージの質問項目の設定、プレ調査を実施する段階であり、予定通り研究を進めている。10月～11月中旬にかけて、質問紙調査を実施する予定である。



3 結果

第Ⅰステージ：先行研究をレビューする段階(理論的研究ステージ)の結果を示す。先行研究レビューにおける課題は、①ソーシャル・サポートと育児負担感にかかわるどのような研究が存在するか、②ソーシャル・サポートと育児負担感との関係を媒介する変数は何か、以上2点である。先行研究レビューの結果は、表のとおりである。

主な発見事実はずぎの2点である。①ソーシャル・サポートと育児ストレスとの関連をとらえた研究は存在するものの、「誰からの」「どのような」サポートが育児ストレスに影響するのかについて別々に焦点があたっており、「誰からの」「どのような」サポートが育児ストレスに関連するのかを総合的に明らかにした研究は数少ない。②ソーシャル・サポートと育児ストレスとの関係を媒介する母親の育児に関する肯定的感情の重要性が指摘されているものの、関連性を明確にした研究は数少ない。

したがって、本教育研究では、ソーシャル・サポートをサポート源とサポートの種類両面から考え、ソーシャル・サポートと育児に関する肯定的感情、育児負担感との関連性を可視化することが、今後の課題である。

4 その他

特になし

| 著者(年) | 対象者 | 分析手法 | 影響要因 |
|--------------------------|-----------------------------------|-----------------|--|
| 従属変数:育児負担感 | | | |
| 山野(2006) | 1歳半1200名(A市) 1歳半175名(B市) | 共分散構造分析 | 手段的サポート(←) |
| 藤田・金岡(2002) | 4か月344人 1歳6か月371人 3歳6か月252人 | 相関分析 | 支援ネットワーク(←) 手段的支援ネットワーク(←) 情緒的支援ネットワーク(←) |
| 金岡・藤田(2002) | 4か月296人 1歳6か月328人 3歳6か月219人 | 相関分析 | 支援ネットワーク(←) 手段的支援ネットワーク(←) 情緒的支援ネットワーク(←) |
| 海老原・桑野(2004) | 3歳から6歳171部 | 相関分析 | 子育てに関するサポート(←) |
| 鈴木・古株(2015) | 4歳から6歳127人 | 相関分析 | 夫サポート(←) 所属的サポート(←) 情緒的サポート(←) 尊重的サポート(←) |
| 熊倉・谷村・三浦(2000) | 小学生から高校生までの知的障害児をもつ母親92 | 相関分析 | 日常的サポート(←) 障害のない自分の子(←) |
| 従属変数:育児不安 | | | |
| 渡辺・石井(2009) | 乳幼児88名 | 共分散構造分析 | 身近なサポート(←) |
| 荒牧・田村(2003) | 未就学児を持つ母親384票 幼稚園児を持つ母親対象) | 相関分析 クロス集計 | 複数の対象サポート(←) 道具的サポート(←) 情緒的サポート(←) |
| 山口・遠藤・小林・藤田(2009) | 産後1か月健康診査に来院した母親128名 | 共分散構造分析 | 実母からの手段的サポート満足度 |
| 従属変数:育児の肯定的・否定的感情 | | | |
| 荒牧(2005) | 0歳から6歳830名 | 相関分析 重回帰分析 | 【ふたり親】重回帰分析 夫サポート(←) 園の先生サポート(←) 【ひとり親】相関分析 兄弟姉妹サポート(←) |
| 荒牧・無藤(2008) | ふたり親家庭の母親733名 | 相関分析 重回帰分析 | 夫サポート(←) 親族外サポート(←) 情報サポート(←) |
| 高橋・園田(2008) | 3～5歳児をもつ母親485名 | 相関分析 | 妻方の親(←) 夫方の親(←) きょうだい(←) 近所の人(←) |
| 従属変数:育児ストレス | | | |
| 寺見(2015) | 3歳児以下142名 | 重回帰分析 | 夫の協力・理解(←) 一人で育児(←) 育児サークルや専門機関(←) |
| 井上・柳田・深見・深野(2014) | 保育園に通う子どもの母親146名 | 差の検定 | 夫婦親密性サポート(←) 家族サポート(←) 実行されたサポート(←) |
| 北川・七木田・今塩屋(1995) | 障害幼児をもつ母親239 健常幼児をもつ母親171 | 相関分析 | 【障害幼児をもつ母親】 夫婦親密性サポート(←) 家族サポート(←) 実行されたサポート(←) 【健常幼児をもつ母親】 夫婦親密性サポート(←) 家族サポート(←) |
| 竹田・岩立(1999) | 保育所に子どもを通わしている母親94部 | 相関分析 | サポート源の数(←) |
| 石・桂田(2010) | 両親と暮らす保育園児(2歳～6歳)272名の家庭 | 相関分析 重回帰分析 | ソーシャルサポート(←) |
| 中村・高橋(2013) | 3歳児から5歳児クラスに通う園児の母親225名 | 相関分析 共分散構造分析 | 総ソーシャルサポート量(←) 総ソーシャルサポート満足度(←) |
| 酒井・松本・菅原(2014) | 保育園に通う子どもの母親440名 | 共分散構造分析 | 夫からのサポート(←) 自分の母親からのサポート(←) 親友(友人)からのサポート(←) 母親の職場からのサポート(←) |

※先行研究の順番については、現在整理途中のため順不同である。

IV. 活動報告（社会貢献）

1) 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業

① 事業内容

新たな全学的組織『きょう育の和センター』と和歌山市が連携し、新たな子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を創設する。学内に残る豊かな自然環境と一部施設を利用した、この教育・研究・社会貢献が融合した拠点で、和歌山市から派遣された保育士と、本学教職員・学生が連携し、平日週2日と毎月1回土曜日に子育て支援活動を行う。和歌山の原風景を残した学内の自然環境を積極的に活用することで、親子の心身共に健やかな子育て・子育てを支援する。

② 平成 27 年度計画

子育て支援事業『子育て広場』（月1回土曜日）、『ふれ愛ルーム 木のおうち』（週2回月・水）を和歌山市と連携して開催し、地域の子育て家庭を対象とした支援プログラムを実施する。また、利用者を対象としたアンケート調査を行う。

② 成果

4月13日月曜日、学内に『ふれ愛ルーム 木のおうち』をオープンした。また、5月13日に和歌山市長をまねき、オープニングセレモニーを実施した（下記写真）。



平成 28 年 1 月までの『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者は、延べ 6,446 名であった

(下記写真は施設内の風景)。この内、保護者が2,565名、乳幼児が2,813名、学生が509名という結果となった。



◎ 『ふれ愛ルーム木のおうち』 利用実績

| 月別 木のおうち 実施記録 | | | | | | | | | | | | | | | | | 平成27年度 | |
|---------------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-------|----|-----|-----|------|-----|----|-------|-------|--------|----|
| 開催月 | 子どもの数 | | | | | | | 子ども合計 | 親 | 付添 | 教員 | スタッフ | 保育士 | 学生 | その他 | 大人合計 | 総計 | 新規 |
| | 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 6歳以上 | | | | | | | | | | | |
| 4月集計 | 42 | 45 | 27 | 2 | 0 | 0 | 116 | 107 | 2 | 27 | 10 | 10 | 169 | 6 | 331 | 447 | 69 | |
| 5月集計 | 71 | 133 | 61 | 6 | 0 | 0 | 271 | 253 | 12 | 37 | 12 | 12 | 124 | 13 | 463 | 734 | 135 | |
| 6月集計 | 128 | 273 | 136 | 19 | 0 | 0 | 556 | 492 | 13 | 48 | 18 | 18 | 129 | 33 | 751 | 1307 | 226 | |
| 7月集計 | 63 | 166 | 100 | 13 | 5 | 0 | 349 | 307 | 12 | 20 | 14 | 14 | 15 | 5 | 387 | 736 | 84 | |
| 8月集計 | 18 | 70 | 31 | 8 | 1 | 0 | 131 | 118 | 4 | 9 | 6 | 6 | 0 | 2 | 145 | 276 | 24 | |
| 9月集計 | 82 | 145 | 99 | 30 | 0 | 0 | 356 | 305 | 14 | 16 | 13 | 14 | 0 | 1 | 363 | 719 | 83 | |
| 10月集計 | 80 | 128 | 84 | 39 | 1 | 0 | 332 | 290 | 12 | 27 | 14 | 14 | 38 | 0 | 395 | 727 | 73 | |
| 11月集計 | 68 | 135 | 86 | 42 | 1 | 0 | 332 | 288 | 7 | 28 | 16 | 16 | 14 | 13 | 382 | 714 | 50 | |
| 12月集計 | 36 | 83 | 52 | 31 | 0 | 0 | 202 | 174 | 4 | 13 | 10 | 10 | 15 | 1 | 227 | 429 | 25 | |
| 1月集計 | 22 | 73 | 45 | 27 | 1 | 0 | 168 | 145 | 6 | 13 | 8 | 8 | 5 | 4 | 189 | 357 | 29 | |
| 2月集計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 3月集計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 項目別合計 | 610 | 1,251 | 721 | 217 | 9 | 0 | 2,813 | 2,479 | 86 | 238 | 121 | 122 | 509 | 78 | 3,633 | 6,446 | 798 | |

また、毎月土曜日に行っている『子育て広場』は、1月までに9回（平成27年度は全11回実施予定）実施し、延べ1,169人が参加した。参加者の内訳は、保護者444名、乳幼児463名、学生198名であった。



◎ 『子育て広場』 利用実績

| 開催日 | 子どもの数 | | | | | | 性別 | | 合計 | 父親 | 母親 | 学生 | スタッフ | 教員 | 総計 | 学生によるプログラム | |
|------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|----|----|----|----|------|----|----|------------|--|
| | 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 6歳以上 | 男の子 | | | | | | | | | 女の子 |
| 4月18日 | 11 | 14 | 12 | 5 | 2 | 2 | 0 | 19 | 27 | 46 | 7 | 35 | 26 | 2 | 6 | 122 | 手遊び「一本指で拍手」、「あたまかたひざぼん」、アンパンマン体操 |
| 5月9日 | 16 | 17 | 16 | 6 | 7 | 1 | 3 | 26 | 40 | 66 | 6 | 51 | 33 | 2 | 1 | 159 | 手遊び「はじまるよ」「けんこつやまのたぬきさん」「くーちよきばー」 |
| 6月6日 | 10 | 20 | 10 | 8 | 4 | 2 | 3 | 27 | 30 | 57 | 7 | 45 | 13 | 2 | 1 | 125 | 手遊び「チョキチョキダンス」 |
| 7月4日 | 19 | 24 | 18 | 2 | 0 | 0 | 0 | 32 | 31 | 63 | 14 | 54 | 25 | 1 | 10 | 167 | 手遊び「ころころたまご」 絵本よみかせ「だるまんが」 森崎ゼミ アンケート 森崎ゼミ ビデオ撮影 |
| 8月22日 | 7 | 15 | 7 | 5 | 2 | 1 | 0 | 13 | 24 | 37 | 6 | 36 | 13 | 2 | 1 | 95 | 手遊び「まあるい鯛」エプロンシアター「カレーライス」「ももたろう」 |
| 9月19日 | 15 | 12 | 7 | 5 | 3 | 0 | 0 | 24 | 18 | 42 | 8 | 33 | 17 | 2 | 1 | 103 | 手遊び「ピクニック」「かみなりどんがやってきた」、絵本「だるまんが」 |
| 10月国体のため中止 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月14日 | 14 | 17 | 6 | 10 | 3 | 3 | 0 | 26 | 27 | 53 | 9 | 42 | 15 | 2 | 10 | 131 | 手遊び「頭・肩・ひざ」「ねこのこ」 森崎ゼミ、ビデオ撮影 食物専攻学生、アンケート調査 |
| 12月19日 | 17 | 17 | 7 | 6 | 0 | 2 | 0 | 29 | 20 | 49 | 8 | 40 | 29 | 2 | 5 | 133 | ミュージックベル 人形劇「ぐりとぐらのえんそく・三匹のこぶた」 |
| 1月23日 | 18 | 12 | 7 | 7 | 3 | 3 | 0 | 28 | 22 | 50 | 10 | 33 | 27 | 2 | 12 | 134 | 手袋シアター「カレーライス」 手遊び「くペンギンさんのやまのぼり」 バスにのって 食物栄養専攻 調査結果報告会 |
| 2月20日 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3月12日 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

③ 自己評価

『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者に行ったアンケート調査（n=100人）では、96.0%の保護者が、「本学が和歌山市と連携して行う子育て・子育て支援事業について評価する」と答えていた。さらに、『子育て広場』利用者に行った

アンケート調査（n=43人）では、97.7%の保護者が評価しており、社会貢献事業としての目的を概ね達成したと考えている。

また、『ふれ愛ルーム 木のおうち』について全学生に対して行ったアンケートでは（n=364人）、半数以上の学生が（54.7%）、「子どもと触れあえる」ことに高い満足感を得ていた。さらに、4割以上の学生が（43.1%）、「保護者と話す機会がある」ことに高い満足感を示していることが明らかになった。これらの結果は、本事業が、学生の学びの動機付けになっていることを示唆し、教育面でも学生に良い効果をもたらしていると評価できる。

◎ 子育て支援施設とスタッフ

○ ふれ愛ルーム 木のおうち



子育て子育て支援事業及び実践的教育プログラムを行う室内施設。基本的に毎週2日、月曜日と水曜日に開園する。

○ 森の広場 のびのび



大学構内にある里山を利用した屋外施設。学生と共に子ども達が和歌山の自然を体験し、育つことで健やかな子育て・子育てを支援する。

木のおうち スタッフ

〈 和歌山市地域子育て支援センター中之島 保育士 〉



馬場先生



島先生



山本先生



板坂先生

〈 きょう育の和センター 事務補佐 〉



柳本



林

◎ 『ふれ愛ルーム 木のおうち』 オープニングセレモニー資料



和歌山信愛女子短期大学 子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう育の和」
「ふれ愛ルーム木のおうち」 オープニングセレモニー 式次第

日時：平成 27 年 5 月 13 日（水）

11：00～11：30

場所：和歌山信愛女子短期大学
ふれ愛ルーム 木のおうち

1. 開式宣言 きょう育の和センター長
2. 挨拶 学長
3. 祝辞 和歌山市長
4. テープカット



和歌山信愛女子短期大学 子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう育の和」
「ふれ愛ルーム木のおうち」 オープニングセレモニー 出席者

和歌山市

市長 おぼな まさひろ 尾花 正啓

福祉局長 つじ まさよし 辻 正義

子ども未来部長 はまばた さよこ 濱端 早余子

子ども未来部子育て支援課 課長 みやざき ひさし 宮崎 久

和歌山信愛女子短期大学

学長 もりた としこ 森田 登志子

副学長 おおやま てるみつ 大山 輝光

きょう育の和センター長 しばた ふみひと 芝田 史仁

ニュース和歌山 (4月18日)



わかやま新報 (5月15日)

2015年(平成27年)5月14日(木曜日) 和歌山 和3 26

親子の遊び場 無料開放

信愛女子短大 週2回、保育士相談も

和歌山信愛女子短大(和歌山市相取)は13日、小学1年生までの子どもと親を呼び、親子の遊び場を無料開放した。月曜と水曜の週2回、住民らに施設を開放している。同大で保育士を担任する学生とふれあえるほか、和歌山市が派遣する保育士も子育てに関する相談を受けることもできる。

同大には保育科があり、保育士や幼稚園教諭を目標とする学生が通う。木のおうちでは、学生が実際に幼児や保護者とコミュニケーションをとったり、子どもへの対応力を養成する場に役立っている。

木のおうちは、キャンパスの建物1階にあり約100平方メートルの広い遊具や絵本、積み木などのおもちゃが用意され、自由に遊べる。おむつ替えコーナーや授乳室もある。

一般の利用は月曜と水曜



の午前10時から午後3時、保育の実践的な勉強に役立てる。保育士と子どもを遊ばせたり、話を聞いたりして、保育士としてのスキルを磨く。この日、さっそく利用した。木のおうちは、学生が実際に幼児や保護者とコミュニケーションをとったり、子どもへの対応力を養成する場に役立っている。

和歌山市の担当者は「学生の一人は「おもちや」が好きで、ベテラン保育士も得意で親子で楽しく遊んで、親子の絆を深めてほしい」と話していた。

3・4・9・10・6へ

子育て 遊んで話して交流

和歌山信愛女子短大が支援施設開設

子育て中の親同士が交流したり、子どもが遊んだりできる子育て支援施設を、和歌山信愛女子短大(和歌山市相取)が保育棟1階に開設した。保育士らが常駐する無料の施設で、学生らへの教育効果も期待されている。

施設名は「ふれあルーム木のおうち」。

文部科学省が地域と連携する大学を支援する「地(知)の拠点整備事業」の一環で、市も保育士2人を派遣して協力する。対象は就園前の0〜3歳児と保護者で、祝日を除く月・水曜の午前10時から午後3時に開館する。

森をイメージした165平方メートルの部屋には、木製の知育玩具や遊具55種類1079点をそろえ、おむつ替えコーナーや授乳・飲食ルームがある。隣接する絵本ルームには約1千冊の本を用意している。

初日の13日は同市内を中心に44組の親子でにぎわった。海南市から訪れた主婦の大江山苗さん(58)は「家には置けない大きなおもちゃが多いので、子どもが喜んで遊んで行っていた。友だちもできるのだから、毎週来たい」と喜んでいた。

保育科や生活文化学科食物栄養専攻などのコースがある同短大は、子育て中の親と学生たちが触れ合うことで、セミ活動など実践的な教育の場にもなる考え。保育科2年の相原麻里さん(19)は「お母さんの話を直接聞けて、子どもがどんなおもちゃが好き

保育士常駐 学生実践教育も

保育士が常駐し、親子連れでにぎわう「ふれあルーム木のおうち」(和歌山市相取)



和歌山信愛女子短大(和歌山市相取)は13日、小学1年生までの子どもと親を呼び、親子の遊び場を無料開放した。月曜と水曜の週2回、住民らに施設を開放している。同大で保育士を担任する学生とふれあえるほか、和歌山市が派遣する保育士も子育てに関する相談を受けることもできる。

毎日新聞 2015年(平成27年)5月14日(木)

地域活性化 子育てから

和歌山 和歌山を子育てのしやすい街として活性化させようと、「きょう育の和」事業に取り組み和歌山信愛女子短大(和歌山市相坂)で13日、3歳未満の子供と保護者が無料で利用できるほか、保護者同士の交流や保育相談ができる子育て支援施設「ふれ愛ルーム木のおうち」のオープニングセレモニーがあった。施設は校舎の一角にあり、4月13日にオープンした。授乳・飲食ルームを含む165平方メートルをコンセプトに積み木など木の玩具がそろった。対象は3歳未満の乳幼児と保護者。子供たちが自由に遊べるほか、幼稚園入園前などで孤立しがちな保護者同士が交流で

信愛女子短大 支援施設オープニングセレモニー

和歌山を子育てのしやすい街として活性化させようと、「きょう育の和」事業に取り組み和歌山信愛女子短大(和歌山市相坂)で13日、3歳未満の子供と保護者が無料で利用できるほか、保護者同士の交流や保育相談ができる子育て支援施設「ふれ愛ルーム木のおうち」のオープニングセレモニーがあった。施設は校舎の一角にあり、4月13日にオープンした。授乳・飲食ルームを含む165平方メートルをコンセプトに積み木など木の玩具がそろった。対象は3歳未満の乳幼児と保護者。子供たちが自由に遊べるほか、幼稚園入園前などで孤立しがちな保護者同士が交流で

「独りで悩まないで」
保護者の交流や相談受け付け

2013年度の文部科学省「地域拠点整備事業」の補助金で開設。短大側は、教員や学生が子育ての悩みやそれに対応する保育プログラムなどを研究する場として活用する。中心となって企画した阿大の芝田史仁・きょう育の和センター長は「学校が蓄積した保育の専門知識を生かし、親、教員、学生が互いに学べる場にした」と話している。

セレモニーでは、尾花正啓市長や短大関係者らが出席し、テープカットが行われた。尾花市長は、親子が触れ合い、学ぶことが出来る素晴らしい場。市としても子育て支援を重点政策として取り組んでいきたい」とあいさつした。

午後7カ月の息子と訪れた和歌山市吉礼の主婦、酒井仁美さん(28)は「家にもっているど気持ちもふさぐ。子育ての悩みを相談できる保育士や子育て中のお母さんが身近にいるのは心強い」と喜んでた。

毎週月・水曜の午前10時〜午後3時。一度に30組60人程度が利用できる。和歌山信愛女子短大(073・479・1106)。

【谷田朋美】

山 平成27年(2015年)6月19日 金曜日

和歌山 子育て支援施設「ふれ愛ルーム」のオープニングセレモニー

和歌山を子育てのしやすい街として活性化させようと、「きょう育の和」事業に取り組み和歌山信愛女子短大(和歌山市相坂)で13日、3歳未満の子供と保護者が無料で利用できるほか、保護者同士の交流や保育相談ができる子育て支援施設「ふれ愛ルーム木のおうち」のオープニングセレモニーがあった。

施設は校舎の一角にあり、4月13日にオープンした。授乳・飲食ルームを含む165平方メートルをコンセプトに積み木など木の玩具がそろった。対象は3歳未満の乳幼児と保護者。子供たちが自由に遊べるほか、幼稚園入園前などで孤立しがちな保護者同士が交流で

「わがまち魅力再発見」
は子育て支援「ふれ愛ルーム」木のおうち」写真
和歌山市と和歌山信愛女子短大が連携し、子育て支援活動をしていて、同短大内に、「ふれ愛ルーム」木のおうち」を開設している。その施設と概要を紹介する。

は、全国の「当地アイドル」やコスプレ、アニソンなどのサブカルチャーが、和歌山マリナーシティに集結したイベント、和歌山ポップカルチャーフェスティバルの模様を送る。

◇わがまち和歌山
21日午後5・30〜6・00
(再放送 28日午前10・00〜10・30)

「今月の特集」は「絶景を築しめる自然派レストラン」四階農園」。5月11日にランドオープンした和歌山市役所14階のレストラン「十四階農園」。安心安全で新鮮な食材で構成された野菜メインのヘルシー料理をバイキング形式で食べる。ことができ、和歌山城の四季折々の眺望を築しめる。

「わがまち魅力再発見」は子育て支援「ふれ愛ルーム」木のおうち」写真
和歌山市と和歌山信愛女子短大が連携し、子育て支援活動をしていて、同短大内に、「ふれ愛ルーム」木のおうち」を開設している。その施設と概要を紹介する。



「子育て支援 ふれ愛ルーム『木のおうち』」

放送日… 平成27年 6月21日(日) 17時30分～17時59分
(再放送) 6月28日(日) 10時00分～10時29分

ロケ… 5月27日(水) ※HD手話サイズ

場所… 和歌山信愛女子短期大学(和歌山市相坂702番2)

| 時間 | 内容 |
|-------|-----------------------|
| 12:00 | テレビ和歌山集合(花阪・アクロススタッフ) |
| 12:30 | 和歌山市役所(木下さん合流) |
| 13:10 | 和歌山信愛女子短期大学 到着・準備 |
| 13:30 | 撮影 |
| 15:00 | 撮影終了・撤収 |

◎ 和歌山市発行 つれもて子育て応援ブック掲載記事

子育てひろば

●子育て支援課 ☎073-435-1320

各コミュニティセンターと児童発達支援センターの併設で実施しています。子育て支援が実施しているスタッフが個別に対応しています。実施内容も合わせても。



9:30～
-子育て支援相談
-自由遊び

10:00～11:00
-伊勢ひょうろく遊び
-身近な材料で遊べるおもちゃを作って遊ぼう
-パネルシアターもどき




パネルシアターやレインの子ども遊びなど、おまけの遊び、運動会もするよ。お楽しみ会も実施できます。詳しくは電話か「子育てひろば」のホームページで。子育てひろばの申込み [\(検索 \)](#)

和歌山県立女子短期大学 きょう育の和センター

和歌山県立女子短期大学の「子育て支援センター」として、和歌山県「きょう育の和」が実施する子育て支援センターとして設置された。今後、きょう育の和センターを中心に、地域に貢献できる人材を育て、地域が元気になる活動づくりに取り組む。




[http://www.wjsh.ac.jp](#)
和歌山県立女子短期大学

●子育て支援事業「きょう育の和」

和歌山県立女子短期大学と和歌山市との連携で子育て支援事業を展開しています。ぜひのぞいて下さい。

☆ふれあいルーム「木のようち」
毎週月曜日10:00～15:00 (祝日の場合は休み)



☆森の広場 のびのび



☆子育て広場
土曜日 09:10～11:30 (保育所)



和歌山県立女子短期大学 きょう育の和センター [\(検索 \)](#)

☎073-479-1106

和歌山市北郷4-2
073-479-1107
<http://www.kibei-ec.jp/yokosawa/>
kisei@kisei-magohara-nac.jp
あじ

きょう育の和 [\(検索 \)](#)

[http://www.wjsh.ac.jp](#)
和歌山県立女子短期大学

平成 27 年 市報和歌山 5 月号

PickUp **6**

地(知)の拠点事業 きょう育の和

ふれ愛ルーム「木のおうち」に集まれ♪

■問合せ先=きょう育の和センター TEL479-1106

親子の集える場所「木のおうち」。木のおもちゃや遊具、絵本などで自由に遊ぶことができます。ぜひご利用ください。保育士もいるので、子育てに関する相談もできますよ！

●開放日時/毎週(月)(水)10時～15時

※5月13日(水)11時～11時30分にオープニングセレモニーを行います。

●場所/和歌山信愛女子短期大学(相坂 702-2)



きょう育の和とは？

和歌山信愛女子短期大学と行政が連携・協力して実施する、地域の子育ての課題に取り組む事業です。



すぐのび通信

和歌山市子育て情報

2015年 5月号

Sukunobi Journal 発行:すぐのびネット 和歌山市子育て支援ネットワーク実行委員会

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>5月号の内容は</p> <p>キッズフィーリングアーツ ふれ愛ルーム「木のおうち」 おそとでぐるんば</p> | <p>ふれ愛ルーム まぐすろーむ おそとでぐるんば おそとでぐるんば</p> | <p>アール・エコー カクシタ マツダ・リフレクションタイム ふれ愛ルーム</p> | <p>ママカフェ・ママカフェ ママカフェ ママカフェ ママカフェ</p> |
|--|--|---|--|

●子どもNPO和歌山県センター TEL: 073-432-3664

光ゆらゆら 心ふわふわ キッズ フィーリングアーツ

感性を伸ばす現代美術体験

日程 5月9日(土)
時間 13:30~14:30 乳幼児と保護者
15:00~16:00 小学生以上
場所 キッズステーション
会場 フィーリングアーツボランティア委員会
参加費 無料
どなたでも参加いただけます。

定員 30名

フィーリングアーツは音楽と光と絵画による体感型の総合芸術で、1983年に現代美術作家の北村義雄が独自の感性と技法で創作したものです。

問い合わせ
NPO法人 子どもNPO和歌山県センター
和歌山市若菜29
TEL: 073-432-3664
FAX: 073-463-1243

●ドレミふれあい TEL: 073-486-6767

ドレミふれあいじかん

ふれあいのマージャンを学ぶ

日程 5月12日(火)
時間 10:30~11:30
会場 ドレミふれあい
参加費 無料(お茶代は別途お支払い)
定員 8組程度
持ち物 バスオムレツ、オイル(ある方)、水分補給できる飲み物、替指のおまけセット
講師 ホッピングママ講師 福田香穂さん

問い合わせ
和歌山県和歌山県493-11 和歌山県センター(和歌山)
TEL: 073-486-6767

●和歌山信愛女子短期大学 せうきやのびセンター

4月スタート!!ふれ愛ルーム「木のおうち」

春の気配ののび

和歌山信愛女子短期大学の学内施設の一部を開放し、笑顔一杯の地割づくりを直接して活動します。遊びに来て下さいね。

日程 毎週月・水曜日(祝・祭日を除く)
時間 10:00~15:00
場所 和歌山信愛女子短期大学 学内
参加費 無料(申込 不要)

問い合わせ
和歌山信愛女子短期大学
せうきやのびセンター
〒640-0341
和歌山県和歌山市和歌702-2
TEL: 073-479-1106 FAX: 073-479-1107
E-mail: kenedate-cocacina@u.ac.jp HP: http://www.shinai-u.ac.jp/kyunkunews/

●ほっとルームくるんば TEL: 073-452-2303

おそとでぐるんば

みんなでいっしょに遊び、ボールやロープ、ダンボールのお家、いろんなコーナーでいっぱい遊ぼう!

日程 5月24日(日)
時間 10:30~14:30
会場 紀ノ川第8緑地(日野計公園)
参加費 無料(申込 不要)

問い合わせ
ほっとルームくるんば
和歌山県和歌山県493-11 和歌山県センター1F
TEL: 073-452-2303

詳しくはホームページをご覧ください

和歌山県和歌山県493-11 和歌山県センター

◎ 木のおうち利用者アンケート（保護者用）

保護者用

ふれ愛ルーム「木のおうち」利用者アンケート

ふれ愛ルーム「木のおうち」について以下の質問にお答えください。

本アンケートは、今後の事業展開の参考とさせていただきます。本目的以外には使用しません。ご協力よろしくをお願いします。

1. あなたご自身についてお答えください。

- ① あなたの年齢 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代以上
- ② あなたのお子さんの人数 1人・2人・3人・4人・5人以上
- ③ 木のおうちに連れてこられるお子さんの年齢（人数分に○）0歳・1歳・2歳・3歳・4歳・5歳以上
- ④ 現在のお立場 専業主婦・仕事をしている（パートを含む）・休職中・求職中・その他（ ）
- ⑤ 現在お住いの地域 和歌山市・海南市・岩出市・紀の川市・紀美野町・かつらぎ町
その他（ ）
- ⑥ 現在の居住地に住まれて何年ですか 1年未満・1～3年・3～5年・6～10年・11年以上

2. 本学が行う「地（知）の拠点事業「きょう育の和」についてお答えください。

- ① 本学が、和歌山県における「地（知）の拠点」大学として、地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。 知っている 知らない わからない
- ② 本学が和歌山市と連携して行う、子育て・子育て支援事業について、どう思われますか。
評価する どちらともいえない 評価しない

3. ふれ愛ルーム「木のおうち」についてお答えください。

| | 不満足 | | ⇔ | とても満足 | |
|-------------------|-----|---|---|-------|---|
| 開所している曜日(月・水) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 開所時間(10:00～15:00) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 室内の広さ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| おもちゃの種類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 絵本の種類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子育てに関する情報提供 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子育てに関する相談 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| スタッフの対応 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| スタッフの数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学生との交流 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ホッとできる場 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 親子で遊べる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子ども同士で遊べる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 親子とも知り合いができる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ランチができる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学内食堂が利用できる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

***裏面もご記入ください**

4. ふれ愛ルーム「木のおうち」を利用して、あなた自身や子育てに何か変化はありましたか。

ある ・ ない

あるに○をつけた方にお聞きします。

・あてはまる項目に○をつけてください（複数可）

| | |
|----------------------|--|
| 子育てが楽しくなった | |
| お友達ができた | |
| 話し相手が増えた | |
| 子育てについて悩まなくなった | |
| 地域の情報を得ることができた | |
| 子どもといると楽しいと思えるようになった | |
| イライラすることが減った | |
| 学生との交流が深まり視野が広がった | |
| 学ぶ楽しさを感じるようになった | |
| 社会や地域に関心が高まった | |

・そのほか何か変化があればご自由にお書きください。

[]

5. ふれ愛ルーム「木のおうち」に対して改善してほしいことがありましたらお書きください。

[]

◎ 木のおうち利用者アンケート（保護者用）集計結果

ふれ愛ルーム「木のおうち」利用者アンケート

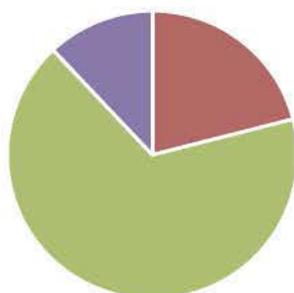
～単純集計グラフ～

2016年1月

和歌山信愛女子短期大学

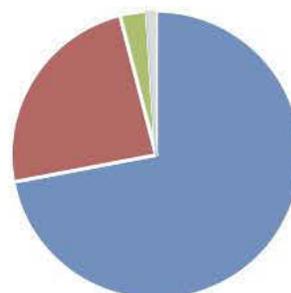
1. あなたご自身について

① あなたの年齢 (n=100)



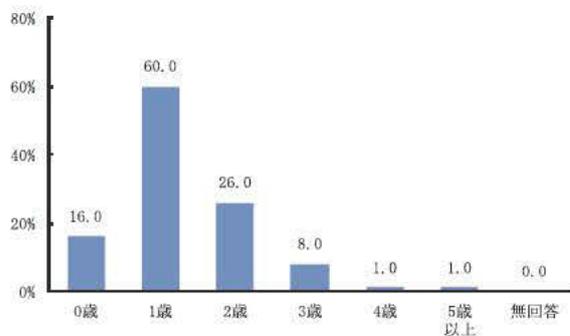
■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代以上 ■ 無回答

② あなたのお子さんの人数 (n=100)

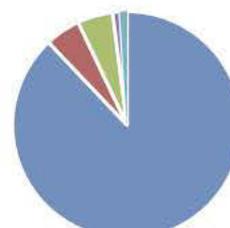


■ 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人 ■ 5人以上 ■ 無回答

③ 木のおうちに連れてこられる
お子さんの年齢 (n=100) [複数回答]



④ 現在のお立場 (n=100)



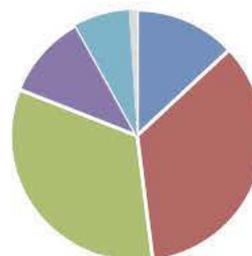
■ 専業主婦 ■ 仕事をしている ■ 休職中
■ 求職中 ■ その他 ■ 無回答

⑤ 現在お住まいの地域 (n=100)



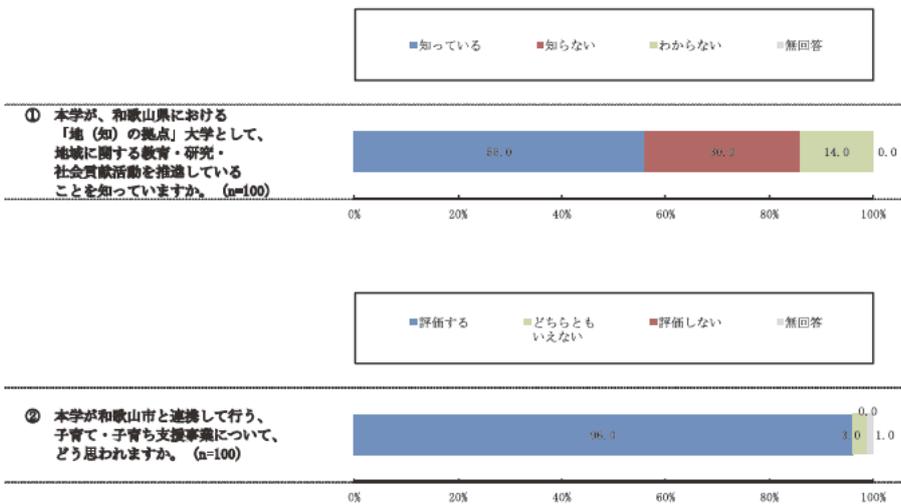
■ 和歌山市 ■ 海南市 ■ 岩出市
■ 紀の川市 ■ 紀美野町 ■ かつらぎ町
■ その他 ■ 無回答

⑥ 現在の居住地に生まれて何年ですか (n=100)

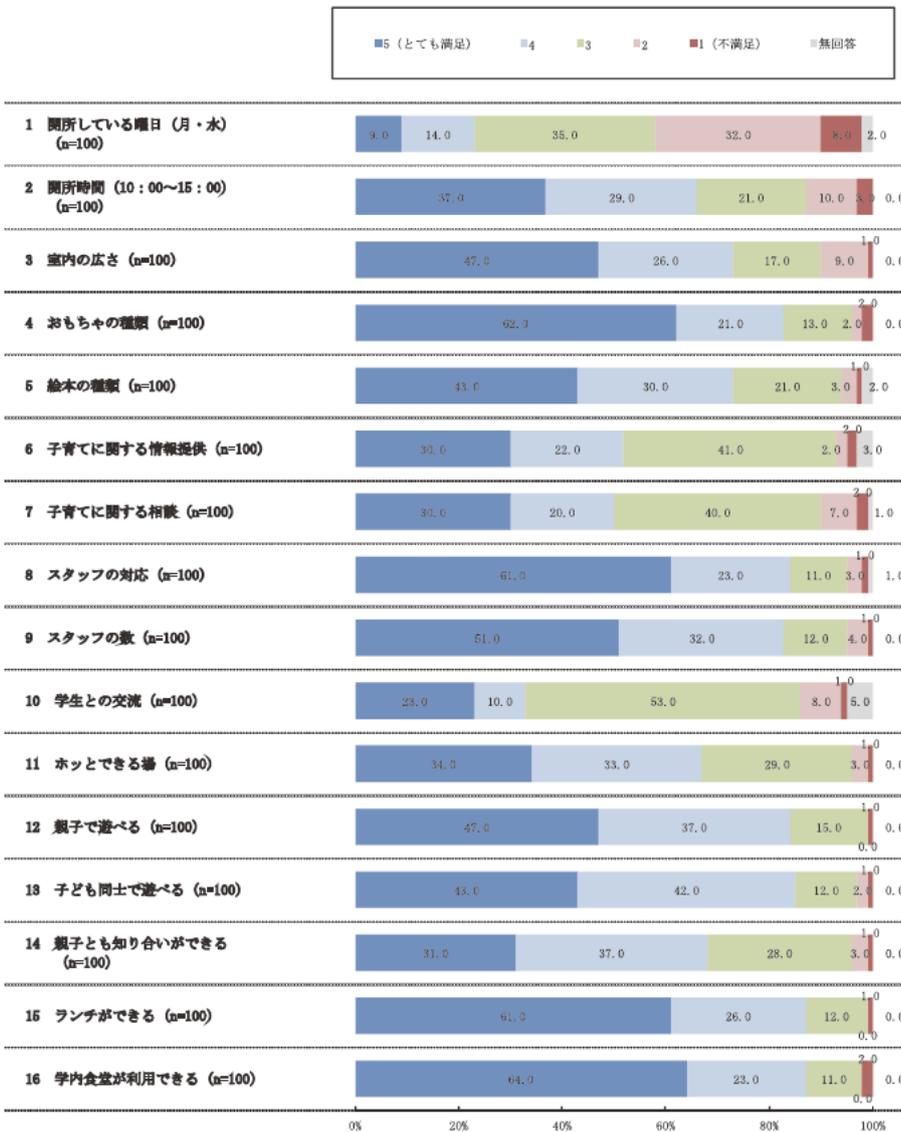


■ 1年未満 ■ 1～3年 ■ 3～5年
■ 6～10年 ■ 11年以上 ■ 無回答

2. 本学が行う「地（知）の拠点事業『きょう育の和』について

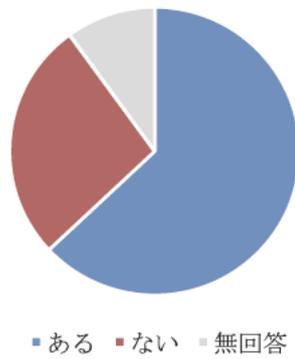


3. ふれ愛ルーム「木のおうち」について

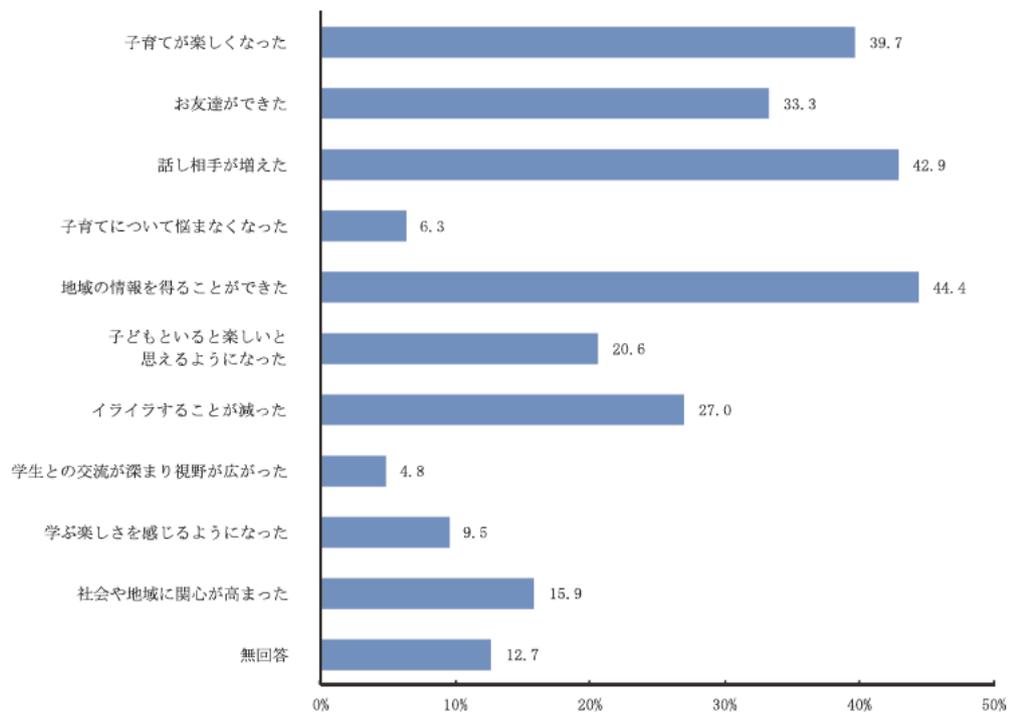


4-1. ふれ愛ルーム「木のおうち」を利用して、あなた自身や子育てに何か変化はありましたか。

(n=100)



4-2. どのような変化がありましたか。＜変化が「ある」回答者のみに限定＞〔複数回答可〕 (n=100)



◎ 木のおうち利用者アンケート（学生用）

学生用

ふれ愛ルーム「木のおうち」利用者アンケート

ふれ愛ルーム「木のおうち」について以下の質問にお答えください。

本アンケートは、今後の事業展開の参考とさせていただきます。本目的以外には使用しません。ご協力
 よろしくをお願いします。

1. あなたご自身についてお答えください。

- ① 所属（保育科 ・ 生活文化 ・ 食物栄養）
- ② 学年（1年 ・ 2年）
- ③ あなたの兄弟の人数（自分を含めて）（1人 ・ 2人 ・ 3人 ・ 4人 ・ 5人以上）
- ④ 近所付き合いはありますか（ある ・ ほとんどない ・ ない）
- ⑤ 人と関わることは好きですか（好き ・ あまり好きではない ・ 嫌い）

2. ふれ愛ルーム「木のおうち」についてお答えください。

| | 不満足 | | ⇔ | とても満足 | |
|------------------------------------|-----|---|---|-------|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 開所している曜日(月・水) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 開所時間(10:00~15:00) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 室内の広さ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| おもちゃの種類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ホッとできる場 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子どもと触れあえる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 保護者と話す機会がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子どもや、子育て中の家族に対する理解が深まった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子育ての現状を知ることができた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子育て支援に関する制度への理解が深まった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| コミュニケーション力が身についた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 周囲の人々と協力できる協調性が身についた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| リーダーシップが身についた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力が身についた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる力が身についた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 郷土を愛する心が強まった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 地域を支える市民としての責任感が強まった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 地域の活性化に貢献できた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 本学が地域と連携して子育て支援を行っていること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

◎ 木のおうち利用者アンケート（学生用）集計結果

ふれ愛ルーム「木のおうち」利用者アンケート

学生用

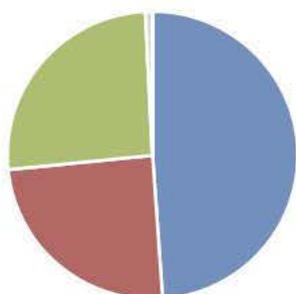
～単純集計グラフ～

2016年2月

和歌山信愛女子短期大学

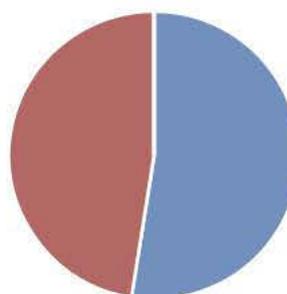
1. あなたご自身について

① 所属 (n=364)



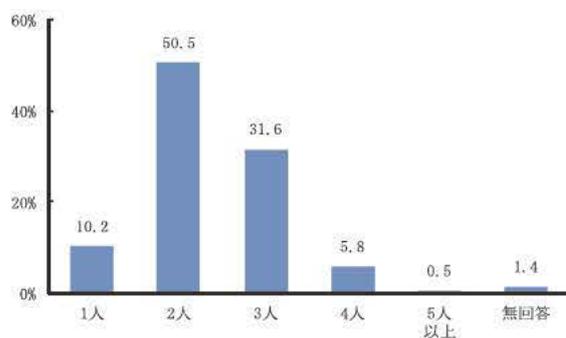
■ 保育科 ■ 生活文化 ■ 食物栄養 ■ 無回答

② 学年 (n=364)

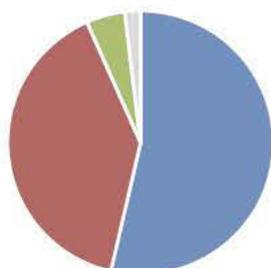


■ 1年 ■ 2年 ■ 無回答

③ あなたの兄弟の人数（自分を含めて） (n=364)

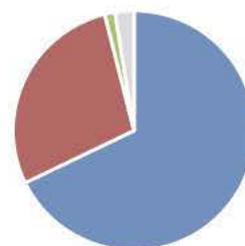


④ 近所付き合いはありますか (n=364)



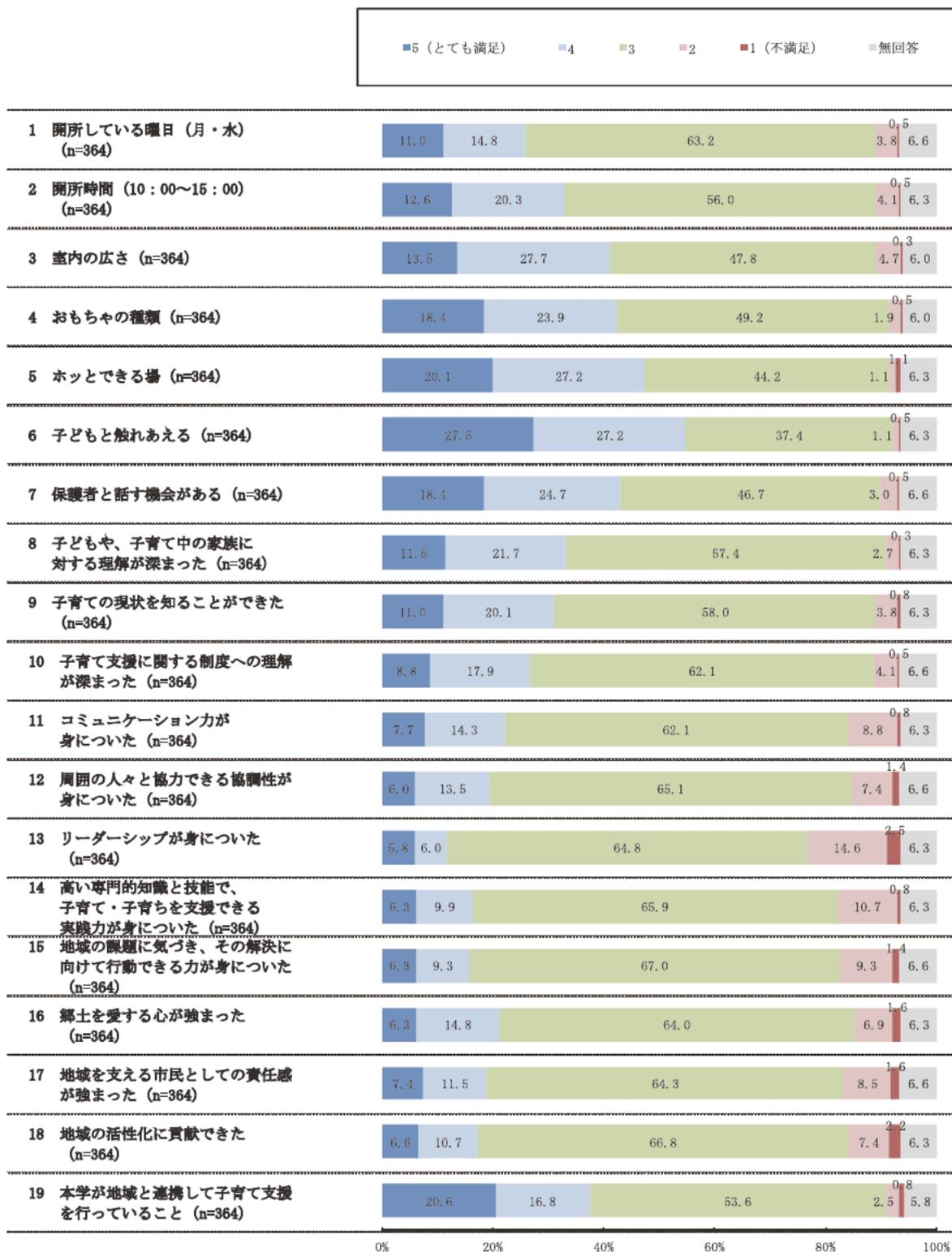
■ ある ■ ほとんどない ■ ない ■ 無回答

⑤ 人と関わることは好きですか (n=364)



■ 好き ■ あまり好きではない ■ 嫌い ■ 無回答

2. ふれ愛ルーム「木のおうち」について





和歌山信愛女子短期大学

きょう育の森

子育て広場・ふれ愛ルーム木のおうち

和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センターでは、和歌山市地域子育て支援センター中之島との連携で「子育て広場」を、毎月1回開催しています。
平成27年度の日程は下記で行いますのでお気軽にご参加ください。お待ちしております！

尚、毎週月曜日・水曜日「ふれ愛ルーム木のおうち」があります。
遊びに来て下さいね。詳しくはホームページをご覧ください。

子育て広場の予定

| |
|-------------|
| 【開催日】平成27年度 |
| 2015年 |
| 4月18日(土) |
| 5月9日(土) |
| 6月6日(土) |
| 7月4日(土) |
| 8月22日(土) |
| 9月19日(土) |
| 国体の為、中止 |
| 11月14日(土) |
| 12月19日(土) |
| 2016年 |
| 1月23日(土) |
| 2月20日(土) |
| 3月12日(土) |

< 時間 10:30~11:30 >

※お子様の怪我防止のため、上靴または滑り止め靴下の用意をお願いします。保足でも結構です。

※怪我等のないように、お子様の見守りは保護者の方でお願い致します。本学での事故怪我等の保障はございませんので、ご了承の上ご参加ください。

<場所> 和歌山市相坂702番地の2
和歌山信愛女子短期大学内(駐車場)

<お問い合わせ>
和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター
TEL:073-479-1106(10時~15時 土日除く)
和歌山市地域子育て支援センター中之島
TEL:073-422-8661

ホームページ <http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>



◎子育て広場利用者アンケート（保護者用）集計結果

子育て広場 利用者アンケート

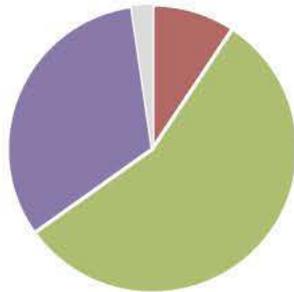
～単純集計グラフ～

2016年1月

和歌山信愛女子短期大学

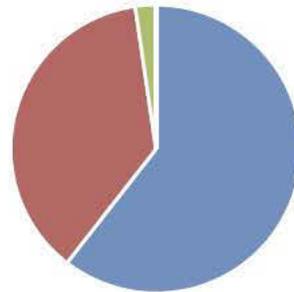
1. あなたご自身について

① あなたの年齢 (n=43)



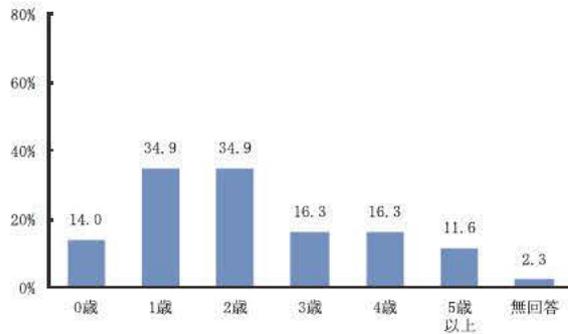
■10代 ■20代 ■30代 ■40代以上 ■無回答

② あなたのお子さんの人数 (n=43)

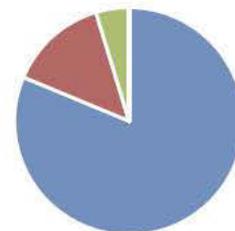


■1人 ■2人 ■3人 ■4人 ■5人以上 ■無回答

③ 子育て広場に連れてこられる
お子さんの年齢 (n=43) [複数回答]

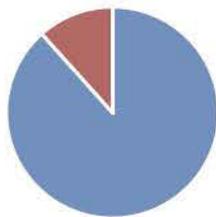


④ 現在のお立場 (n=43)



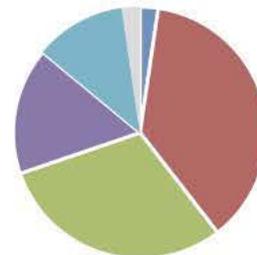
■専業主婦 ■仕事を
している ■休職中
■求職中 ■その他 ■無回答

⑤ 現在お住まいの地域 (n=43)



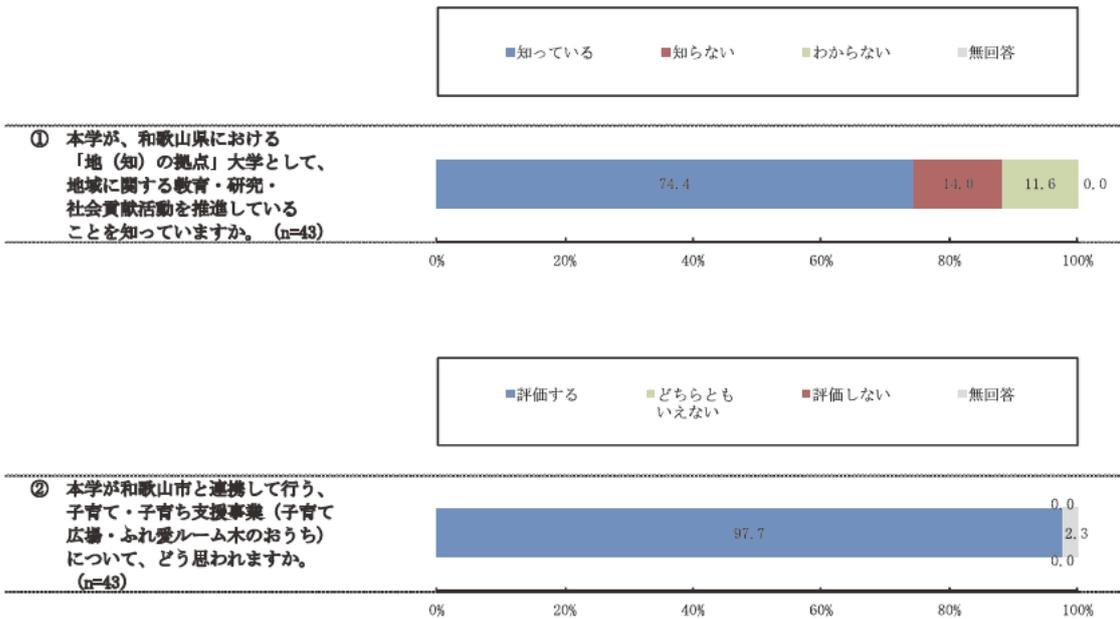
■和歌山市 ■海南市 ■岩出市
■紀の川市 ■紀美野町 ■かつらぎ町
■その他 ■無回答

⑥ 現在の居住地に生まれて何年ですか (n=43)

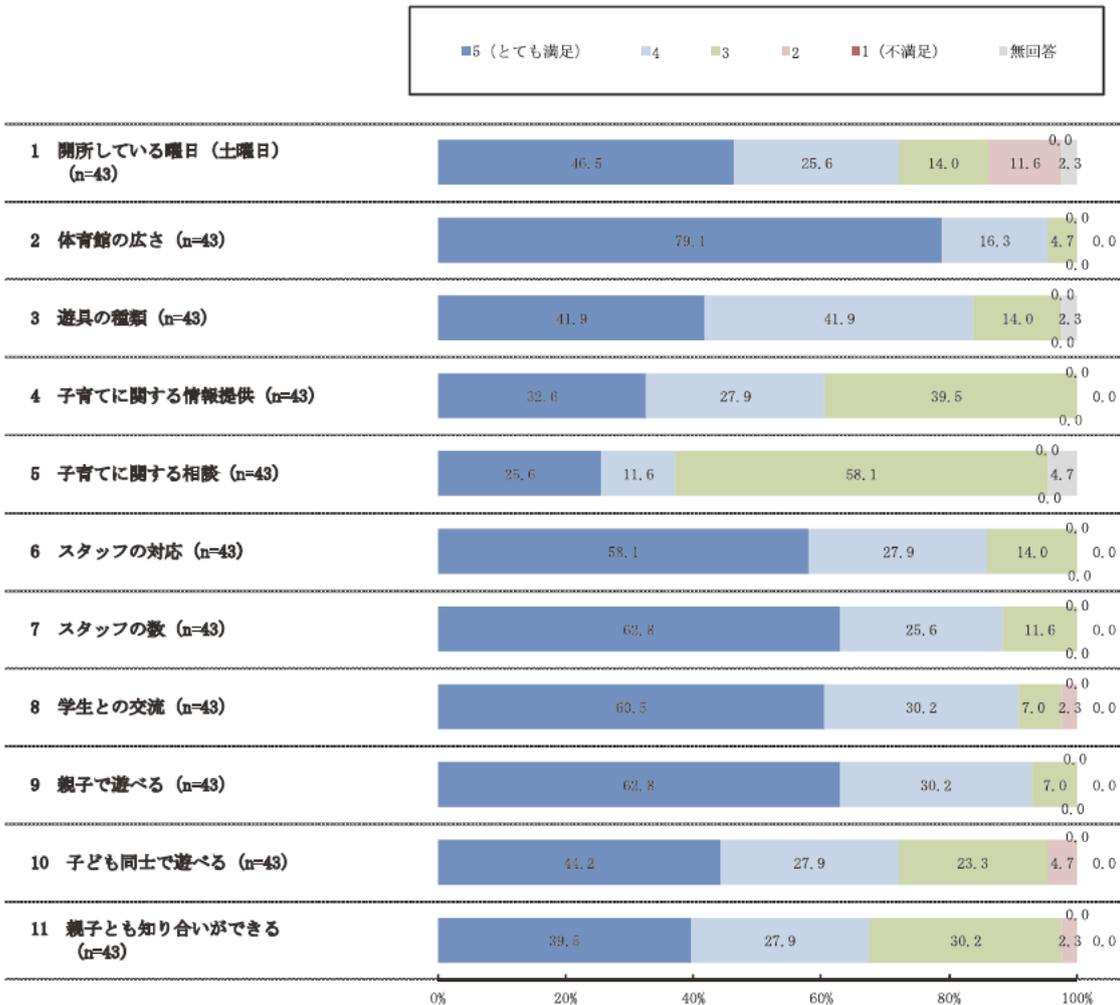


■1年未満 ■1～3年 ■3～5年
■6～10年 ■11年以上 ■無回答

2. 本学が行う「地（知）の拠点事業『きょう育の和』」について



3. 子育て広場について



◎ 子育て広場利用者アンケート（学生用）

子育て広場に参加して 保育科 年 組 番 名前： _____

実施日 H 年 月 日（土） _____

本日の自己目標は _____ である。

<達成出来たことや今後の課題についてなど感想>

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

<子どもと関わる事ができたか> できた ← (5・4・3・2・1) → 出来なかった

| |
|---------------------|
| (関わった子どもの年齢やその時の状況) |
| |
| |

<保護者と関わる事ができたか> できた ← (5・4・3・2・1) → 出来なかった

| |
|------|
| (感想) |
| |
| |

<子育て広場で困ったこと・よかったこと・改善点・要望など>

| |
|--|
| |
| |
| |

<アンケート> 守秘義務を守り、研究以外に使用することはありません。ご協力をお願いします。

| | | | |
|----------------------------|------|-----------|--------|
| 事前準備段取りは重要である | 重要 | 5・4・3・2・1 | 重要でない |
| 気配りは必要である | 必要 | 5・4・3・2・1 | 必要でない |
| リーダーシップは必要である | 必要 | 5・4・3・2・1 | 必要でない |
| 運営には協力、協調性が必要である | 必要 | 5・4・3・2・1 | 必要でない |
| 広場は、経験や成長の場になる | なる | 5・4・3・2・1 | ならない |
| コミュニケーション能力が必要である | 必要 | 5・4・3・2・1 | 必要でない |
| 発達段階の知識が必要である | 必要 | 5・4・3・2・1 | 必要でない |
| 人前で話す力が必要である | 必要 | 5・4・3・2・1 | 必要でない |
| 達成感が得られる | 得られる | 5・4・3・2・1 | 得られない |
| 自主参加をして力をつけたい | 思う | 5・4・3・2・1 | 思わない |
| 保護者と笑顔であいさつや受け答えができた | できた | 5・4・3・2・1 | できなかった |
| 保護者の笑顔や喜ぶ顔が見られることにやりがいを感じた | 感じた | 5・4・3・2・1 | 感じなかった |
| 保護者の考えや思いが理解できた | できた | 5・4・3・2・1 | できなかった |
| 観察を通して保護者の人柄や考え方が理解できた | できた | 5・4・3・2・1 | できなかった |
| 保護者の話をしっかり聞くことができた | できた | 5・4・3・2・1 | できなかった |

2) 『母親の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し事業』

① 事業内容

子育て中の母親の再就職を支援するため、『子育て・子育てサポーター』養成講座を窓口とした学びの機会提供を、全学的取り組みとして行う。和歌山市との連携により『きょう育の森』に託児業務をもたせることで、よりいっそう母親の学ぶ機会を支援する。また、保育士資格、幼稚園教諭免許、または栄養士資格を保持し、現場への復帰を考えている方を対象に学び直しの機会を提供する。

② 平成 27 年度計画

ホームページ等を通じて地域住民に広く情報発信を行うと共に、『科目等履修生制度』『聴講生制度』を利用した受講の他に、『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者に授業の一部を公開することで、社会人への学び直しの機会提供を行う。

③ 成果

7月13日、『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者を対象に、『地域子育て・子育て支援論』の公開講座を実施した。当日の参加者は、学生102名、母親20名、乳幼児21名であった。



また、科目等履修生として、のべ 19 名の社会人が本学授業を履修した。

◎ 科目等履修生数

| 科目名 | 科目等履修生（人） |
|------------|-----------|
| 臨床心理学 | 5 |
| 教育工学 | 4 |
| 保育内容演習（自然） | 1 |
| 保育者論 | 1 |
| 日本国憲法 | 1 |
| 教育原理 | 1 |
| 保育内容総論 | 1 |
| 保育・教育課程論 | 4 |
| 社会的養護 | 1 |

さらに、平成 27 年度に本学キャリアセンターで再就職の相談・斡旋などを行った件数は、本学卒業生を中心に 51 件であった（2 月 29 日現在）。

④ 自己評価

授業の一部を公開することで、子育て中の母親に学びの機会を提供することができた。また、科目等履修生制度による受講生数の増加や、本年度の既卒者の就職相談・斡旋実績から、女性の再就職支援、潜在有資格者の発掘という点でも一定の成果を残せたと評価できる。

◎ホームページ

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

誰かのために輝く。
ひとづの心、ひとづの魂
For Someone Else's Shine
For Someone Else's Soul

ホーム 交通アクセス お問い合わせ

在学生・保護者の方 入学希望者の方 卒業生の方 企業・研究者の方 社会人・地域の方

☆ 大学案内
☆ 学科・専攻
☆ 図書館・付属施設
☆ 学生生活
☆ 進路・就職
☆ 入試情報
☆ 研究者情報

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

ホーム > ニュース・イベント > 7月13日(月)地域子育て子育て支援論 公開講座「子どもの遊び」のご案内

☆ 7月13日(月)地域子育て子育て支援論 公開講座「子どもの遊び」のご案内

地域子育て・子育て支援論 公開講座「子どもの遊び」のご案内です。

子どもの年齢に応じた遊びを学びませんか？
講師は、和歌山市地域子育て支援センターなかのしま センター長の馬場先生です。
申込み不要、参加無料です。
手遊びタイムもありますので、お子様と一緒にご参加ください。

詳細は下記の通りです。

日時:2015年7月13日(月)13:30~14:40

会場:和歌山信愛女子短期大学 センリアホール

集合場所:ふれ愛ルーム木のおうち *10分前に集合してください。

定員:なし

地(知)の拠点
和歌山信愛女子短期大学

「地域子育て・子育て支援論」公開講座

申し込み不要
参加無料
途中入場・退場
OK!

子どもの年齢に
応じた遊び
学びませんか？

おもちゃのこと
絵本の読み聞かせのこと

子連れOK!
手遊びもあるよ♪

2015年7月13日(月) 13:30~14:40

会場：和歌山信愛女子短期大学 セシリアホール
集合場所：ふれ愛ルーム 木のおうち
定員：なし

お問い合わせ
和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター
073-479-1106
kosodate-coc@shinai-u.ac.jp

3) 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』

① 平成 27 年度計画

隔月 1 回程度、『子育て広場』や『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者を対象に、本学教員や保健師等による子育て講座、子育て相談を行う。

② 成果

『ふれ愛ルーム木のおうち』利用者を対象に、本学教員による計 6 回の子育て講座を実施した。実施内容は以下の通りである。

【木のおうちミニ講座】

| タイトル | 講師 | 日時 | 利用者数 |
|-----------------|----|---------------------------|------|
| 子どもの豊かな発達に大切なこと | 森下 | 7 月 22 日 (水) 13:30~14:00 | 52 人 |
| マナー講座 | 浅田 | 9 月 9 日 (水) 13:30~14:00 | 30 人 |
| 読書の会『本と私』 | 北後 | 10 月 5 日 (月) 13:30~14:00 | 37 人 |
| 食事の工夫 | 土井 | 11 月 25 日 (水) 13:30~14:00 | 46 人 |
| 子どもの成長と栄養 | 吉田 | 11 月 30 日 (月) 13:30~14:00 | 39 人 |
| 楽しんで子育てを | 室 | 12 月 2 日 (水) 11:00~11:30 | 50 人 |





③ 自己評価

『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者を対象としたアンケート調査では (n=100 人)、9%の保護者が「学ぶ楽しさを感じるようになった」と答えていた。回答者の多くが本学教員による子育て講座を受講していない現状を考えると、この数値は低くは無いと考える。しかし、よりいっそう多くの保護者に学びの機会を提供するために、プログラムの充実が課題となっている。

4) ミニシンポジウム

① 平成 27 年度計画

本学オープンキャンパス会場でポスター展示を行う。

② 成果

9月19日、本学オープンキャンパスを利用したミニシンポジウムで、今年度奨励研究3件の中間成果をポスター発表した。



③ 自己評価

本事業を通して、地域を志向した研究の成果を地元の高校生に広く発信することができた。

V. 活動報告（全体）

1) SD/FD合同研修会

① 平成27年度計画

本事業を全学的に推進し、教育研究の地域志向を進めるための、全教職員を対象とした研修会を実施する。

② 成果

4月1日、本学全教職員を対象に、平成27年度の本事業計画と実施体制に関する研修会を実施した。

③ 自己評価

本研修会を通じて、本事業の目的と計画を全教職員が理解し、全学的に推進する体制を整えることができた。

2) 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』

① 平成27年度計画

センター長を中心に、作業部会（教育・研究・事業・広報）を通じて、計画立案、環境整備、広報活動等、本事業を先導し、推進していく。また、本学代表と県、市の担当者からなる『連携協議会』を随時実施し、地域の声を事業に反映する。

② 成果

平成27年度は、芝田史仁きょう育の和センター長 森下順子副センター長を中心として、計11名の教職員をセンター委員に任命し、きょう育の和センターの運営を行った。きょう育の和センター会議は定例月1回とし、2月現在で計8回実施した。

◎ きょう育の和センター会議議題

平成27年度第1回きょう育の和センター会議

日時：平成27年4月13日（月）16：30～18：00

場所：小会議室

1. 議案

- 1) ワーキンググループについて
- 2) 平成27年度事業について
- 3) 物品購入について
- 4) 実践的教育プログラムについて
- 5) 木のおうち、子育て支援教材
- 6) 子育て相談・ミニ講座

- 7) 広報活動について
- 8) 図書の利用促進に向けて
- 9) その他

2. 報告

- 1) 和歌山市保育士との打ち合わせと、
4月13日『ふれ愛ルーム 木のおうち』の実績報告
- 2) 4月13日 ニュース和歌山・まえふれ和歌山 取材。和歌山市子育て支援課来学
- 3) 8月19日午後 和歌山県社会教育主事講習受講者（和歌山県・関西圏の教育委員会・学校関係の先生方）が見学のため来学予定。
- 4) 平成26年度実績報告書について
- 5) 『ふれ愛ルーム 木のおうち』オープニングセレモニー
- 6) その他

平成27年度 第2回きょう育の和センター会議

日時：平成27年5月18日（月）16：45～

場所：大会議室

1. 議案

- 1) 教育ワーキングより
 - ・ 実践的教育プログラムについて
 - ・ 公開授業について
- 2) 研究ワーキングより
- 3) 事業ワーキングより
 - ・ ミニ講座スケジュールについて
 - ・ 『ふれ愛ルーム 木のおうち』の子育て支援教材について
- 4) 広報ワーキングより
- 5) 図書の利用促進に向けて
- 6) その他
 - ・ 木のおうち利用者アンケートについて

2. 報告

- 1) 教育ワーキングより 『地域子育て・子育て支援論』受講状況
- 2) 研究ワーキングより 研究奨励金関係
- 3) 事業ワーキングより
 - ・ 木のおうち 4月利用者数の報告
 - ・ 子育て広場 4月、5月の利用者数報告
- 4) 広報ワーキングより

- ・ オープニングセレモニーについて
 - ・ 看板制作の状況について
 - ・ わがまち和歌山（テレビ和歌山）の取材について
- 5) その他

平成27年度 第3回きょう育の和センター会議

日時：平成27年6月29日(月) 16:45～

場所：大会議室

議案

- 1) 教育ワーキングより
 - ・ 『地域子育て・子育て支援論』公開授業について
 - ・ 実践的教育プログラムの実施状況
- 2) 研究ワーキングより
 - ・ 『共育の輪』ネットワークイベント『双子組・三つ子組交流会』について
- 3) 事業ワーキングより
 - ・ ミニ講座スケジュールについて
- 4) 広報ワーキング
 - ・ 学生向け教育体系に関するちらしについて
 - ・ 年間2回発行予定の冊子9月号について
 - ・ 看板について
- 5) その他
 - ・ きょう育の和センター事務スタッフ勤務予定

平成27年度 第4回きょう育の和センター会議

日時：平成27年8月3日(月) 16:45～

場所：大会議室

1. 議案

- 1) 教育ワーキングより
- 2) 研究ワーキングより
- 3) 事業ワーキングより
 - ・ ミニ講座スケジュールについて
- 4) 広報ワーキング
 - ・ 9月7日配布予定の学生向けちらしについて
 - ・ 看板について
- 5) その他

2. 報告

- 1) 『地域子育て・子育て支援論』公開授業について
- 2) 実践的教育プログラムの実施状況
- 3) 『共育の輪』ネットワークイベント『双子組・三つ子組大交流会』について
- 4) 8月オープンキャンパスでのミニシンポについて
- 5) 『ふれ愛ルーム 木のおうち』の閉館について
- 6) その他

平成27年度 第5回きょう育の和センター会議

日時：平成27年10月5日(月) 16:45～

場所：大会議室

1. 議案

- 1) 消耗品予算の組直しについて
- 2) その他 なし

2. 報告

- 1) 教育ワーキングより
 - ・ 実践的教育プログラムの実施状況について
- 2) 研究ワーキングより
 - ・ 『共育の輪』ネットワークイベント『ふたご・みつご大交流会』について
 - ・ COC 教育研究助成 中間報告書について
 - ・ COC 教育研究助成 9月19日ミニシンポジウムについて
- 3) 事業ワーキングより
 - ・ ミニ講座スケジュールについて
- 4) 広報ワーキング
 - ・ 学生向け教育体系に関するちらしについて
 - ・ ニュースレターについて
 - ・ 看板について
- 5) その他
 - ・ 聖徳大学視察報告
 - ・ COC+について概要説明

平成27年度 第6回きょう育の和センター会議

日時：平成27年11月30日(月) 16:45～17:20

場所：大会議室

1. 議案

- 1) 教育ワーキングより
 - ・ 実践的教育プログラムについて

- 2) その他

2. 報告

- 1) 教育ワーキングより
 - ・ 実践的教育プログラムの実施状況
 - ・ 実践的教育プログラム授業アンケート（各科配布）について
 - ・ 『紀の国わかやまと世界』授業アンケートについて
 - ・ 図書館『きょう育の和コーナ』ーについて
- 2) 事業ワーキングより
 - ・ ミニ講座スケジュール
 - ・ アンケートについて
- 3) 広報ワーキングより
 - ・ 看板について
 - ・ ニュースレター特別号について
- 4) ふれ愛ルーム木のおうち 年末年始の閉館について
- 5) 平成27年度外部評価委員会日程について
- 6) その他

平成27年度 第7回きょう育の和センター会議

日時：平成28年1月25日(月) 16:45～

場所：大会議室

1. 議案

- 1) 平成28年度事業計画（予算）について
- 2) 平成28年度きょう育の森（『ふれ愛ルーム 木のおうち』『子育て広場』）のスケジュールについて
- 3) 木のおうち利用者に対するアンケート調査依頼について
- 4) 2・3月 『子育て広場』開催場所について
- 5) 木のおうち利用者の昼食場所について
- 6) その他

2. 報告

- 1) 教育ワーキングより
 - ・ 実践的教育プログラムの実施状況
 - ・ 消耗品予算
 - ・ 実践的教育プログラム活動報告書

- ・ 2年生対象実践的教育プログラム授業アンケート（各科配布）
 - ・ 実践的教育プログラム授業 学生の感想：各科専攻2年1名
 - ・ 『紀の国わかやまと世界』学生の感想：各科専攻1年1名
 - ・ 全学生対象、図書館きょう育の和コーナー利用者アンケート
 - ・ 全学生対象、ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート
 - ・ 図書館きょう育の和コーナー学生・教職員への周知について
- 2) 研究ワーキングより
- ・ 予算執行状況について
 - ・ 研究の実績報告について
 - ・ 平成28年度きょう育の和センター教育研究助成の応募について
- 3) 事業ワーキングより
- ・ ミニ講座スケジュール
- 4) 広報ワーキングより
- ・ ニュースレター特別号
- 5) その他
- ・ 平成27年度外部評価委員会について

平成27年度 第8回きょう育の和センター会議

日時：平成28年2月22日(月) 16:45～

場所：大会議室

1. 議案：

- 1) 平成28年度事業計画（予算）について
- 2) 平成27年度外部評価委員会について
- 3) その他

2. 報告

- 1) 教育ワーキングより、実践的教育プログラムの実施状況について
- 2) 研究ワーキングより、
 - ・ 平成28年度きょう育の和センター教育研究助成の応募について
 - ・ 研究の実績報告について。
- 3) 事業ワーキングより
 - ・ 木のおうち入口変更について
 - ・ 3月12(土)子育て広場の場所について
- 4) 広報ワーキングより、ニュースレターについて
- 5) その他
 - ・ 平成28年度子育て広場のスケジュール

- ・ 4月11日（月）午前中 和歌山市支援センター中之島と打ち合わせ
- ・ 4月13日（水）平成28年度木のおうちオープン

また、和歌山県、和歌山市との『連携協議会』を6回実施した。

◎ 連携協議会議題

第1回連携協議会

日 時：平成27年4月16日 16：00より

場 所：短大小会議室

出席者：和歌山県子ども未来課 短大

議案

- 1) 子育て支援員の養成講座開設について

第2回連携協議会

日 時：平成27年4月23日9：00～9：20

場 所：和歌山市役所子育て支援課

出席者：和歌山市子育て支援課 短大

議題

- 1) 平成27年5月13日（水）『ふれ愛ルーム 木のおうち』の最終打ち合わせ
- 2) 平成27年5月11日（月）『地域子育て・子育て支援論』内容の確認

第3回連携協議会

日 時：平成27年4月23日16：20～17：00 （16：00教育委員会挨拶）

場 所：和歌山県子ども未来課

出席者：和歌山県子ども未来課 短大

議題

- 1) 『地域子育て・子育て支援論』のカリキュラム策定に伴い「ファミリー・サポート・センターの提供会員講習」と同等と認定する依頼書、内容について

第4回連携協議会

日 時：平成27年6月19日15：00～15：20

場 所：和歌山市役所子育て支援課

出席者：和歌山市子育て支援課 短大

議題

- 1) 平成27年7月13日（月）『地域子育て・子育て支援論』の公開講座『子どもの年齢に応じた遊び、学びませんか？』の打合せ

2) 木のおうちの状況報告

第5回連携協議会 議事録

日 時：平成28年1月7日15:00～16:00

場 所：和歌山県庁（福祉保健部子ども未来課）

出席者：和歌山県子ども未来課 短大

議題

- 1) 連携協定書について
- 2) 『子育て・子育てサポーター』資格認定規程について
- 3) 『地域子育て・子育て支援論』シラバスについて
- 4) 平成28年度の連携について

第6回連携協議会 議事録

日 時：平成28年1月7日16:30～17:30

場 所：和歌山市役所（子育て支援課）

出席者：和歌山市子育て支援課 短大

議題

- 1) 平成27年度『ふれ愛ルーム 木のおうち』『子育て広場』利用実績と、平成28年度における課題について
- 2) 次年度『地域子育て・子育て支援論』の講演について
- 3) その他

③ 自己評価

きょう育の和センター会議を定期的を開催することで、事業の進捗状況をチェックすることができ、計画通り今年度事業を推進することができた。また、和歌山県や和歌山市との連携協議会を通じて、地域の要望を聞き取り、事業に反映することができた。

3) 広報活動

① 平成 27 年度計画

チラシ・ポスター・パンフレットの作成・配布、本学ホームページへの掲載等を通じて情報を開示する。さらに、きょう育の和センターニュースレターを2ヶ月に1回発行し、学生や地域住民への広報に努める。

② 成果

作成したチラシは以下の通りである。

| チラシのテーマ | 配布時期 |
|-----------------------|--------|
| 教養科目群『紀の国わかやまと世界』について | 9月 |
| 『地域子育て・子育て支援論』公開講座 | 6月 |
| ふたご・みつご大交流会 | 8月 |
| 図書館『きょう育の和コーナー』について | 11月、1月 |

また、『ふれ愛ルーム木のおうち』・『子育て広場』ニュースレターを2ヶ月に1回、計6回発行する（社会貢献で既出）。さらに本学の取組を紹介するニュースレターを特別号として1月に発行した。また、本学ホームページ(<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>)に本事業での取組を随時掲載し、情報公開に努めた。

③ 自己評価

地域住民を対象としたアンケート調査では、本学が、和歌山県における『地（知）の拠点』大学として、地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていると答えた保護者の割合が『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者で56.0%、『子育て広場』利用者で74.4%、となっている。この結果は、本学の広報活動の成果であると評価できる。

◎ 本学ホームページ 地（知）の拠点整備事業『きょう育の和』トップページ

地（知）の拠点整備事業『きょう育の和』 | 和歌山信愛女子短期大学

2016/02/10 12:22



[ホーム](#)

[交通アクセス](#)

[お問い合わせ](#)

[在学生・保護者の方](#)

[入学希望者の方](#)

[卒業生の方](#)

[企業・研究者の方](#)

[社会人・地域の方](#)

[大学案内](#)

[学科・専攻](#)

[図書館・付属施設](#)

[学生生活](#)

[進路・就職](#)

[入試情報](#)

[研究者情報](#)

[ホーム](#) > [地（知）の拠点整備事業『きょう育の和』](#)



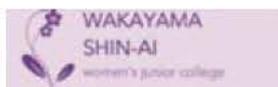
地（知）の拠点整備事業『きょう育の和』

『きょう育の和』は、3つの「きょう育」を目指します。

『教育』— 子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する

『共育』— 地域が共に子育てに関わる社会を育む

『郷育』— 教育から共育、そして郷育へ、この世代間の循環による地域活性化を目指す



事業の概要

平成25年度地（知）の拠点整備事業で採択された「子育て支援を主軸とした地（知）の...

きょう(教・共・郷)育の和センター

本学保育科教員が中心として運営してきた『子育てサポート研究センター』を発展させ...

きょう育の森(子育て広場・木のおうち)

ふれ愛ルーム木のおうち 平成27年4月13日(月)スタート!! 和歌山信愛女子短...

子育て・子育てサポーター養成講座

<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>

1/3 ページ

独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座を開設します。全学的取り組み...

教養科目の新領域『紀の国和歌山と世界』

教養科目改革により、教育の地域指向化を促進します。従来の基礎教養科目群を改革し...

共育の輪

子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究を行います。 ...

活動報告

- [木のおうち&広場NewsレターVol.6\(2月・3月\)](#)
- [1月23日\(土\)「子育て広場」親子で答えよう!信愛栄養クイズ開催](#)
- [木のおうち&広場NewsレターVol.5\(12月・1月\)](#)
- [1/20\(水\)「絵本ミュージックシアター」のご案内](#)
- [木のおうち年末年始の休館日について](#)
- [木のおうちの「クリスマス飾り」を作りました。](#)
- [12月19日\(土\)「子育て広場」クリスマス演奏会・人形劇 開催](#)
- [「森で遊ぼう」開催](#)
- [12/9\(水\)「森で遊ぼう」のご案内](#)
- [木のおうちミニ講座「子どもの成長と栄養」開催](#)
- [木のおうちミニ講座「食事の工夫」開催](#)
- [11月14日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [11/25、11/30、12/2木のおうちミニ講座のご案内](#)
- [森下ゼミ子育て支援「保護者アンケートの結果を報告しました」](#)
- [木のおうち&広場NewsレターVol.4\(10月・11月\)](#)
- [11/14\(土\)「森で遊ぼう」のご案内](#)
- [「秋のおいも掘り」開催](#)
- [遊覧訓練を実施しました。\(木のおうち\)](#)
- [木のおうち「秋のおいも掘り」のご案内](#)
- [木のおうちミニ講座「読書の会」開催](#)
- [木のおうちの会員数が1000人を突破しました。](#)
- [10/5\(月\)木のおうちミニ講座のご案内](#)
- [韓国の全州記念大学様が見学に來られました。](#)
- [9月19日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [木のおうちミニ講座「マナー講座」開催](#)
- [ふたご・みつご大交流会 開催](#)
- [木のおうち&広場NewsレターVol.3\(8月・9月\)](#)
- [木のおうち 警報発令時について](#)
- [9/9\(水\)木のおうちミニ講座のご案内](#)
- [8月22日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [「社会教育主事講習」の受講者様が來学されました。](#)
- [きょう育の和センター・共育の輪企画「ふたご・みつご大交流会」のご案内](#)
- [木のおうち夏休み休館日のお知らせ](#)
- [地域子育て・子育て支援論「事業を円滑に進めるために～和歌山と子育ての未来・保育サービスに向けて～」](#)
- [木のおうちミニ講座「子どもの発達に大切なことパート1」開催](#)
- [地域子育て・子育て支援論 公開講座「子どもの遊び」](#)
- [木のおうちミニ講座\(7/22、9/9\)のご案内](#)
- [地域子育て・子育て支援論「子どもの栄養と食生活II」](#)
- [7月13日\(月\)地域子育て子育て支援論 公開講座「子どもの遊び」のご案内](#)
- [地域子育て・子育て支援論「子どもの栄養と食生活I」](#)
- [7月4日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [地域子育て・子育て支援論「子どもの世話」](#)
- [地域子育て・子育て支援論「安全と事故対応II\(安全・事故対策\)」](#)
- [木のおうち&広場NewsレターVol.2\(6月・7月\)](#)
- [地域子育て・子育て支援論「看護を要する子どもの家庭での工夫について」・「安全と事故対応」](#)
- [6月6日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [地域子育て・子育て支援論「子どもの病気」・「小児看護の基礎知識」II](#)
- [「ふれ愛ルーム木のおうち」にテレビ和歌山の取材がありました。](#)
- [木のおうちオープニングセレモニーを開催しました。](#)
- [地域子育て・子育て支援論「子育てをめぐる現状と取り組み・課題について」](#)
- [5月9日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [本学独自の「子育て・子育てサポーター」資格養成講座 開講](#)
- [4月18日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [「地\(知\)の拠点整備事業」成果報告書を発行](#)
- [「ふれ愛ルーム 木のおうち」がスタートしました!](#)

- [3月14日\(土\)「子育て広場」開催「すてきなおうちがいっぱい」](#)
- [3月14日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [平成27年度木ののおうち&子育て広場日程\(4月・5月\)](#)
- [3月14日\(土\)子育て広場の開催場所について](#)
- [2月28日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [第2回外部評価委員会が2月24日に開催されました。](#)
- [和歌山信愛附属幼稚園の2歳児クラスの親子と先生方が来学されました。](#)
- [1月24日\(土\)「子育て広場」開催「かぜひきをやっつけろ!!」劇](#)
- [聖徳大学短期大学部様が視察に来られました。](#)
- [1月24日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [「共育の輪」会員の、おしゃべり広場ホッピングさんが見学に来られました。](#)
- [12月13日\(土\)「子育て広場」開催 人形劇](#)
- [12月13日\(土\)「子育て広場」開催 ハンドベル演奏会](#)
- [11月8日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [第1回「共育の輪」意見交流会 開催](#)
- [実践的教育プログラム「卒業研究II」](#)
- [科目「保育・教職実践演習\(幼稚園\)」で学生が「木ののおうち」を見学しました。](#)
- [信愛祭](#)
- [<お知らせ>11月8日子育て広場](#)
- [10月11日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [幼きイエズス修道会のフランス総本部より総長様が来られました。](#)
- [9月27日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [9月27日\(土\)卒業生がきょう育の和センターの見学に来られました。](#)
- [杏林大学様が視察に来られました。](#)
- [シンポジウムお礼](#)
- [8月30日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [8月30日\(土\)『子育て・子育て支援 キックオフシンポジウム』開催のお知らせ](#)
- [8月30日\(土\)の子育て広場終了時間について](#)
- [和歌山新聞様がきょう育の和の取材に来られました。](#)
- [ニュース和歌山様がきょう育の和の取材に来られました。](#)
- [7月26日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [「つれもて子育て応援ブックII」にきょう育の和センターが掲載されました。](#)
- [信達保育所様が木ののおうちの見学に来られました。](#)
- [和歌山市広報公認の方が取材に来てくださいました。](#)
- [きょう育の和センター映像制作の撮影を行いました。](#)
- [「きょう育の森」室内施設・屋外施設 愛称が決まりました。](#)
- [6月7日\(土\)オープンキャンパスで見学](#)
- [6月7日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [「きょう育の和センター」見学](#)
- [「きょう育の森」室内施設・屋外施設 愛称募集中!!](#)
- [和歌山市子ども未来部子育て支援課様と連携協議会を開催しました。](#)
- [5月10日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [4月19日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [3月22日\(土\)「子育て広場」開催](#)
- [和歌山市子ども未来部子育て支援課様 センター見学](#)
- [文部科学省平成25年度地\(知\)の拠点整備事業きょう育の和の外部評価委員会を開催しました](#)
- [和歌山市と協定調印式を行いました](#)
- [2月8日\(土\)「子育て広場」開催](#)



視察見学等のお問い合わせや
お申し込みはこちら

[| サイトマップ](#) | [| サイト利用上の注意](#) | [| プライバシーポリシー](#) | [| リンク](#) |



和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

和歌山信愛女子短期大学
〒640-0341 和歌山市相坂702番2
TEL:073-479-3330 FAX:073-479-3321 E-mail:kouhou@shinai-u.ac.jp

©2010 - 2016 WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

4) COC 選定大学視察

① 平成 27 年度計画

聖徳大学短期大学部を視察し、情報交換を行う。

② 成果

平成 27 年 9 月 7 日 8 日に、平成 25 年度地（知）の拠点整備事業（COC 事業）の採択校である聖徳大学短期大学部を視察した。本学より大山・芝田・森下の 3 名が訪問した。聖徳大学短期大学部からは、増井三夫氏（副学長・児童学部児童学科教授）、野原八千代氏（学長補佐・学生部長・保育科教授）、塚本美知子氏（保育科〔第一部〕長教授）、小畑秀樹氏（保育科〔第一部〕長補佐・通信教育部保育科長補佐准教授）、藪中征代氏（大学院教職研究科教授）、蓑輪裕子氏（総合文化学科教授）、佐藤理恵子氏（総合文化学科教授）、岡田耕一氏（保育科〔第二部〕長・通信教育部保育科長教授）、永井妙子氏（保育科教授）、近内愛子氏（保育科教授）、本田宗治氏（教育研究推進部 知財戦略課長兼地域連携科長）の 11 名に対応していただいた。両国の取組について情報交換を行うと共に、聖徳大学短期大学部の施設を見学した。

③ 自己評価

本視察を通じて、数少ない地（知）の拠点短期大学との関係を深めることができた。この視察を通じてできた関係は、今後本事業を進めるうえで役立つものと評価できる。

◎ 実地視察報告書

聖徳大学短期大学部視察報告書

平成 27 年 9 月 12 日

副学長 大山輝光

きょう育の和センター長 芝田 史仁

副センター長 森下 順子

平成 27 年 9 月 7 日・8 日に、地（知）の拠点整備事業（COC 事業）の一環として、聖徳大学短期大学部を視察した。当大学は、本学と同じ「平成 25 年度地（知）の拠点整備事業（COC 事業）の採択校」である。昨年度は本学が視察を受け入れ、交流を深めてきている。

本学より大山・芝田・森下の 3 名が訪問した。聖徳大学短期大学部からは、増井三夫氏（副学長・児童学部児童学科教授）、野原八千代氏（学長補佐・学生部長・保育科教授）、塚本美知子氏（保育科〔第一部〕長教授）、小畑秀樹氏（保育科〔第一部〕長補佐・通信教育部保育科長補佐准教授）、藪中征代氏（大学院教職研究科教授）、蓑輪裕子氏（総合文化学科教授）、佐藤理恵子氏（総合文化学科教授）、岡田耕一氏（保育科〔第二部〕長・通信教育部保育科長教授）、永井妙子氏（保育科教授）、近内愛子氏（保育科教授）、本田宗治氏（教育研究推進部 知財戦略課長兼地域連携科長）の 11 名に対応していただいた。



聖徳大学短期大学部保育科における COC の取り組みについて

まず、聖徳大学短期大学部の COC 事業の取り組みについて説明を受けた。事業名は、「信頼と共感でつなぐ“ふるさと松戸”づくりー多主体間協働でー」である。

◎ 保育科における COC の取り組みについて

1. 地域志向科目について（平成 26 年度導入）

「次世代をつくる保育のエキスパート～地域貢献で育ち合う～」をテーマに、地域の子育て支援を推進する保育者、良質な子育て・子育て環境に関する専門性をもち、保育の資質向上に貢献できる保育者を育成することを目標に取り組まれている。地域志向科目の目的は、「社会貢献の理論と実践」においては、「保育者として必要な子育て支援活動ができるようになるために、子育て支援か集おうにおける課題解決能力を身に付けている」、「地域貢献活動の実践」は、「地域貢献活動のエキスパートになるために、保育者として実践的スキル・態度を身につけている」である。本科目は保育科 2 年生対象であり、クラスの枠を超えたグループ編成（1 グループに学生 10 名、教員 1 名から 2 名を配置）の中で課題解決型学習を行い主体的な学びを推進している。

授業内容は、①松戸市の保育施設、行政が行う子育て支援活動の実際について DVD で視聴、保育者の話を聞き理解、②その後グループ討議や個々でワークシートの作成、レポートなどをまとめている。③フィールドワーク、④グループ発表（学生フォーラム）、⑤レポート作成である。

またポートフォリオを作成し振り返りや自己分析・評価し自己課題解決に結びつけている。評価の概要であるが、学生による自己評価・教員による評価・外部評価である。学生による自己評価はコンピテンシー到達度自己評価 50 項目、教員による評価は、振り返りシート・実践活動のまとめ・レポートや「私にできる子育て支援」の実践報告書である。外部評価は、学生フォーラムに講義を依頼した保育者に参加してもらい評価を求めている。外部講師の講評は、保育は子どもだけではないことに気づいて現場に出ることの意義は大きい、学生がいるだけで存在価値があるなであり、こうした理解のもとで実現していることに感謝されているとのことであった。

本取り組みの成果は、①学生の地域志向に対する意識の変化、②学生の子育て支援についての理解の深まり、③学生の「保育者につながる」姿勢に変化があった、④教員と保育現場のつながり、⑤地域からの期待であるとのことであった。

課題は、①フィールドとなる幼稚園・保育所・子育て広場との連携、②子育て支援の拠点作り、③学生への継続した指導、④教員の研究成果の活用であるとのことであった。

2. 松戸子育てカレッジについて



「松戸子育てカレッジ」は、大学の専門知識を活かし、松戸市・地域・大学で連携し、子育て中の親とその子どもを応援する取り組みである。そのひとつに、聖徳大学 10 号館 3 階、2015 年 9 月 18 日にオープンする「子育て広場 おやこで“ゆるりん”」がある。事業の内容は、子育て中の親とその子どもの交流の場（0～2 歳対象）で、ゆったり過ごす場として開放し、講座やおはなし会・コンサート等を企画されている。この広場を通して、大学と地域との交流が深まり、育ち合いがさらに進んでいく素晴らしい拠点であると感じた。





◎ 総合文化学科のCOC取り組みについて

総合文化学科は、学生70名・教員18名の構成で、10の専門的ブランチで取り組みが行われている。各ブランチでは、①社会貢献の意味づけを明確にし、②地域貢献とは何かを探り、③地域貢献活動へ参加することにより地域課題を知る。そして④地域課題について企画し「地域貢献企画コンペ」で発表して実践する。このような学びや活動を通して、学生が「自分たちは地域に期待されていること」に気づくとともに、自分自身の成長も実感し、実践的キャリア教育として貴重な体験であるとの事であった。自分で考えて行動できること・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めるために、学生主体で行えるよう取り組んでいるとのことであった。



◎本学のCOC事業の進捗状況

本学の取組の現状について説明した。

◎学内見学

・おやこ DE 広場にこここキッズ見学

松戸市の委託を受けて聖徳大学児童学研究所が運営している。開館日は火・水・木・金。
時間は 10 時から 15 時。対象は 0～3 歳時と保護者。



まとめ

当大学は短大 50 周年、大学 25 周年を迎えるとのことであつた。教員のまとまりがよ

く、研究を通して実践と理論の在り方を深めているようだ。また、本学と同じ学科であることから視察を通して学ぶべきことがたくさんあった。COC 事業は、課題解決型学習など、学生が主体となるように工夫され、目標も明確であること、学生による自己評価シートも非常に丁寧に分析されていることなど、本学の取り組みの課題に向けて非常に参考となることであった。

先生方は忙しさの中にも楽しみや充実感を得ながら前向きに取り組まれていると感じた。また、教育研究推進部知財戦略兼地域連携の事務部がすべての助成金について熟知し教員より信頼を得ていることも、COC 事業を含む助成金獲得につながっているようだ。

平成 25 年度 COC 事業採択校として、今後も連携と情報交換を行いながら取り組んでいくことができることに感謝したい。今回、先生方のご配慮で非常に内容の濃い視察であった。今後の本学の COC 事業がより良い事業となるように参考としていきたいと考える。

5) 学生・教職員・連携行政機関を対象としたアンケート調査

① 平成 27 年度計画

学生・教職員・連携行政機関を対象としたアンケート調査を実施することで、本事業の進捗状況を確認する。

② 成果

本年度実施したアンケート調査は以下の通りである。

| 調査項目 | 調査対象 | 実施時期 | 回収件数 |
|-----------------------|---------|---------|------|
| 「共育の輪」取り組みに関するアンケート | 保護者 | 9 月 | 32 |
| 子育て広場利用者アンケート | 保護者 | 11・12 月 | 43 |
| 子育て広場利用者アンケート | 学生 | 随時 | 211 |
| 「紀の国わかやまと世界」授業アンケート | 学生(1 年) | 12 月 | 186 |
| 「地域子育て・子育て支援論」授業アンケート | 学生(1 年) | 7 月 | 92 |
| 実践的教育プログラム 授業アンケート | 学生(2 年) | 1 月 | 109 |
| ふれ愛ルーム木のおうちアンケート | 保護者 | 1 月 | 100 |
| ふれ愛ルーム木のおうちアンケート | 全学生 | 1 月 | 364 |
| きょう育の和図書コーナー利用者アンケート | 全学生 | 1 月 | 364 |

③ 自己評価

アンケート調査を実施することで、本事業の成果を客観的に評価することが可能になった。

6) 事業成果報告書と外部評価

① 平成 27 年度計画

事業成果報告書を作成し、地域住民や関係機関・団体に広く公開する。さらに、本学自己点検評価委員会による自己点検評価と本学が依頼した 3 名の外部評価委員による外部評価により、本事業の進捗状況について評価を得るとともに、次年度の事業実施計画を検討する。

② 成果

平成 28 年 2 月 24 日、本学会議室にて外部評価委員会を開催した。出席者と議事は以下の通りである。

◎ 外部評価委員会 議事

日時：平成 28 年 2 月 24 日（水） 14：00～16：00

場所：和歌山信愛女子短期大学 大会議室

出席

○外部評価委員

久留米信愛女学院短期大学学長

関 聡

和歌山大学地域連携・生涯学習センター副センター長

村田 和子

近畿大学生物理工学部食品安全工学科教授

泉 秀実

○和歌山信愛女子短期大学

副学長

大山 輝光

教務部長・きょう育の和センター長

芝田 史仁

きょう育の和副センター長

森下 順子

センター委員

事務長

塩崎 増仁

生活文化学科長

千森 督子

食物栄養専攻主任

堺 みどり

入試部長

伊藤 宏

保育科准教授

小笠原 眞弓

食物栄養専攻准教授

西出 充徳

欠席

保育科科长

森崎 陽子

副事務長

郭 安紀彦

議事

1. 挨拶 大山

2. 外部評価委員の紹介 森下
3. 事業成果説明 芝田

以下の事業について説明する。

<教育>

1. 新基礎教養科目（『紀の国わかやまと世界』）を含む4領域
2. 『子育て・子育てサポーター』養成講座
3. 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラム
4. 和歌山地域を志向した地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』
（補足）大山：2月から移動図書館を実施している。

<研究>

5. 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究
6. 『共育の輪』専用ポータルサイトの運用
7. 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究と『地域志向教育研究奨励金制度』の運用
（補足）芝田：報告書について、3月15日が最終報告であるため、現時点では中間報告にとどめる。
（補足）大山：中間報告書について、解像度が低く読み辛いページがあるため、確認が必要であればデータを用意する。

<社会貢献>

8. 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業の実施
（補足）芝田：学生用子育て広場・木のおうち利用者アンケートに関して、利用していない学生含む、全学学生にアンケートを取った。
9. 『母親の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』の実施
10. 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』の実施
11. ミニシンポジウムの開催

<全体>

12. SD・FD 合同研修会
13. 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』の開催
14. 広報活動
15. 事業改善のため、COC 選定大学視察の実施（聖徳大学短期大学部）
16. 事業の進捗状況に関するアンケート調査の実施
17. 自己点検評価委員会による自己点検評価ならびに外部評価委員会による外部評価の実施・報告書作成

<予算実績について>

4. 質疑応答

③ 自己評価

外部評価を実施することで、本事業が適正に推進されていることを確認することができた。また、外部評価委員の助言を基に、次年度の事業計画を見直すことが可能になった。

資料（協定書・規程等）

◎ 協定書① 和歌山市との協定書

子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう（教・共・郷）育の和」に係る協定書

（趣旨）

第1条 和歌山市（以下「甲」という。）と和歌山信愛女子短期大学（以下「乙」という。）は、学生教育を含む長期的な視野に立つ子育て支援を主軸とした地域活性化を目指し、緊密な連携・協力体制を構築することに合意し、次のとおり協定を締結する。

（取組事項）

第2条 甲及び乙は、子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう育の和」（以下「事業」という。）を連携協力して実施する。

2 事業として次の各号に掲げる事項に取り組む。

- (1) 子育て・子育て支援拠点「きょう育の森」の運営
- (2) 和歌山市内で活動する子育て支援に関する支援団体間のネットワーク構築
- (3) 事業の広報啓発活動
- (4) アンケート調査等による地域の子育てに関する情報収集

（連携協議会）

第3条 前条に掲げる事項の円滑な推進を図るため、連絡協議会を設置し、事務局については、乙に置くこととする。

（役割分担）

第4条 事業の実施に関する役割分担については、甲乙協議して定めることとする。

（協定の有効期間）

第5条 この協定の有効期間は、協定の締結日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲乙のいずれからも書面による改廃の申入れがない場合は、更に1年間更新することとし、その後も同様とする。

（補足）

第6条 この協定に定めるもののほか、細目に関する事項については、甲乙協議して定めることとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じた場合は、甲乙協議して解決を図ることとする。

この協定書は、2通作成し、甲乙双方が各1通を保有する。

平成26年 2月10日

（甲）和歌山市七番丁23番地

和歌山市
和歌山市長

大橋建 

（乙）和歌山市相坂702番2

和歌山信愛女子短期大学
学長

小山 

◎ 協定書② 和歌山県福祉保健部との協定書

別記

○ 地（知）の拠点事業
 「地（知）の拠点事業」とは、大学等が自由体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める事業であり、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

○ 子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう育の和」
 事業の概要
 本事業の全体の目的は、和歌山を子育てしやすく、住みよい『和（なごみ）の街 和歌山』として活性化することであり、具体的には以下の通りです。

- ③ 「きょう育の和」の実現
- 教育：子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する。
 - 共育：地域が共に子育てに関わる社会を育む。
 - 教育：教育から共育、そして子育てへ、この世代間の連携による地域活性化を目指す。

- 取り組み
- 教育
 - 和歌山の地域の課題に取り組み、和歌山県独自の新領域「紀の国わかやまと世界」の創設により、世界に広がる和歌山の特色を理解し、県民としての責任感と郷土愛に並れた人材を育成します。
 - 和歌山県と連携して、並目の認定資格「子育て・子育てサポーター」養成講座を開催し、子育て当事者の「子育て」と「仕事」の両面を支えることが出来る人材を育成します。
 - 子育て・子育て支援拠点「きょう育の和」と連携した実践的教育プログラムで、現場で即戦力となる人材を育成します。
 - 研究
 - 地域の子育て支援に関わる個人・団体を繋げる子育て・子育てネットワーク「共育の地」形成に向けた研究を行います。これにより、子育て・子育て支援に関わる個人・団体の垣と壁の繋がりを組織化を図り、各機関が連携した研究・支援事業を促進します。
 - 子育て・子育て支援拠点としての和歌山を対象とした学際横断的研究を促進します。
 - 社会貢献
 - 和歌山市と連携し、市内に無い豊かな自然環境と一部施設を利用した子育て・子育て支援拠点「きょう育の和」を創設し、子育て支援活動を行います。
 - 保育士資格、幼稚園教諭免許、または栄養士資格を保持し、現場への道を考えられている方を対象に、学び直し の機会を提供し支援します。

子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう育の和」に関する協定書

和歌山県福祉保健部（以下「甲」という。）と和歌山県愛媛女子短期大学（以下「乙」という。）は、乙が別記のとおり実施する、子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業「きょう育の和」（以下「地（知）の拠点事業」という。）について、互いに連携・協力して実施するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）
 第1条 この協定は、乙が実施する「地（知）の拠点事業」について、相互の緊密な連携と協力体制を構築することにより、子育て支援に関わる人材を育成し、子育て支援の向上を図ること、子育て家庭に安心な街づくりや地域の再生、活性化に寄与することを目的とする。

（連携・協力事項）
 第2条 甲と乙は、次に掲げる事項について連携し、協力するものとする。

- （1）乙が実施する認定資格「子育て・子育てサポーター」養成講座の基礎講座となる「地域子育て・子育て支援論」のキャリアプログラム編成及び実施
 （2）子ども・子育て支援事業（ファミリー・サポート・センター事業等）の従事者の人材育成
 （3）地域型保育事業（小規模保育、事業所内保育、家庭的保育、居宅訪問型保育）の従事者の人材育成
 （4）保育士資格又は幼稚園教諭免許を保持し、現場復帰を図る学び直しの機会の提供
 （5）保育士資格又は幼稚園教諭免許の取得特例制度への対応
 （6）子育て支援に関わる行政、大学、NPO、専門機関、地域、子育て当事者等のネットワーク構築支援
 （7）地域における子育て支援の情報収集と情報共有等

（有効期間）
 第3条 甲と乙は、連携・協力に関して、相互に協議、情報交換等を実施するため、連携協議会を開催する。

第4条 この協定書の有効期間は、その締結の日から1年間とする。ただし、有効期間満了の日の30日前までに甲、乙が別段の意思表示をしない場合は、同一の条件で更に1年間更新されるものとし、以後も同様とする。

（その他）
 第5条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関して疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定する。

この協定の証として、この協定2通を作成し、甲乙それぞれ記名押印の上、各自その1通を保有するものとする。
 平成27年 1月29日

甲 和歌山県福祉保健部長 中川 伸也
 乙 和歌山県愛媛女子短期大学長 森田 登志子

◎ 規程等（組織）

きょう（教・共・郷）育の和センター規程

（設置）

第1条 和歌山信愛女子短期大学に『きょう（教・共・郷）育の和センター』（以下「センター」）を置く。

2 センターの部屋は大学内に設置する。

（目的）

第2条 センターは以下のことを目的とする。

- （1）教育の拠点として、和歌山地域を志向した教育の充実に努める。さらに、子育て・子育てに関わる行政、専門機関、子育て当事者、学生、大学の学び合いの場を提供する（教育）。
- （2）研究の拠点として、和歌山の自然、文化、生活を対象とした研究活動を奨励する。
- （3）社会貢献の拠点として、子育て当事者、地域、専門機関、NPO・NGO、行政、大学等が共に子育て・子育てに関わる社会を形成する（共育）。
- （4）教育により郷土愛に目覚めた若者が、地域と共に課題に向き合う中で共育社会がうまれる。そして、新たな世代を育む。そんな世代間の循環による地域活性化を目指す（郷育）。

（活動）

第3条 センターは、目的を遂行するため以下の活動を行う。

- （1）地域を志向した教育課程の編成に関する事
- （2）認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座の運営に関する事
- （3）子育て・子育て支援拠点『きょう（教・共・郷）育の森』と連携した実践的教育プログラムに関する事
- （4）子育て・子育て支援に関わる、子育て当事者、地域、専門機関、NPO・NGO、行政、大学等のネットワーク形成に向けた実践的研究と子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』の運営に関する事
- （5）『子育て・子育て環境としての和歌山』を対象とした学科横断的研究に関する事
- （6）『地域志向教育研究奨励金』の運用に関する事
- （7）子育て・子育て支援拠点『きょう（教・共・郷）育の森』の運営に関する事
- （8）母親の再就職支援と潜在保育士・幼稚園教諭や潜在栄養士の学び直し機会

提供活動に関すること

- (9) 子育て講座、子育て・子育て相談に関すること

(スタッフ)

第4条 センターに次のスタッフを置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 委員 5 名（保育科教員 3 名・生活文化学科教員 2 名。ただし、センター長と副センター長は委員を兼務することができる。）
- (4) 事務職員
- (5) この他、学長が必要だと判断した場合、教育・研究・事業・広報等のワーキンググループを設置することができる。
- (6) センター長・副センター長・委員の選任は、専任教員の中から学長が任命する。任期は 1 年とし、再任は妨げない。

(雑則)

第5条 この規程に定めるほか、センターに関する必要な事項は別に定める。

(附則)

- 1 この規程は平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

◎ 規程等（組織）

和歌山信愛女子短期大学
文部科学省 地（知）の拠点整備事業 「きょう育の和」
外部評価委員会設置規定

（設置）

第1条 和歌山信愛女子短期大学（以下「本学」という。）は、文部科学省 地（知）の拠点整備事業「きょう育の和」の事業を適切に推進していくことを目的として、意見交換および評価を受けるため、外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（業務）

第2条 委員会においては、次の各号にあげる項目について評価を行う。

- （1）事業の実施体制
- （2）事業内容
- （3）事業方法
- （4）事業の成果

（組織）

第3条 本学以外の構成員は、次の各号にあげる者とする。

- （1）久留米信愛女学院短期大学 学長
- （2）和歌山大学地域連携・生涯学習センター センター長
- （3）近畿大学 生物理工学部 教授

2 本学の構成員は、次の各号にあげる者とする。

- （1）学長
- （2）学長補佐
- （3）きょう育の和センター長
- （4）きょう育の和副センター長
- （5）その他議長が必要と認めた者

（議長）

第4条 委員会の議長は、学長をもって充てる。

（事務）

第5条 委員会に関する事務は、きょう育の和センター事務局において処理する。

（その他）

第6条 この規定に定めるもののほか、この規定の実施に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

この規定は、平成 26 年 2 月 1 日から実施する。

この規定は、平成 27 年 2 月 1 日から実施する。

◎ 規程等（教育）

和歌山信愛女子短期大学 「子育て・子育てサポーター」資格認定規程

（目 的）

第1条 この規程は、和歌山信愛女子短期大学（以下「本学」）が実施する子育て・子育てサポーター養成課程（以下「養成課程」）を履修し、必要な能力を習得したと認める者に子育て・子育てサポーター（以下「サポーター」）の資格（1級・2級）を認定することに関し、必要な事項を定めるものである。

（養成課程）

第2条 サポーターの資格を取得しようとする者は、以下の要件を満たさなければならない。

- （1）認定資格（1級）においては、本学において次に示す必修科目2単位および別に定める選択必修科目のうち8単位、あわせて10単位以上を修得しなければならない。

必修科目（1科目2単位）（以下「必修科目」という）

地域子育て・子育て支援論（講義） 2単位

選択必修科目（8単位以上）（別表1）

- （2）認定資格（2級）においては、必修科目のみの単位を修得したものとする。

2. 必修科目の内容は、和歌山県福祉保健部との協議を経て別に定めるものとする。

（受講対象者）

第3条 養成課程を受講できる者は、下記各号の1つに該当する者でなければならない。

- （1）本学学生
- （2）本学学則第47条に規定する科目等履修生

（資格認定）

第4条 学長は、養成課程を修了し所定の単位を収めた者に対し、当該資格を認定する。

2. 前項の認定を受けた者には、認定証（別紙）を交付する。

（和歌山県による認定）

第5条 和歌山県は、本養成課程（必修科目）と厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習と同等として認定するものとする。

（活動内容）

第6条 サポーターは、次の支援活動のいずれかを行うことができる。

- *以下（1）～（4）については、実施主体の市町村もしくは実施主体の意向を踏まえるものとする。

- （1）和歌山県内におけるファミリーサポートセンターの提供会員として活動

することができる（ただし、各ファミリーサポートセンターが提供する講習の内容や、本養成課程必修科目の受講状況に応じ、登録前に別途講習を必要とする場合がある）。

- (2) 子育て支援センタースタッフの協力者として参加する。
- (3) 未就園児の集い・つどいの広場・放課後児童事業等へのボランティアスタッフとして参加する。
- (4) その他、和歌山県や県内市町村が提供する子育て支援事業に参加する。
- (5) 本学の『きょう育の森』・『子育てひろば』のスタッフの協力者として参加する。
- (6) 自主活動している子育て支援グループで活動する。
- (7) 子育て支援にかかわる情報提供を促進する。

(守秘義務)

第7条 サポーターは、活動により知り得た保護者等の情報を他に漏らしてはならない。
サポーターの認定を抹消された後も同様とする。

(認定の抹消)

第8条 本規定の趣旨・目的に反する行為があったと判断される場合は、認定を抹消することがある。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は和歌山県福祉保健部との協議を経て、学長が決定する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は別に定める。

(附則)

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

別表Ⅰ 子育て・子育てサポーター認定資格 選択必修科目一覧
 (1級の資格を取得するには、以下の科目より8単位以上修得すること)

| 科・専攻 | 科目名 | 種別 | 単位 |
|------------------|----------------|----|----|
| 保育科 | 保育の心理学Ⅰ | 講義 | 2 |
| | 保育の心理学Ⅱ | 演習 | 1 |
| | 臨床心理学 | 演習 | 2 |
| | 児童家庭福祉 | 講義 | 2 |
| | 保育相談支援 | 演習 | 1 |
| | 家庭支援論 | 講義 | 2 |
| | 子どもの保健Ⅰ | 講義 | 4 |
| 生活文化専攻 生活文化学科 | 住生活論 | 講義 | 2 |
| | 家庭経営学 | 講義 | 2 |
| | 情報コミュニケーション論 | 講義 | 2 |
| | 情報メディア論 | 講義 | 2 |
| | 秘書学概論Ⅰ | 講義 | 2 |
| | 事務管理 | 講義 | 2 |
| | 簿記Ⅰ | 講義 | 2 |
| | 家庭と福祉 | 講義 | 2 |
| 食物栄養専攻 生活文化学科 | 公衆衛生概論 | 講義 | 2 |
| | 社会福祉概論 | 講義 | 2 |
| | 食品学Ⅱ(各論) | 講義 | 2 |
| | 食品衛生学 | 講義 | 2 |
| | 栄養学概論 | 講義 | 2 |
| | ライフステージ栄養学(各論) | 講義 | 2 |
| | 栄養指導論Ⅱ(応用) | 講義 | 2 |
| | 調理学 | 講義 | 2 |
| | 健康管理概論 | 講義 | 2 |

子育て・子育てサポーター認定証様式（表面）



子育て・子育てサポーター

認定証

認定登録番号 第〇〇号

〇〇 〇〇 殿

〇〇〇〇年〇月〇日生

あなたは、本学「子育て・子育てサポーター」資格認定規程に基づく講座を修了し、所定の単位を修められたので、本学公認「子育て・子育てサポーター（〇級）」として認定します。

〇〇〇〇年〇月〇日

和歌山信愛女子短期大学

学長 〇〇 〇〇 印

子育て・子育てサポーター認定証様式（裏面）

本認定資格を有する者は、「厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習」と同等の内容（和歌山県が認定）を下記の通り受講したことを証明する。

記

| 国の示す項目及び時間数 | | 本学での受講時間 |
|--------------|-----|----------|
| 保育の心 | 2時間 | |
| 心の発達とその問題 | 4時間 | |
| 身体の発育と病気 | 2時間 | |
| 小児看護の基礎知識 | 4時間 | |
| 安全・事故 | 2時間 | |
| 子どもの世話 | 2時間 | |
| 子どもの遊び | 2時間 | |
| 子どもの栄養と食生活 | 3時間 | |
| 事業の円滑に進めるために | 3時間 | |

以上

◎ 規程等（教育）

「地域子育て・子育て支援論」 シラバスとファミリーサポーター研修対照表

| 対応 | 国の示す項目及び時間数 | | 信愛 |
|----|-------------------------|-------------|---------------|
| A | 保育の心 | 2時間 | 1.5時間 |
| B | 心の発達とその問題 | 4時間 | 4時間 |
| C | 身体の発達と病気 | 2時間 | 2時間 |
| D | 小児看護の基礎知識 | 4時間 | 4時間 |
| E | 安全・事故 | 2時間 | 2時間 |
| F | 子どもの世話 | 2時間 | 2時間 |
| G | 子どもの遊び | 2時間 | 1.5時間 |
| H | 子どもの栄養と食生活 | 3時間 | 3時間 |
| I | 事業の円滑に進めるために | 3時間 | 1.5時間 |
| 信愛 | 子育てをめぐる現状と取り組み | | 1時間 |
| | 合計 | 24時間 | 22.5時間 |
| 認定 | ファミリーサポートセンターによる研修(対応I) | | 1.5時間 |
| | ファミリーサポーターになるための研修合計時間数 | | 24.0時間 |

| 回 | 内容 | 時間数 |
|----|--|----------------------|
| 1 | 保育のこころ(子育て・子育てサポーターについて、子育て支援の意義と役割・子どもに寄り添う保育とは) | 1.5時間(A) |
| 2 | ①子育てをめぐる現状と取り組み・課題について(和歌山県・和歌山市)(1時間)、②子どもの世話(0.5時間) | 1.5時間(①1時間+②0.5時間F) |
| 3 | 心の発達とその問題Ⅰ(子どもの健やかな発達について) | 1.5時間(B) |
| 4 | 心の発達とその問題Ⅱ(子どもの発達と発達障がい) | 1.5時間(B) |
| 5 | ①心の発達とその問題Ⅲ(子ども豊かな育ちのための親支援)、②身体の発達と病気 | 1.5時間(①1時間B+②0.5時間C) |
| 6 | 子どもの病気(感染する病気・急を要する病気など) | 1.5時間C |
| 7 | 小児看護の基礎知識Ⅰ(子どもの看護のポイントと家庭での工夫) | 1.5時間D |
| 8 | 小児看護の基礎知識Ⅱ(病院への受診) | 1.5時間D |
| 9 | ①小児看護の基礎知識Ⅲ・②安全と事故対応Ⅰ(緊急の対応と応急処置) | 1.5時間(①1時間D+②0.5時間E) |
| 10 | 安全と事故対応Ⅱ(安全・事故対策) | 1.5時間E |
| 11 | 子どもの世話 | 1.5時間F |
| 12 | 子どもの栄養と食生活Ⅰ | 1.5時間H |
| 13 | 子どもの栄養と食生活Ⅱ | 1.5時間H |
| 14 | 子どもの遊び(絵本の読み聞かせ・おもちゃ・手遊び) | 1.5時間G |
| 15 | 事業を円滑に進めるために(和歌山と子育ての未来・保育サービス充実に向けて) | 1.5時間I |
| | ファミサポさんによる研修:事業を円滑に進めるために(保育サービスを提供するために)ファミリーサポーターの制度 | 1.5時間I |

◎ 規程等（教育）



子 第 1 1 2 0 号
平成 27 年 3 月 31 日

信愛女子短期大学
学長 森田 登志子 様

和歌山県福祉保健部長



「地域子育て・子育て支援論」のカリキュラム策定に伴う県の認定について

平成 27 年 3 月 31 日付け和信短 38 号で依頼のあった標記については、「地域子育て・子育て支援論」のカリキュラムと、国が示すファミリー・サポート・センター事業のカリキュラムの内容が同等であると認めます。

また、地域子育て・子育てサポーター認定証裏面への（和歌山県が認定）との表記についても、これを承認します。

◎ 規程（教育）

和歌山信愛女子短期大学 『子育て・子育てサポーター養成講座』 科目等履修生授業料減免規程

（目 的）

第1条 本規程は、社会人による学びの機会促進のため、和歌山信愛女子短期大学（以下「本学」という）の学則第47条に規定する科目等履修生制度に基づく「子育て・子育てサポーター養成講座（以下「養成講座」という）」授業料の減免について、必要事項を規定するものである。

（減免額）

第2条 減免額は、別に定める本学科目等履修生規程に基づく授業料の半額とする。

（減免人数）

第3条 本養成講座履修生の定員は、当該科目の性格、受講者の状況によって決定するものとし、減免人数もこれに従う。

（減免の申請）

第4条 授業料の減免を希望する者は、本養成講座申込書に必要事項を記入し、学期開始1ヶ月前までに提出するものとする。

（減免者の選考）

第5条 減免者の選考は、書類審査と面接によって行い、その結果を教授会が審査し、理事長がこれを許可するものとする。

2 特別の授業経費については、その都度定める。

（規程の改廃）

第6条 この規程の改廃は教授会の議を経て、理事長が決定する。

附則

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

◎ 規程（研究）

『地域志向教育研究奨励金制度』による 和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター教育研究助成規程

（目的）

第1条 和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター教育研究助成（以下「教育研究助成」）は、地（知）の拠点整備事業に係る助成の一環であり、和歌山信愛女子短期大学（以下「本学」という。）において和歌山の自然、文化、生活を対象とした学術研究を行っている者に対し助成を行うことにより、本学の持つ教育力を中心とした知的資産や人的資産などの高度化を図り、同時に本学が地域と共に地域の課題に向き合い、地域の活性化に寄与することを目的とする。

（受給資格）

第2条 助成を受けることのできる者（グループ研究の場合は、そのグループの代表者）は、本学専任教員で教育・研究・社会貢献を地域志向に改革しようとする者とし、他から類似の経費の助成を受けていない者とする。

（応募）

第3条 助成を希望する者は、別途定める募集要項に基づき和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター教育研究助成申請書（別紙様式）により応募するものとする。

（助成）

第4条 選定人数・支給金額は、毎年度予算の範囲内で定められ、募集要項に上限を定める。

（諮問）

第5条 学長は申請のあった者の選考に際し、和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター選定委員会（以下「委員会」という。）に諮問するものとする。

（選考）

第6条 学長は、委員会の答申に基づき選考するものとする。

（研究成果の公表）

第7条 この助成を受けた者は、当該年度もしくは翌年度中に教育研究の成果を関連学会や本学の紀要などで発表するものとし、活動及び改革状況に関する成果等を提出するものとする。

（経費の執行）

第8条 教育研究助成の経費執行に関しては、大学改革推進等補助金取扱要領に準じるものとし、当該年度2月末までに執行するものとする。

（取り消し又は返還）

第9条 次の各号に該当する場合には、学長は交付の決定の取り消し、その返還を命ずることができるものとする。

- ① 教育研究を中止した場合
- ② 教育研究成果を上げる見込みがなくなった場合
- ③ 明らかに教育研究の目的に反するような使用をした場合

附 則

- 1 この規程は、平成26年1月15日から適用する。

◎ 規程（社会貢献）

和歌山信愛女子短期大学『きょう（教・共・郷）育の森』運営規程

（設置）

第1条 和歌山信愛女子短期大学（以下、本学）は和歌山市と連携し、大学内に子育て・子育て支援拠点『きょう（教・共・郷）育の森』（以下、きょう育の森）を設置する。

（目的）

第2条 少子化や核家族化の進行、地域社会の変化などにより、家庭や地域における子育て機能が低下し、さらに子育て中の親の孤独感や不安感が増大している。これに対応するため、本学の豊かな自然環境と施設の一部からなる『きょう育の森』を、大学、学生、行政、NPO・NGO、専門機関、地域、子育て当事者が共に子育て・子育てについて『学び合う場』とし、『人と人とが繋がる拠点』とする。この教育・研究・社会貢献が融合した拠点において、学生が保護者や子ども達と関わることで、地域の現状や課題に気づいて、解決に向けて努力できる人材育成を目指す。さらに、地域において子育て親子の交流等を促進し、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的とする。

（活動）

第3条 きょう育の森では、親子と学生が集える「子育て・子育て支援を主軸とした教育・研究・社会貢献の拠点」としての活動をつぎの通り行う。

- （1）親子・学生の交流と学び合いの場の提供・促進
- （2）子育て等に関する相談、援助
- （3）子育て・子育て支援に関する研究等
- （4）子育て及び子育て支援に関する講習等
- （5）地域の子育て関連情報の提供

（事業）

第4条 本学の『きょう育の森』は以下の2事業からなる。

『ふれ愛ルーム 木のおうち』

開放型の子育て・子育て支援と教育・研究の場

『信愛子育て広場』

プログラム提供型の子育て・子育て支援と教育・研究の場

（開館日と時間・閉館日）

第5条 開館日と時間は、以下の通りとする

『木のおうち』 毎週月曜日と水曜日

10時から15時まで

『信愛子育て広場』 毎月1回 土曜日

10時から12時まで

ただし、祝日及び、本学創立記念日（11月12日）、クリスマス（12月25日）、本学夏期（8月13日～15日）・冬期（12月30日～1月5日）休暇中、試験期間は閉館日とする。
このほか、学長は必要に応じて、臨時に閉館日を設けることができる。

（職員）

第6条 きょう育の森に次の職員を置く。

- （1）きょう育の和センター長
- （2）きょう育の和副センター長
- （3）専任教員
- （4）子育て支援スタッフ（和歌山市保育士）
- （5）きょう育の和センター事務員

（運営）

第7条 きょう育の森の業務並びに運営は、本学『きょう（教・共・郷）育の和センター』が行う。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は和歌山市長との協議を経て、学長が決定する。

（雑則）

第9条 この規程に定めるもののほか、『きょう育の森』の運営に関する必要な事項は、別に定める。

（附則）

この規程は平成27年4月1日から施行する。

◎ 規程（社会貢献）

『森の広場 のびのび』利用規程

この利用規程は和歌山信愛女子短期大学（以下本学）が管理を行う『森の広場 のびのび』の利用条件を定めるものです。

第1条 自己責任の原則

本林は自然林です。林内には、落ち葉などで滑りやすくなっている場所や、倒木など危険な場所もあります。また、有毒生物（マムシ、ヤマカガシ等の毒ヘビ類、スズメバチや毛虫、ムカデなど）も生息しています。本林の利用は自己責任でお願いします。特に、就学前のお子様につきましては目を離さず、必ず保護者同伴の上、安全に注意してご利用ください。本林内で起こった事故・トラブル等について本学は一切責任を負いませんので、ご了承ください。

第2条 注意・禁止事項

- ① 林内での喫煙は禁止します。
- ② 林内へのペット類の連れ込みを禁止します。
- ③ 利用の際に出たゴミ等は各自お持ち帰りください。
- ④ 上記各号の他、法令、または利用規約に違反する行為、公序良俗に違反する行為、本学の運営を妨害する行為、他の利用者などの第三者に対して妨害・不利益を与える行為を禁止します。

◎ きょう育の和センター危機管理マニュアル

危機管理マニュアル

和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター

目 次

I 危機的事象発生時における防災対策本部の設置

II 危機的事象発生時における指揮権

III 危機における対応と予防

- 1 災害発生時における予防と対応
- 2 その他自然災害における予防と対応
- 3 事故発生時における予防と対応

別紙1 事故発生時対応のフローチャート

はじめに

このマニュアルは和歌山信愛女子短期大学(以下、大学)きょう育の和センター(以下、センター)における全ての職員が火災、災害、事故・事件等のあらゆる危機に対し、的確かつ迅速に対応又は予防するために必要な事項を定めて、施設利用者(以下、利用者)及び職員らの生命及び健康を守ることを目的とする。

危機の定義と適用

センターにおける危機とは、火災、地震、風水害、その他天災、感染症、交通事故、その他の事故、事件等において、利用者及び職員らに対して安全を脅かす全ての事象を対象とする。その範囲は、センターの全ての職員に対し、施設及び敷地内で、管理の有無及び時間帯を問わず、危機的状況が発生した場合は、全ての利用者の安全が確保されるまで、このマニュアルを最大限に優先し適用する。

I 危機的事象発生時における防災対策本部の設置

危機発生時には学長を本部長とする防災本部を設置し、危機的事象への対応及び職員・利用者への指示を行うものとする。

II 危機的事象発生時における指揮権

危機発生時において的確な命令を指示する指揮権者の存在は絶対的に必要なことであり、指揮権者が不在の場合の代行者を日常から選任しておく必要がある。選任された者はこのマニュアルに基づき、利用者及び職員らの生命の保全を最大の目的として指揮しなければならない。

指揮権の順位としては、次の各号の通りとする。

- ① 学長（防災本部長）
- ② 学長補佐
- ③ センター長
- ④ 副センター長
- ⑤ 事務員

指揮権者は生命の安全を最大の目的とし、このマニュアルに記載の対応を規範に、的確な指示を職員に伝えること

III 危機における対応と予防

1 災害発生時における予防と対応

A 予防(事前の環境整備)

センター職員は、大規模地震・火災等災害発生時において、利用者の生命を守るため、適切な手段等を一人一人が普段から身につけておく必要がある。そのためには、いつ災害が発生しても適切な対応ができるように環境を整えておくことが大切である。

① 避難訓練

(1) 災害を想定した訓練を実施する。

- (2) 緊急避難訓練を実施する。(大学が指定する避難場所への避難など。)
- (3) 安全確認訓練を実施する。(職員が利用者の人数・安全確認を行う。)
- (4) 消火訓練を実施する。(初期消火・消火器・消火栓の取扱いなど。)
- (5) 非常用器具等の使用方法を習得する。
- (6) 火災報知設備及び非常ベル、非常通報装置の使用方法を習得する。
- (7) 災害発生時における各職員の役割分担を確認する。

② 施設設備の点検等

- (1) 地震時に転倒しやすい家具・電化製品・備品などに対して、転倒防止措置を行う。
- (2) 出火した時に備え、消火器の所在を確認しておくと共に、正しい使用方法を習得し使用できるようにする。
- (3) 避難経路に障害物等がないことを、普段から確認しておく。
- (4) 防火責任者は、責任をもって日常の点検と整備をきちんと行う。
- (5) 職員は、日常の環境を整備しておく。
- (6) 職員は、日頃より避難経路を把握しておく。

B 災害発生時の対応

① 地震発生時の対応

- (1) 職員は、利用者に安心できるような言葉をかけ、具体的に姿勢を低くして落下物から身を守るよう指示する。
- (2) 職員は、窓ガラス・遊具、その他倒れやすいものから、利用者を遠ざける。
- (3) 職員はできるだけ、速やかに戸やサッシ等を開けて、避難口を確保する。
- (4) 利用者及び職員は、机などの下に身を隠し、揺れが収まるまで様子を見る。
- (5) 職員は、揺れが収まってから配電盤を点検し安全を確認する。

もし、施設内において火災が発生した場合は、センター長を経て、防災本部長である学長に報告すると共に、消火活動を行う。

- (6) 揺れが収まった時点で、職員は直ちに利用者の安全の応援態勢に入り、利用者を安全に避難させる。

② 避難誘導

- (1) 非常ベルがなった際は、非常放送による指示があるまで、職員は利用者と共にその場に待機する。
- (2) 非常放送により避難が指示された場合は、職員は非常放送の指示に従い、所定の避難場所へ利用者を誘導しつつ避難する。避難後、利用者と職員の安全と人数の確認を行い、防災本部長である学長へ報告する。
- (3) 避難時は、利用者を安全に誘導できるように、列を維持しながら前後にできるだけ複数の職員を配置して移動する。また、避難する際は、乳幼児等の安全確保を第一とする。
- (4) 介助を必要とする乳幼児については、おぶったり抱いたりして、安全な場所に避難させる。
- (5) 職員は、落ち着いて行動することを心がけ利用者に動揺を与えないように努める。

③ 乳幼児の保護及び引き渡し

- (1) 災害発生時、保護者が乳幼児と共に避難することが困難な場合、保護者等が引き取りに来るまで、乳幼児を職員と共に大学が指定する避難場所に避難させる。
- (2) 乳幼児の引き渡しは、職員が十分確認の上、行う。

2 その他の自然災害における予防と対応

A 風水害及び台風

① 開館中に風水害及び台風が接近した場合

- (1) 強風や大雨の際は、乳幼児が落ち着けるように配慮する。
- (2) 閉館の処置をとり、利用者に対し速やかな帰宅を促す。

② 開館前に風水害及び台風が接近した場合

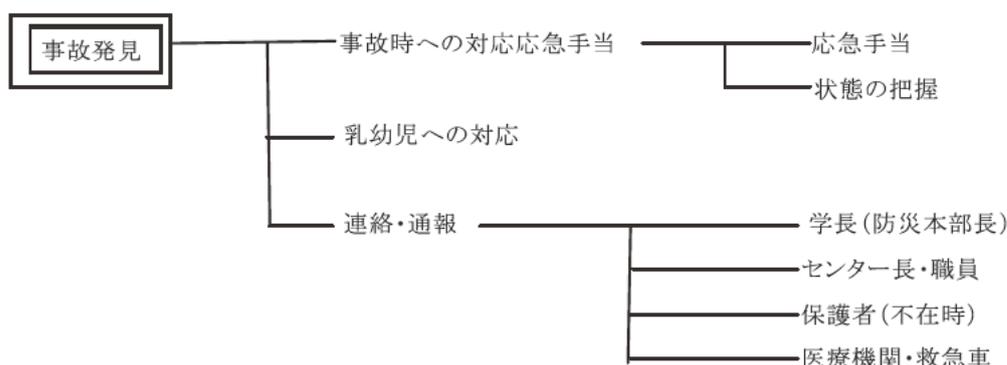
- (1) 和歌山市において大雨・洪水・暴風の気象警報発令時には、閉館とする。
- (2) 利用者が来館した場合は、閉館した旨を伝え、安全に配慮しつつ速やかな帰宅を促す。

3 事故発生時における予防と対応

乳幼児の事故は、発育発達と関連するものが多く、十分な予防や対策を実施すれば大部分は防止可能である。また、センターが地域の子育て支援の拠点として、乳幼児の保護者に対して事故防止を啓発・教育することも重要な役割であり、乳幼児を扱う全ての職員が連携し、事故防止に努める必要がある。そのためにも職員は、事故発生時に備えて応急手当や適切な事故対応・保護者対応を身につけておくことが大切である。また、AEDの設置場所の確認や、使用方法(小児用パッドあり)の習得を心がける。

A 事故発生時の対応

① 事故発生時の基本的な流れ



② 事故発生時の対応

- (1) センター長は事故の状況を速やかに把握し、記録する。
 - ア 事故の状況・原因・場所・時間
 - イ 乳幼児の状態(出血や打撲の有無・顔色・全身の状態)

ウ 事実に基づいた記録を残しておく。(とりあえず、メモ・走り書きでよい。)

(1) 学長(防災本部長)へ報告する。

(2) 協力者・応援者を求める

ア 必要処置の判断は、単独で行わない。

イ 日頃から、連絡の分担など対応の仕方を確認する。

(3) 下記のような症状の場合は、救急車を要請し、すぐに医療機関に受診する。

ア 意識がもうろうとしたり、うとうとしている。

イ 顔色が悪く、ぐったりとしている。

ウ けいれん、ひきつけを起こしている。

エ 出血が止まらない。

オ 吐き気や嘔吐を繰り返している。

カ 化学物質を誤飲した。

キ 熱傷や火傷の面積が広い。

* 救急車を要請するときの手順

救急車の要請 ⇒ 守衛・事務に連絡 ⇒ 救急車を誘導する教職員の配置

⇒ 保護者が付き添えない時は、乳幼児の情報(氏名・生年月日・住所・電話番号など)を救急隊に伝える。

(4) 職員は、事故の状況や救急隊から言われることを保護者に伝える。

(5) 保護者には、いかなる状況の事故であっても、学内で発生した事故である以上は、細心の注意と誠意をもって対応する。

(6) センター長は、事故後速やかに事故報告書を作成し、事故発生の状況分析を行う。さらに速やかに今後の事故防止対策及びより高度な対応について全職員で確認する。

B 事故対応計画

センター長は、事前に事故に対する計画を策定して職員に周知し、適宜内容を見直さなければならない。

① 事前情報収集

(1) センター長は、大学近隣に所在する医療機関等の診療内容や診療時間等の詳細な情報を収集し、職員に周知する。

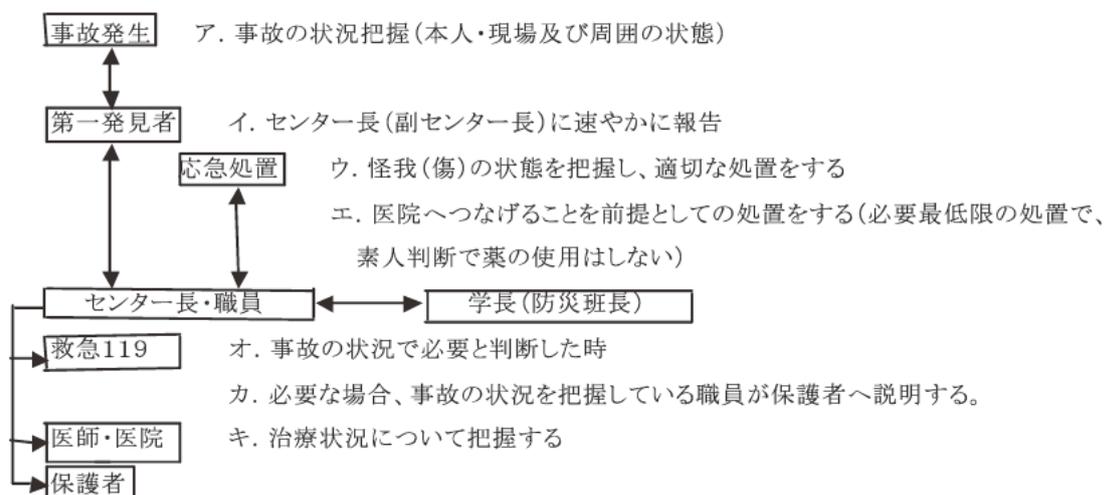
(2) センター長は、日常の学内の施設・遊具・森林等においてあらゆる事故を想定し、その危険を取り除く方策を講じなければならない。

② 事故発生時対応フローチャート

(1) センター長は、事故発生時の対応をわかりやすくフローチャート(別紙1参照)にしたものを作成し、全職員に周知徹底を図らなければならない。

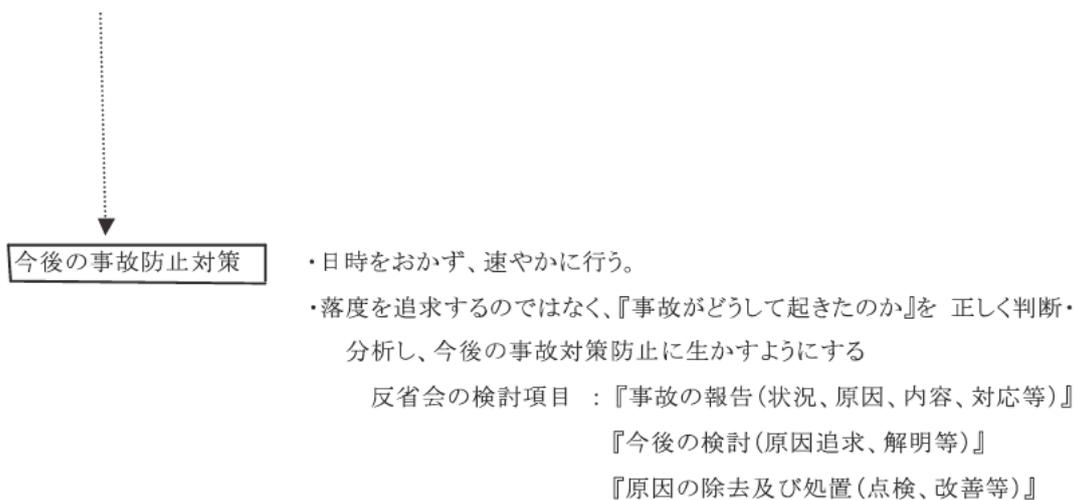
別紙1

事故発生時対応フローチャート



* 近隣の医療機関

稲田病院
 向陽病院
 山東整形外科
 和歌山県立医科大学付属病院
 日赤和歌山医療センター など



平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」
子育て支援を主軸とした地(知)の拠点事業
「きょう育の和」
平成27年度 成果報告書

平成28年3月発行

編集・発行 和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター

〒640-0341 和歌山市相坂702番2

TEL 073-479-1106 FAX 073-479-1107

URL <http://www.shinai-u.ac.jp/>

